

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ、
十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:ゲラリー・J・コルマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト
編集ディレクター:ピクター・D・ケープ

主任編集者:ラリー・ヒラー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン
編集補佐:スザン・バレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・A・エドワーズ、ラリーン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスチャー
マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ
デザイン/制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オース、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジンナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック
配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。 アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ロトリア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada: June 2008 no. 6 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一 般

- 2 大管長会メッセージ——勧告の中に安全を見いだす
ヘンリー・B・アイリング管長
8 モルモン書の実 リチャード・G・ヒンクレー長老
10 群れを養う——青少年に指導力を身に付けさせる
ディーター・F・ウークトドルフ管長
M・ラッセル・バラード長老
20 聖くなるために時間を取る アダム・C・オルソン
25 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストの福音は、
前世が確かに存在することを教えている



39 心の変化を経験する



20 聖くなるために時間を取る

- 34 癒しにおける霊的な要素
アレクサンダー・B・モリソン長老
39 モルモン書からの教訓——心の変化を経験する
キース・K・ヒルビッグ長老
44 末日聖徒の声
わたしが教会を好きな一番の理由
イザベル・アルパート
給料日まで1週間 ジュリー・C・ドナルドソン
モルモン書はどこに行けば手に入りますか?
カーティス・クラインマン
子供たちの祈り
ビルジニア・アウグスタ・デ・パドゥア・リマ・ペレイラ

表紙
写真/アダム・C・オルソン

「フレンド」表紙
絵/ブランドン・ドーマン

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることが出来ます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。
「聖くなるために時間を取る」20ページ——
以下の活動を行って、より大切な事柄のために時間を取るという考え方を教えましょう。空の容器と砂、小石、石を家族に見せます。容器の中に砂を入れ、次に小石、次に石を入れます(この時点ですべての石が入り切らないよう前もって量を決めておく)。ここで、最も大切な事柄



を優先できるように時間の使い方を計画しなければならないと説明します。もう一度行います。今度は最初に石を入れ、空いている所に小石と砂を入れます。記事を用いて、わたしたちの生活の中の「石」、つまり優先事項は何かについて、またそのために時間を取る方法について話し合しましょう。

「召しを通して成長する」28ページ——「証(あかし)についての教訓」の項を声に出して読みます。ソアレス長老がどのようにして証を得たか、また、その証が福音の標準に従って生活す

こんげつごう
 今月号のどこかに隠れている
 カンボジア語のCTRリングを捜しながら、
 正義を選ぶことが
 神殿へ入る準備をするのに
 どのように役立つか考えてみましょう。



青少年

- 16 未来への鍵
キンバリー・リード
- 26 質疑応答——たった一度アルコールやたばこを
試してみることにどんな害があるのでしょうか。
- 28 召しを通して成長する ユリシス・ソアレス長老
- 32 自分のゴリアテに打ち勝つ
- 48 御存じでしたか？

フレンド

- F2 預言者の声——最初の示現
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- F4 分かち合いの時間——
そなえをはじめよう、すぐにはじめよう
リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——
金ばんをうけとる
- F8 神への信仰 中央初等協会会長会
- F11 わたしのふくいんのひょうじゅん、組み合わせゲーム
- F12 おもちゃばこ——何かかくれているのかな
- F13 ブラジルで着る最高の服 ネーサン・N・ウェート
- F14 たった一日だけでなく ウェンディー・エリソン
- F16 色をぬりましょう

32

自分の
ゴリアテに
打ち勝つ



16 未来への鍵



F12 おもちゃばこ



F8 神への信仰

るうえでどのような助けとなったかについて話し合います。証を強めるためにできる事柄を幾つか挙げます。証は福音を实践するうえでどのように役立つでしょうか。

「心の変化を経験する」 39ページ——ハート形の紙に、「信仰」「義」「愛」「世に打ち勝つ」と書きます(「再び生まれることがもたらす祝福」の項を参照)。家族の一人一人が心の変化を経験するうえで、この4つの各原則がどのように役立つかについて話し合います。イバンの話をして、この心の変化がどのように起こるかを紹介します。ハートの紙の裏に、これらの原則を实践するために家族ができる事

柄を書き出しましょう。

「神への信仰」 F8ページ——家族に片方の手だけで靴のひもを結ぶように言います。なぜ難しいかを話し合います。今度は、お互いの靴のひもを結ぶように言います。協力するとどうして前よりも簡単にできるようになるかについて話し合います。記事を読み、協力して神への信仰プログラムを修了できるよう努力するときに、神を信じる信仰がどのように強められるかについて話し合います。今週、『神への信仰』ガイドブックの中から協力してできる活動の一つを選び、行ってみましょう。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	従順, 2, 20, 26
あかし 証, 8, 28	初等協会, F4, F8
あがな 贖い, 34	神権, 16, 28, 34
安全, 2	信仰, 2, 20, 34
安息日, F13	神殿, F4, F14, F16
イエス・キリスト, 25, 34	スミス, ジョセフ, F2, F6
祈り, 47	聖餐, 44
いや 癒し, 34	青少年, 10, 28
教える, 1, 10, 28	前世, 25
改宗・改心, 39	選択の自由, 26
家族, 10, F14	ダビデとゴリアテ, 32
神への信仰プログラム, F4, F8, F11	知恵の言葉, 26
きよ 聖め, 20	伝道活動, 16, 39, 46
困難を乗り越える, 32, 47	標準, F11, F13
慈愛, 44, 45	服装, 16, F13
時間管理, 20	召し, 10, 28
指導力, 10, 48	モルモン書, 8, 46, F6
	優先順位, 20



から逃れる道を教える警告の声が発せられています。そうした警告の声を聞き分ける鍵の一つは、警告は繰り返されるといふ点です。例えば総大会において、わたしたちの預言者が前任の預言者の言葉を引用して第2の、時には第3の証人となるのを皆さんは一度ならず耳にしていることでしょう。今の若い人や子供を除き、わたしたち一人一人は、母親が家庭にいることの大切さについて述べたスペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)の勧告を聞きました。そしてエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994年)がそれを引用し、さらにゴードン・B・ヒンクレイ大管長がその両方を引用しました。³

使徒パウロはこう書いています。「すべての事からは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2コリント 13:1) 与えられた警告が主からのものかどうかを知る一つの方法は、証人の律法、それも権威ある証人の律法にかなっているかどうか考えることです。預言者の言葉が、あることを繰り返し述べていると思われるとき、それはわたしたちの心に深く刻まれるとともに、そのような祝福された時代に生を受けていることへの感謝の気持ちが胸に満ちるのです。

信仰深い人々にとって、預言者の勧告の中に安全への道を求めるのは当然のことです。預言者が語る時、信仰の弱い人々は単に賢人が良いアドバイスを与えていると考えます。ですから、その勧告が心地よく、納得でき、自分の望みに合うようであれば受け入れます。でもそうでない場合は、その勧告は誤りである、または自分の置かれた状況はその勧告には当てはまらなると考えるのです。また信仰のない人は預言者の言葉を、利己的な動機で人に影響を与えようとしているとしか考えないでしょう。そしてコリホルという名の人物がそうであったように、預言者をあざけり、さげすむかもしれません。モルモン書にはこう記されています。「このようにしてあなたがたは、先祖の愚かな言い伝えによって、あなたがたの望むままにこの民を惑わしている。そしてあなたがたは、この民の労苦で飽きるほどに食べようと、まるで奴隷でもあるかのように民を抑圧している。そのため、民はあえて勇気を奮って頭を上げようとせず、またあえて自分たちの権利と特権を享受しようとしぬ。」(アルマ 30:27)

コリホルの論拠は、世の初めから人が用いてきた偽りの論理でした。神の僕の勧告を受け入れれば、神から受けた自主性という特権が奪われてしまうというのです。しかし、この論理は偽りです。現実を誤って伝えているからです。神からの勧告を拒んだとしても、外部の影響に左右されずに自主性を保つという道を選んでいくわけではありません。別の影響力を選んでいくのです。完全な愛を備えた全知全能の御

方である天の御父からの守りを拒んでいるのです。御父は、愛子と同じく、わたしたちに永遠の命を授け、御自身の持つものをすべて与え、主の愛の手に導くことをすべての目的としておられます。主の勧告を拒むとき、わたしたちは別の力から影響を受けることを選びます。その力の目的はわたしたちを惨めにすることであり、その動機は憎しみです。わたしたちには神の賜物である選択の自由が与えられています。しかしこれは、何の影響も受けないという選択をするための権利ではありません。どちらの力であれ、自分が選んだ力に服従するという、だれも奪うことのできない権利なのです。

安全な地に立つ

もう一つの誤った考えは、預言者の勧告を受け入れるか否かの選択を、良いアドバイスを受け入れて得をするか、それとも受け入れずに今の状態にとどまるかという選択と同列にとらえることです。預言者の勧告を受け入れないという選択をすると、自分の立つ土台が変わり、わたしたちは今までよりもっと危険な状態にさらされることになります。預言者の勧告を受け入れなければ、将来与えられる靈感に満ちた勧告を受け入れる力が弱まるのです。ノアと一緒に箱舟を造ろうと決断する最良の時は、最初にノアがそのように求めた時でした。その後は、求められては断ることを繰り返す度に、御霊に対する感受性が失われていきます。そして、繰り返されるノアの警告が次第に愚かしく思えてきたところで雨が降り始めるのです。そのときはもう手遅れです。

人生を振り返ってみると、靈感によって与えられた勧告になかなか従わなかったり、自分は例外だと決めつけてしまったりしたときはいつも、自らを危険にさらしていたことに気づきます。預言者の勧告に耳を傾け、祈りを通してそれが御心であると確信して勧めに従ったときには、自分が安全な方向に向かっていることが分かりました。そのようにしていると、その道が自分のために前もって備えられていて、大変だと思われるような場所も難なく通過できることに気づきます。神はわたしのために愛をもって道を備えてくださり、安全な方向に導いてくださいました。そうした道の中には、かなり前から備えられていたものもあります。

モルモン書の最初の記述は、神の預言者リーハイについてのものです。彼も家族を導く人でした。リーハイは神から、愛する人たちを安全な所に連れて行くように警告されました。このリーハイの経験は、神が僕を通して民に勧告をお与えになることの典型です。リーハイの家族の中で、迫り来る危険、そして安全への道の両方を見ることができたのは、信仰を持



ち、自分で確認の啓示を受けた人たちだけでした。信仰のない人々にとって、荒れ野への旅は愚かな行為というだけでなく危険なものに思えました。リーハイはほかのすべての預言者と同じように、どこに行けば安全が得られるかを、人生の最後まで家族に伝えようとしていました。

リーハイは、救い主が神権の鍵を託した者に対して責任を負ってくださることを知っていました。この神権の鍵によって預言者たちは勧告する力を得、わたしたちに安全に至る道を示すことができるのです。この鍵を授けられた人々は、たとえ自分たちの勧告に従う人がいなくても、絶えず警告の声を上げる義務があります。

その鍵は上から下へ、つまり預言者から次第に教会の小さなグループを管理する人々へと委任され、やがて家族や個人へと至るのです。これは、主がステーキを安全な場所となさる一つの方法です。例えば、ある時わたしと妻は親として、ビショップが招集した親のための集会に出席しました。ビショップが子供たちの直面する霊的な危険について警告しようと開いた集会でした。そこでわたしが聞いたのは、賢い友人の声以上のものでした。鍵を持ったイエス・キリストの僕が、警告を与えるという自らの責任を果たし、行動する責任をわたしたち親に託そうとする声だったのです。鍵を授けられている

人の声に耳を傾け、指示に従うことにより、この神権の系統に属する鍵を尊重すれば、わたしたちはどのような嵐に遭っても流されることのない命綱を得たことになります。

天の御父はわたしたちを愛しておられます。御父は独り子を救い主として遣わしてくださいました。わたしたちがこの世で重大な危険に直面することを御存じでした。最も大きな危険は、狡猾な悪魔の誘惑です。これが、救い主がわたしたちに神権の鍵を授けてくださった理由の一つです。聞く耳を持つ者、従う信仰を持つ者が安全な場所に行けるようにしてくださいました。

聞く耳を持つ

聞く耳を持つには謙虚さが必要です。トーマス・B・マーシュへの主の警告を覚えているでしょうか。彼は当時十二使徒定員会の会長でした。主はマーシュ会長を含む十二使徒の兄弟たちが試されることを御存じでした。そこで、勧告を受け入れることについて勧告をお与えになりました。主はこう述べておられます。「あなたは謙遜けんそんでありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約112:10)

さらに主は、生ける預言者に従おうとするす

アと一緒に
箱舟を造ろうと
決断する
最良の時は、
最初にノアがそのように
求めた時でした。
その後は、
求められては断ることを
繰り返す度に、
御霊みたまに対する感受性が
失われていきました。



リーハイの経験は、
神が
僕を通して
民に勧告を
お与えになることの
典型です。
リーハイの家族の中で、
迫り来る危険と
安全への道の両方
を見ることができたのは、
信仰を持ち、
自分で確認の啓示
を受けた人たちだけ
でした。

べての人に当てはまる警告を与えられました。「自分を高くしてはならない。わたしの僕ジョセフに背いてはならない。まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは彼とともにおり、わたしの手は彼のうえにある。そして、わたしが彼に授け、またあなたがたにも授けた鍵は、わたしが来るまで彼から取り去られることはない。」(教義と聖約112:15)

神がわたしたちに勧告を与えてくださるのは、わたしたちの安全のためだけではありません。わたしたちが愛するべき、主のほかの子供たちのためでもあるのです。人を安全な場所へと導くうえで、自分が神の手に使われる者となったことが分かったときの慰めほど麗しいものはないでしょう。この祝福にあずかるには普通、困難な状況にあっても勧告に従う信仰が要求されます。

教会歴史につづられた一つの例として、レディック・ニュートン・オールレッドの物語があります。彼はウィリー手車隊とマーティン手車隊の救出のためにブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)から派遣された救援隊の一人でした。サウスパス近くのスイトウォーター川のほとりで、ジョージ・グラント隊長はレディック・オールレッドに、数名の男性と何台かの幌馬車とともにその場で待機するよう伝えました。救援隊が手車隊の開拓者を連れて戻って来たときに助けを与えられるようにするためです。

救援隊は、雪に閉じ込められ、凍えるような寒さと餓えに苦しみ、死に瀕したウィリー隊を発見しました。救援隊の一部はマーティン隊の捜索を続け、残りの隊員はウィリー隊がロッキーの分水嶺を越える非常に困難な道のりを助けました。野営の準備を整えてから間もなく、レディック・オールレッドと彼の部隊が、食糧や医療品などの必需品を届けに来ました。

それから、オールレッドはグラント隊長がマーティン隊を連れて戻るのを待ちました。1週間、また1週間と過ぎましたが、一向に姿は見えません。吹雪が激しさを増し、悪天候のため命をも危険にさらすような状態になると、救援隊の中の二人の兄弟が、その場に残るのは愚かなことだと言い始めました。マーティン隊はどこかで越冬しているか、全滅したかのどちらかだと考えたのです。そしてソルトレーク盆地に引き返すことに決め、ほかの人の説得にかかりました。しかし、オールレッドは提案を拒否しました。自分たちがヤング大管長から派遣され、神権指導者であるグラント隊長から待機するように言われていたからです。

帰ることにした隊員たちは数台の幌馬車に必要な物資を積み、ソルトレーク盆地へ引き返し始めました。さらに不幸なことに、ソルトレークから応援に駆けつける途中だった77台の幌馬車も戻らせてしまったのです。ソルトレークへと方向転換した幌馬車のうち数台はビッグ

マウンテンまで戻ってしまいましたが、そこでヤング大管長が送った使者に出会い、再び救出に向かうことになりました。

レディック・オールレッドがウィリー隊を援助してから3週間以上もたった後、ついにグラント隊長がマーティン隊を連れて戻って来ました。マーティン隊の人々はさらに悲惨な状態でした。死者は何十人にも達していました。グラント隊長の率いていた救援隊は小人数で食糧も乏しく、しかもソルトレーク盆地までまだ320キロ以上の距離にいました。このときも、レディック・オールレッドは最も過酷な状況にありながらも任務に忠実だったため、マーティン隊と救援隊に食糧や医療品などの必需品を提供し、命を救うことができたのです。

手を差し伸べる

皆さんは、新しい教会員に手を差し伸べるという靈感に満ちた勧告を神の預言者から聞き、読むことでしょうか。そして、レディック・ニュートン・オールレッドのような信仰を持つ人々は、新会員と親しくなるように努めます。たとえそれが必要でないと思えたり、効果がないと思えたりするようなときでもです。決してあきらめません。新会員が霊的に疲れきったときには、信仰ある会員たちが優しい言葉をかけ、手を差し伸べます。そうすれば、オールレッド兄弟が苦難に遭っている手車隊を発見したときに感じたと同じ、主からの承認を感じることができるでしょう。オールレッド兄弟には、困難なときにも勧告に従うなら人々を安全な場所に導くことができるという確信がありました。

記録にこそ残されていないものの、わたしは、オールレッド兄弟が待っている間に祈りをささげたと信じています。その祈りはこたえられました。そのとき彼は、その場で待機するという勧告が神からのものであったことを知ったのです。わたしたちも、自分が受けた勧告が神からのものであるかを知るために祈らなければなりません。そのような信仰の祈りは必ず聞き届けられることを、わたしは約束します。

時折わたしたちは、十分に祈って考えた後でさえ、受けた勧告が理解できなかつたり、自分には当てはまらないと感じたりすることがあります。そのようなときでも、その勧告をないがしろにせずに、心に留めておくようにしてください。もしだれか信頼する人から、どう見ても砂にしか見えないものを渡されて、金が入っているよと言われたら、賢明な皆さんでしたらそれをしばらく手に持った後、そっとふるいにかけてみることでしょ。わたしは預言者から勧告を聞く度にこれを実践してきました。そしてしばらくすると、金のかげらが見え始めるのです。そのことに感謝しています。

わたしたちは恵まれて、神権の鍵が地上に存在する時代に生を受けています。また恵まれて、わたしたちを安全な場所に集めるとの主の約束を成就する声を、どこで知り、どこで聞けばよいか知っています。わたしたちがへりくだった心を持ち、耳を傾け、祈ることができますように。そして忠実であれば必ず訪れる主の救いを待つことができるように祈っています。■

注

1. フィロ・ディブル, "Early Scenes in Church History," *Four Faith Promoting Classics* (1968年), 90で引用
2. *History of the Church*, 第5巻, 137
3. 例として, *The Teachings of Spencer W. Kimball* (1982年), 327:「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 53:「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 78参照
4. レベッカ・バーソロミュー, レナード・J・アリンソン, *Rescue of the 1856 Handcart Companies* (1992年), 29, 33-34参照

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたがたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. レディック・オールレッドの忠実さを語る話を読む。同じ状況にいたらどのように行動するか家族に尋ねる。わたしたちは預言者に従うことにより、どのように守られるか尋ねる。自分の従順さは周りの人の安全にどう影響するだろうか。

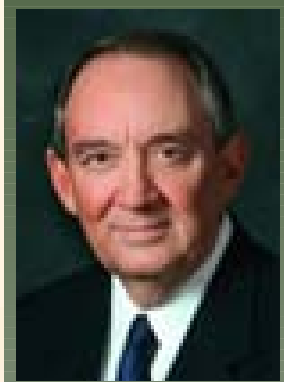
2. 慎み深い服装をする、メディアの中のいかがわしいものを避けるなど、預言者が勧告を与えてきた事柄にどのようにこたえることができるか家族に尋ねる。『若人の強さのために』(アイテム番号36550 300)は、現代のわたしたちが直面する課題の多くについて勧告を与えている。

3. 「預言者の警告」の項の第2段落と一緒に読む。家族に昨年の秋に行われた総大会の内容を振り返るように言う。その中で、二人以上の話者の説教に出てきた福音の原則を紹介するように勧める。わたしたちは恵まれて、御言葉について複数の証人が主が備えてくださっている時代に生きていくことを証する。

モルモン書の実

七十人

リチャード・G・ヒンクレー長老



モルモン書にある
キリストの教義について
深く考え、
生活で応用するとき、
わたしの心の中に
「大きな変化」が
生じます。

モルモン書を読むと必ず何かがかかります。重荷が軽くなります。心配事や不安が消え、疑いが晴れ、代わりに信仰と希望で満たされます。人生が明るくなったように感じるのです。

若いとき、ドイツで宣教師として奉仕しました。伝道を始めてほんの1、2か月というとき、二つの似通った経験をしたのですが、それはモルモン書に対するわたしの証^{あかし}に深い影響を及ぼしました。

ある朝、同僚とともに戸別訪問をしていたとき、有名な教会の牧師の家のドアをたたきました。牧師はわたしたちを招き入れ、テーブルに着くよう勧めてくれました。ところが席に着くやいなや、モルモン書のことを激しく、そして盛んに攻撃し始めたのです。牧師の言っていることはほとんど聞き取れました。争いの心をもって話しているのがはっきりと分かりました。しかし、わたしはドイツ語があまり話せなかったので、うまく返答できませんでした。先輩同僚は強い信仰を持った優れた宣教師でした。彼はただ、モルモン書に対する力強い証を述べました。そしてわたしたちは、席を立てて家を去りました。鼓動が早くなり、少し震えていたと思います。わたしはとても動揺していました。

1、2週間後、街頭で人々に声をかけていると、一人の男性に会いました。後日会うことに同意してくれたので、時間を決め、住所を教えてくださいました。ビュッケブルクという、絵のように美しい小さな町です。わたしたちの住むミンデ

ンの町から数キロ離れていましたが、担当区域内に入っていました。

冬の日曜日の朝でした。約束の日を迎え、わたしたちは自転車に乗り、強くて冷たい向かい風を受けながらペダルをこぎました。寒さに震え、息を切らせながら、アパートの正面玄関にあったベルを押しました。玄関が開き、わたしたちは階段を上ってその人の部屋に向かいました。中へ通されるとすぐに、部屋の中に争いの心が満ちているのに気づきました。数週間前に牧師の家で感じたのと同じ空気です。

男性はわたしたちにいすも勧めず、部屋を出て行くと、すぐに数種類の聖書を抱えて戻って来ました。そして聖書をテーブルの上に投げるように置き、とても大きな声で挑戦するかのようには言いました。「[宗教について]話がしたいんだろう。」そして、窓を指してこうなりました。「いいだろう。だがまずモルモン書をベアザー[川]へ投げ捨ててからだ。」

牧師とのあの経験から数週間がたち、わたしは片言のドイツ語で多少のことは言えるようになっていました。そこで口を開こうとしましたが、ここでもまた、わたしの先輩同僚はただ、モルモン書に対する力強い証を静かに述べ、丁寧な態度で、時間を取ってくれたことへのお礼を言いました。そして、わたしたちはその家を後にしたのです。ミンデンへの帰り道は、追い風を背に受けてペダルをこぎました。

わたしはモルモン書が真実であるという証を持っていました。少なくともその時点ではそ

モルモン書を
読み、
祈り、考え、

めいそう
瞑想しました。

そしてついに、

主はわたしの努力を
祝福してくださいました。

モルモン書についての
あかし
証を得たのです。

以来、この証を

失ったことは

一度もありません。

むしろ年を追うごとに
強く育っています。

う思っていました。しかし立て続けに起こったこの二つの経験の後で、自分の証にはまだ根が張っていなかったこと、そして強さが備わっていなかったことを痛感しました。自分に自信がなくなってしまうました。そして、モルモン書に対する証を力強く、説得力をもって誠実に述べる能力が自分にあるのか分からなくなりました。

もし伝道で成功したいのなら、モルモン書に対する真実で力強い証を持たなくてはならないと心に決め、実行に移しました。モルモン書を読み、祈り、考え、めいそう瞑想しました。そしてついに、主はわたしの努力を祝福してくださいました。わたしは証を得たのです。以来、この証を失ったことは一度もありません。むしろ年を追うごとに強く育っています。

この二つの経験をよく思い出します。賢明で確固としていた同僚に感謝しています。またある意味では、意図的にあのような言い方になったわけではない牧師と、かなり狂信的だったあの男性にも感謝しています。たとえば言えば、二人はわたしの目を覚ましてくれたのです。もう40年以上も前に起きたことですが、彼らの名前や、会ったときの細かいことまで今でもよく覚えています。あのときのことを考えると、次の第三ニーファイのすばらしい聖句が浮かんできます。

「わたしが命じたとおりに、あなたがたはこのようにバプテスマを施しなさい。これまであったような論争が、今後は決し

てあなたがたの中にあってはならない。また、わたしの教義の要点について、これまでにあったような論争が、今後決してあなたがたの中にあってはならない。

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」(3ニーファイ11:28-30)

また、パウロがガラテヤ人へ書いた、次のようなすばらしい言葉も思い浮かびます。「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であ[る。]」(ガラテヤ5:22-23)

これはわたしがモルモン書を読むときに味わう実です。モルモン書に書かれた言葉を読み、その中にあるキリストの比類ない教義について深く考え、生活で応用するように努めるとき、わたしの心の中に、そしてわたし自身の中に「大きな変化」が生じるのです(モーサヤ5:2;アルマ5:14)。その変化のおかげで、もっと善いことを行い、もう少し親切になり、批判を抑え、より寛大になり、主が与えてくださった偉大な祝福を人々と共有する決心をすることができるのです。

これは神の御霊の実です。モルモン書の実なのです。■

群れを養う

青少年に指導力を身に付けさせる



青少年の中には、
大人になるのはずっと後のことだと
考えている人もいます。

しかし、次の世代を担う若者が
家庭と教会で指導者になるのは
遠い先のことではありません。
今、青少年に何を教えることが
できるでしょうか。



大管長会第二顧問の
ディーター・F・
ワークトルフ管長と
十二使徒定員会の
M・ラッセル・バラード長老との
インタビューから

堅固な家庭を築き、教会で指導者として奉仕し、御父のもとに帰れるように若人を備えさせることは、指導者や教師、そしてだれよりも親が取り組むべき重要な責任です。「教会において指導力を身に付けさせる責任は、父親と母親に託されています」と説明するのは、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老です。「青少年が10代の時期を経て成長し、成人へと近づいていくとき、教会は、指導力を磨く機会を青少年に与えるという重要な役割を果たし始めます。しかし、指導者になる備えは家庭で始まるのです。」

バラード長老と大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトルフ管長が、自らの観察と経験に基づいて、青少年に指導力を身に付けさせる10の原則を紹介します。

1. まず家庭で始める

わたしたちは家庭において、青少年に指導力を付けさせることができます。例えば、親が食事の準備をする、家の周囲で何かを修理するといった、見慣れたありふれた場面でも青少年の指導力を培うことができます。バラード長老はこう話します。

「子供の手を取り、今何をしているのか、どのように行っているのかを示すことができるのは、父親と母親をおいてほかにないとわたしは考えています。子供がまだ小さくてもいいのです。子供は、父親や母親のそばにいます。人生について多くを知り、また物事のやり方を覚えながら成長します。また、親のそばにいて、子供は家族の意思決定に加わっていると感じられるようになります。」

父親も母親もいない家庭に暮らす青少年もいます。わたしたちは確かにそのことを理解しています。しかし、代わりに育てている人がいます。その場合、その人が、物事のやり方や、指導者になる方法を教えるうえで最も大きな責任を持つことになります。

たとえ青少年が教会員であって親がそうでない場合でも、家庭で福音を学ぶことは可能であるとワークトルフ管長は語ります。ワードや支部の指導者は、親が末日聖徒であるなしを問わず、子供の教会の活動と一緒に参加するよう親に



教える機会を持つ
ということは、
たとえそれが
簡単な事柄であっても、
若い人にとって
非常に大切です。
ワークドルフ管長は、
教えることは
指導の本質である
と話しています。

勧めることができます。最良の方法の一つは、既存の資料やプログラムを活用することです。

ワークドルフ管長はこのように言っています。「指導者は、パンフレット『若人の強さのために』などの教会発行の資料や、神への務めおよび成長するわたしといったプログラムを有効に活用してください。『青少年に関する両親と指導者のためのガイド』には、青少年がこれらのプログラムを通して有意義な経験をし、指導者としての資質を磨いていくために、わたしたちがどのように助けることができるかが説明されています。若い人のいる家庭でこうした手段を活用してください。親に働きかけ、子供たちがそこに示されている目標や活動、そのほかの良いことを達成できるよう助けられるようにしてください。」

そのためには指導者も特に努力を払う必要がありますが、これらのプログラムを活用することは、親がそれまで眠らせていた指導力を家庭において発揮するうえで役に立つでしょう。またわたしたちが何を信じ、何を目指しているかを親に伝え、同時に、教会が家族のきずなを深めていること、また、教会にはわたしたちをよりキリストに近づけてくれる素晴らしい価値観があることを示すことができます。加えて、わたしたちが『どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために』『キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し』ているということを示すことになるのです(2ネーファイ25:26)。資料やプログラムを活用すれば、教会のすべての青少年が指導者になれるよう助けることができるのです。」

2. 話し合いの場を通して教える

バラード長老は、本来青少年が負うべき責任を成人指導者が引き受けてしまっていることが多いと指摘しています。「青少年の指導力は、指導者が若い男性と若い女性の組織を通して彼らと具体的に話し合うときに育っていくものなのです。例えばある執事定員会に5人の活発な男の子がいて、3人のあまり熱心に集っていない子がいるとしましょう。その3人が再び活発に集えるように助ける責任はだれにあるのでしょうか。実に多くの指導者が自分にあると答えます。」

バラード長老は、そうではなく、指導者は定員会会長会の会員と集まり、話し合いの場を持つべきだと話しています。そして次のように尋ねます。「どんなことができますか。どのようにできますか。だれができますか。」

「もしピシヨップやほかの指導者が、あらゆることを一人で行い、協力を拒み、どんな手段で何ができるかを話し合おうとしなければ、その様子を見ている青少年は、それは指導者の責任だと考えるようになるでしょう。ピシヨップが『これはわたしのワードだ。わたしのやり方で進める』と考え、主のワードなのだという認識を失ってしまうのは大きな悲劇です。わたしたちは、主がわたしたちに何をするように望んでおられ、物事を進めるために人材、資材、情報などをどのように活用することを望んでおられるのかを知るように努める必要があります。」

3. 家庭でも教会でも教える機会を作る

教える機会を持つということは若い人にとって非常に大切であるワークドルフ管長は話します。たとえそれが、証をする、聖句を読んで思ったことを発表する、ちょっとした話し合いの中で福音の原則を擁護するといった簡単な事柄でもかまいません。また管長は、教えることは指導の本質であるとして、次のように話しました。

「教会の若人は、学校では唯一の教会員であるということが多くあります。ですから、自分が真に価値のある存在であることを知り、何を信じているかをよく自覚する必要があります。何をしても、常に自分たちは人に何かを教えているということを理解する必要があります。若人に教える機会を与え、福音を恥としないよう励ますことによって、わたしたちは彼らにとって大きな助けとなることができるでしょう。」

教会の組織は、霊的な成長の機会だけでなく、ほかの分野でも成長の機会を与えてくれます。ワークドルフ管長は、航空業界で働いていたときの経験についてこう語っています。「これまで仕事でいろいろなことを達成してきましたが、それらを成し遂げるうえで役に立ったのは、すべて教会を通じて学んだことでした。」

管長は、同じことが自分の家族でも起こっていると語ります。「孫たちが教会の会員である

ことは学校でよく知られていますが、それぞれ、人前で話すのがクラスでいちばん上手だそうです。なぜでしょうか。そうした技術を家庭と教会で学んできたからです。本人たちはそんなことに気づいてすらいませんが、実は学んでいたのです。」

4. 恐れを克服できるよう助ける

バラード長老は20代後半でビショップに召されました。そのころを振り返って次のように語っています。「大いに悩みました。ビショップの経験は初めてでしたし、二人の顧問とはどちらも親子ほど年齢が離れていました。わたしは自分のビショップとして過去に奉仕してくれたすべての兄弟たちのことを考えました。そして彼らの模範からすばらしいと思ったことや、ためになると思ったことを取り入れようと努力しました。しかし、最終的に恐れを克服する助けとなるのは、どのような責任であれ、実際に責任を果たすことなのです。」

新しい責任に恐れは付き物です、とバラード長老は続けます。「12歳で執事定員会の会長に召されたら、きっと不安になるでしょう。『集会の司会はどうやればいいのか』と悩むかもしれません。でも、やり方は教えてもらえます。最初はずまずいたり、苦労したりするかもしれませんが、数回経験を積み、自分でもできることが分かります。それは大きな一歩です。一度やり方が分かるやいなや、恐れることなく人を導いていけるようになるのです。」

ワークドルフ管長は、自分が何者であるかが理解できれば自信も生まれると話しています。「高価な真珠のモーセを例に取ってみましょう。モーセは、自分が神にかたどって創造されていること、そして、自分のすべき業を神が用意しておられることを知ります。皆さんも、自分が主の用向きを持つ者であることを知れば、状況が変わります。だからこそ、教会の若人は、自分が何者であるかを知り、主がともにいてくださることを知る必要があるのです。」

わたしが10代のころ、小さな支部だったため、宣教師がわたしたちのクラスを教えていました。宣教師の次の一言に大きく心を動かされました。『神がともにいてくださるなら、だれがわたしたちに反対できるでしょうか。』そのような自信が生まれると、恐れがあっ

ても、また自分にはその資格がないと感じるときでさえも、行動する力が得られるのです。』

5. 義務を学ばせる

青少年のファイヤサイドやその他の集会があると、指導者はつい、司会をしたり、音楽を担当したり、祈ったりしようとしがちです。しかし指導者は「影の指導者」に徹して、青少年がこうした役割を果たすのを監督する側に回る必要があるとワークドルフ管長は語っています。

「これは親や指導者にとって大きなチャレンジです。自分でした方がきっと速く上手にできるということを知っているからです。青少年に実行させるには忍耐が必要です。よくできない場合もあるかもしれません。聖文にはこうあります。『わたしの民がもっと十分に教えを受け、経験を、彼らの義務とわたしがその手に求めることにしてもっと十分に知るためである。』（教義と聖約105：10、強調付加）

青少年が自ら学べるよう、皆さんは模範を示すのです。救い主の方法を考えてみましょう。主は、この地上での様々な召しを通して、わたしたちが主の業を行えるようにしてくださっています。忍耐強く見守っておられます。わたしたちは若人に対して、同じようにしなければならぬのです。」

バラード長老は、例としてある経験を紹介しています。帰還宣教師の孫が、自分のアパートの軽量ブロック製の壁に何かを飾りたいと言ったときのことで、バラード長老は、ドリルで穴を開け、そこに金具を固定する方



法を教えるために孫のアパートまで出かけて行きました。

「まずわたしが一度やって見せ、それから孫に、次はどこに金具を取り付けたいかと尋ねました。孫はある場所を示しました。わたしはこう言いました。『じゃあ、そこに取り付けよう。わたしがする様子を見ただろう。今度は自分でやってごらん。ほら、ドリルだよ。』孫はやってみました。そして残りの金具も自分で取り付けました。緊張していて、作業はゆっくりでした。わたしなら半分の時間でできたと思います。しかし、孫は自分でできるようになりました。自信も生まれました。もしまた何かを飾りたくなったら、今度はわたしのところへ来て道具を借りるだけでよいのです。道具はちゃんと返してほしいです!」

6. 広い視野を持たせる

青少年が従順になり奉仕するよう求められる理由の一つは、彼らが将来、家族や教会を導いていくことになるからであり、このことを青少年に伝えるのは大切です。しかし、従順になって奉仕することには、将来の家族や教会での責任に備えること以上の意味があります。それは各自の人生における使命を果たす備えにもなるのです。

ワークトルフ管長は、広い視野で物事を見ることは、青少年だけでなく指導者にも祝福をもたらすと語っています。「時々、わたしたちは細かいことに目を奪われすぎていると思います。成人の指導者が、広い視野で見たわたしたちの目的や青少年の将来の可能性を、若人の心と思いに届けるならば、細かいことは簡単に解決できるようになるでしょう。」

青少年を正しく理解し、優しい気持ちで明確な意思の疎通を

図ることも欠かせません。管長は続けてこう語っています。「13歳のとき、執事定員会の会長に召されました。支部会長は、空いている教室を探して回り、廊下の端の部屋を見つけると、話し合う時間を取ってくれました。そして、何をすべきかを教えてくれました。支部会長と主から何を期待されているのかについて、素晴らしい指示を受けたのです。」

クラスには執事が何人いたと思いますか。二人です。それでも支部会長は時間を取って準備し、わたしを備えさせてくれたのです。50年前のことですが、今でもそのときの感動を覚えています。支部会長はわたしの成功を望んでいたのです。関心を寄せ、時間を割いてくれました。そして愛のこもった分かりやすい指示を与え、わたしが指示にきちんと従っているかを後に確認し、励ましてくれました。」

7. 責任感を持たせる

主が必要とされるのは御自身をほめたたえる人ではなく御自身に従う人であるとワークトルフ管長は語ります。「まず従う人になることを学び、それを通して指導者になることを学ぶのです。聖文には、『行動する』のであって『強いられる』ことではないと記されています(2ニーファイ2:26)。」

「次のステップは確認し励ますことです。わたしたちは神殿でそれを学びます。つまり、戻って報告させるという原則です。しかしどういうわけか、指導者の中には、指示を与え、青少年にしてほしい事柄を優しく明確に伝え、指示どおりできているかを確認し励ますことに恐れを抱いている人がいます。完全にできるということはないでしょうが、青少年が行ってみようとしたら励ましてください。励ましは青少年の心に残りません。聞いた言葉は忘れてしまうかもしれませんが、そのときの気持ちは残るのです。」



8. 霊感を受ける資格があることを知る

バラード長老がまだ若いビショップだったころ、9歳のある乱暴な男の子が初等協会の教師の悩みの種になっていることを知りました。数週間後、教師がその子をビショップ室へ連れて来てこう言いました。「ビショップ、あなたの群れの一人です。面倒を見てください。」

バラードビショップはどうすればよいか分かりませんでした。しかしその瞬間、ある考えが思い浮かびました。その子に毎週、初等協会でどのように振る舞ったかを報告させるというものです。バラードビショップはその子に自分の願いを伝えました。すると、行動に変化が現れたのです。その子は自分をもっと違った行動を取れることに気づきました。

バラード長老は語ります。「その子がビショップ室に入って来る前は、報告させようという考えはありませんでした。しかし主は御霊の力によって、ふさわしく義にかなった教師や指導者に、何を言い、何を言うべきかが分かるよう、霊感を与えてくださるのです。その結果、わたしたちはすべての人、特に若い人たちから最善のものを引き出すことができるのです。」

バラード長老はこう言っています。「ところで、あの9歳の子は『劇的な』変化を遂げました。伝道に出て、神殿で結婚し、偉大な指導者になったのです。」

霊感を受けられるよう霊的に備えるには努力が必要です。努力なしに霊感を受けられませんかと語るワークドルフ管長は、パイロットの仕事を通して同じような教訓を学びました。ボーイング747型機の操縦は胸が躍りますが、この飛行機が離陸できるよう準備を整えるには、多くの手間をかけ手順を踏むことが必要です。「教師や指導者にとって、必要な手間や努力とは折り返しです。また、若い男性と女性一人一人の必要を知ることです。指導者はさらに、青少年のプログラムが単に娯楽やゲームの場にならないようにしなければなりません。そうではなく、青少年が成長し、なるべき自分になれるよう助けてくれるような楽しくてすばらしい機会となるようにしてください。」

9. 親に知らせる

指導者、特にビショップリックの最終的な責任は、ワードの青少年がどのような状態にあるかについて、親に適切な助言をし、教えることです。ビショップや支部会長は個人的かつ内密の情報をもたらすことはできませんが、全員にかかわる心配事については、全体に向けて語るという方法で教えることができます。

バラード長老はこう語ります。「もしわたしが今ビショップだったら、第5日曜日に合同で行われる神権会と扶助協会の集会で、青少年について気になっている事柄を親の皆さんに話すと思います。そしてこのように言うでしょう。『青少年と何年も続けている面接の結果としてわたしが知り得た事柄は、わたしと本人だけの内密事項です。青少年もそのことをよく理解しています。信頼を裏切るわけにはいきません。しかし、全体に向けて話せることがあります。解決すべき問題があります。親である皆さんには、これからお伝えする事柄について知り、対処してほしいと思います。それは、……。』中には、青少年に何か起きているのかという現実を目を向けるのをためらう親もいるかもしれませんが、知る必要があるのです。」

10. 青少年の持つ永遠の可能性を認識する

バラード長老は次のように話しています。「わたしたちは標準を上げました。しかし、青少年の標準だけを上げたわけではありません。親の守るべき標準も上げたのです。親には子供に原則を教える第一の責任が託されています。指導者の標準も、教師の標準も上がっています。邪悪で、問題が次から次へと押し寄せるこの世界にあって、わたしたちは一歩ずつ階段を上がって行かなければならないのです。」

わたしたちは青少年が主を愛していることを知っています。主も彼らを愛しておられることを忘れないでください。皆さんが教える若い男性や女性の小さな体の中には、永遠の霊が存在しています。この若者たちは天の御父のものであり、御父はあらゆる子供たちの人生に深い関心を抱いておられます。彼らの内に燃える証の火が決して消えることのないようにする必要があるので。■

新しい責任には
恐れが
付き物ですが、
その責任を
果たすことが
恐れを克服する
助けになり、
引き続き奉仕する
自信も与えてくれる
とバラード長老は
語ります。

未来への

イタリアに住むこの若人は、
神権を使うことが幸せへの架け橋になることを
知っています。

教会機関誌

キンバリー・リード

イタリアのフィレンツェにはかつて恋人同士が行う古い習
慣がありました。ポンテベッキオ橋に南京錠をかけ、下
を流れるアルノ川にその鍵を投げ捨てるのです。二人



の愛に永遠に「鍵をかける」という意味が込められていました。
中世に造られたこの歴史ある橋を維持するため、今日錠を
付けることは勧められていません。しかし16歳のクリスチャン・モレリは、ポンテベッキオ橋よりはるか以前から存在する
本物の鍵を知っています。1829年に預言者ジョセフ・スミス
に回復された力強い神権の鍵のことです。この鍵は、アロン
神権とメルキゼデク神権が回復されてもたらされました。そ
の鍵の一つが結び固めの力です。クリスチャンは、家族の愛
に永遠に「鍵をかける」ことがほんとうにできると知っています。
両親は神権の権能を持つ人によって神殿で結び固められ

ました。クリスチャンも将来、神殿の祝福を受けたいと思っ
ています。その備えとして、アロン神権の義務を果たし、神から
授けられたこの権能にふさわしい生活を送っています。



真の創造性

フィレンツェは、芸術、文学、科学思想が開花したルネサンス
発祥の地として知られています。ルネサンス期に生きた才能あ
る人々と同じく、クリスチャンも、音楽や書物には多くの良いもの
が込められていることを知っています。3年前からベースギター
を弾き、ほかにも英文学や哲学を熱心に学んでいます。

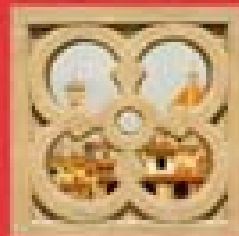
しかし、「創造性」を追及しているうちに罪に迷い込んでし
まうこともあると、クリスチャンはよく理解しています。悪い音
楽やポルノグラフィーに染まっていく10代の若者を見てきました。
クリスチャンは、与えられている神権に心を留め、世とは
違った者とならなければならないことを理解しています。

清めの火

1497年、フィレンツェのある修道士しゅうどうしは市民を説得し、鏡、ぜ
いたくな服、芸術作品など、この世的で品がないと判断した
ものをすべて燃やさせました。2008年の今、クリスチャンの
取る方法は少し違ってきます。周囲にあるものを清めようと

か
ぎ

鍵



クリスチャン・モレリは芸術と建築で有名なイタリアのフィレンツェ郊外にある小さな町に住んでいます。ベースギターを弾いたりしながら熱心に才能を伸ばしています。





クリスマスは
霊的な
物の見方が
できることに
感謝しています。
神が生きておられ、
イエスが
キリストであられ、
地上に神権の鍵が
回復されたことを
知っています。
その知識のおかげで、
どのように
生きるべきかが
分かります。



するのでなく、自分の生活を清めるために聖霊という火を使おうとしているのです。

「大変なときもあります」とクリスマスは言います。セミナーのクラスに生徒は4人しかいませんし、皆遠くから来るのでクラスも毎日あるわけではありません。自分独りで寂しくなるときもよくありますが、試練を通して聖めの力が働くことを知っています。逆境と戦っている人々の模範から、靈感やひらめきを受けるようにしています。

イエス・キリストの使徒であるペテロは、クリスマスの住むイタリアで試練を受けました。ローマで囚人として過ごし、殉教するかもしれないという状況に置かれていました。今日、ペテロは神権の権能を持つ者として、しばしば大きな鍵を抱えた姿で描かれています。ペテロのように、クリスマスも真の弟子になり、どのような犠牲を払っても神権の召しに忠実であるという決心を貫きたいと思っています。

ニーファイもクリスマスの好きな英雄の一人です。「ペテロのように、ニーファ

イも度々試練を乗り越えなくてはなりませんでした。試練によって、ニーファイは優れた人格を身に付けたのです」とクリスマスは語ります。

祈りと聖文研究を通し、また、安全な避難場所と自ら呼んでいる家庭のおかげでクリスマスは今のような人格を身に付けました。そして、末日聖徒として神権を尊び、伝道に出て奉仕し、いつの日か義にかなった夫、父親となる決意をしています。

喜びに目を向ける

そのような目標を持つクリスマスは、周りの友達とは少し違った存在です。「ぼくは初等協会のときから伝道に出たいと思っていました」とクリスマスは言います。残念ながら友達には「勉強や、スポーツや、遊ぶことに夢中で、」クリスマスの持つ信仰や宗教といった話に興味がありません。

クリスマスは、執事の責任で聖餐のパスをしたときや、病気になった親戚のために断食したときに霊的な経験をしたことを覚えています。ホームティーチングも「訪問先の家族が変わっ

「盲人を癒されるイエス・カル・ヘンリック・ブロック画、ブロック画、デンマーク、ヒレシスにある国立歴史博物館の許可を得て撮影、描写は禁じられています」

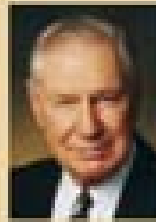
ていくのが分かるので」大好きです。父親と一緒に訪問する家族は「ホームティーチングのときに聞いた言葉に慰められたと言い、感謝してくれます。」

このような気持ちや経験は、クリスチャンの友達にはなかなか分かってもらえません。時には誤解されたと感じることもあります。霊的な物の見方ができるということは、決して失いたくない祝福です。クリスチャンが大好きな新約聖書の物語に、救い主が目の見えない人を癒される話があります(ヨハネ9:1-11参照)。この癒された人のように、クリスチャンは福音の喜びをはっきり見ることができますが、友達にはまだ見えていないのです。

霊的な事柄が見えるように

だからこそ、クリスチャンは伝道に出ることを楽しみにしています。自分が見えるようになった霊的な事柄をほかの人が見る手助けをしたいのです。クリスチャンは子供のころから宣教師と仲が良く、ほかの任地に行ってしまうといつも悲しい思いをしていました。「時間がたつと宣教師の名前は忘れてしまうかもしれませんが、経験したことは決して忘れません。これまでに会った宣教師の一人一人について感じたことを覚えています。彼らのような人になりたいです」とクリスチャンは語ります。

宣教師と一緒に伝道しているとき、クリスチャンは彼らの意志の強さに特に感銘を受けます。「たくさんの人から『けっこうです、興味ありません』とはっきり言われたり、いきなり目の前でドアを閉められたりしますが、それでも伝道を続けています。次の家、次の家とノックして回り、福音について知っていることを伝えようとしています」とクリスチャンは話します。



この世とは違った生き方をする

「この教会の神権者として払う必要のある代価の一部は、世とは違った生き方をする事です。わたしたちは地上におけるサタンの力を弱めることができる圧倒的な力を持つ者であり、その管理者です。わたしは心の底から皆さんに切にお勧めします。世を本来の姿に押し戻すのを助けてください。」

大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト管長(1920-2007年)
「悪魔ののど」『リアホナ』2003年5月号, 52参照

クリスチャンは伝道に出る準備をしています。そのために常に清くあり、福音を研究するだけでなく、派手な服装を避け、その場の雰囲気合うものを選ぶように心がけています。

フィレンツェはファッションの街です。しかしクリスチャンは高価な服に興味はありません。日曜日には「主を敬い、安息日を尊ぶために白いワイシャツにネクタイをして上着を着ます。」こうすれば宣教師の服装の基準を守ることができます。日曜日以外は好きな服を着ます。「流行のファッションを追いかけたいと思ったことはありません。身だしなみがちゃんとしていれば、特に着るものにこだわりはありません」と話すクリスチャンは、服のブランドも気にしていないようです。

幸福への鍵

クリスチャンはメルキゼデク神権と神殿のエンダウメント、そして専任宣教師の召しを受けることを心待ちにしています。そしていつの日か、自分自身の永遠の家族との「愛に鍵をかけたい」と願っています。

そして、何よりもイエス・キリストの再臨を待ち望んでいます。「イエスが来られるとき、」この世のすべての罪と、罪から来るすべての悲しみが「終わると思うとほっとします」と話しています。そのときまで、クリスチャンは神権の鍵を持つ人々を敬い、聖約を守ります。聖約を守るにより、救い主に近づくことができます。それこそが、霊を安全に保ち、永遠に幸福になる唯一の方法であることを知っているのです。■

き よ

聖くなる ために 時間を取る

教会機関誌

アダム・C・オルソン

香港の街では、毎日が目まぐるしく過ぎて行きます。昼夜を問わず、群衆は整然と、しかしわずかな時間を惜しむかのように移動しています。地下鉄から大勢の人が吐き出されたかと思うと、同じくらい多くの人が乗り込み、職場や学校、買い物へと向かって行きます。

勤勉と達成を美德とする文化の中で暮らしていると、一日にすべてのことを終える時間がないように思えることもあります。

「もっと時間が欲しい。」忙しい日曜日の終わりに、ヤングシングルアダルトの友達と一休みしながら、**吳・キャシー**・家麗はため息をつきます。

彼女の友達も、世間が求めるものは時として非常に執拗で、しかもきりがないということが経験から分かるようになってきました。同時に幾つもの事柄に引っ張り回され、残された時間が徐々に奪われていくこともあります。この世の要求にこたえるために、霊的な事柄に使う時間はほとんどないということになりかねません。気をつけていないと、神の憐れみにすがらず、気づいたときには世の波に翻弄されてしまうでしょう。

慌ただしい世の中

キャシーも友達も、自分たちがいかにたやすく慌ただしい世の中に巻き込まれてしまうかを知っています。

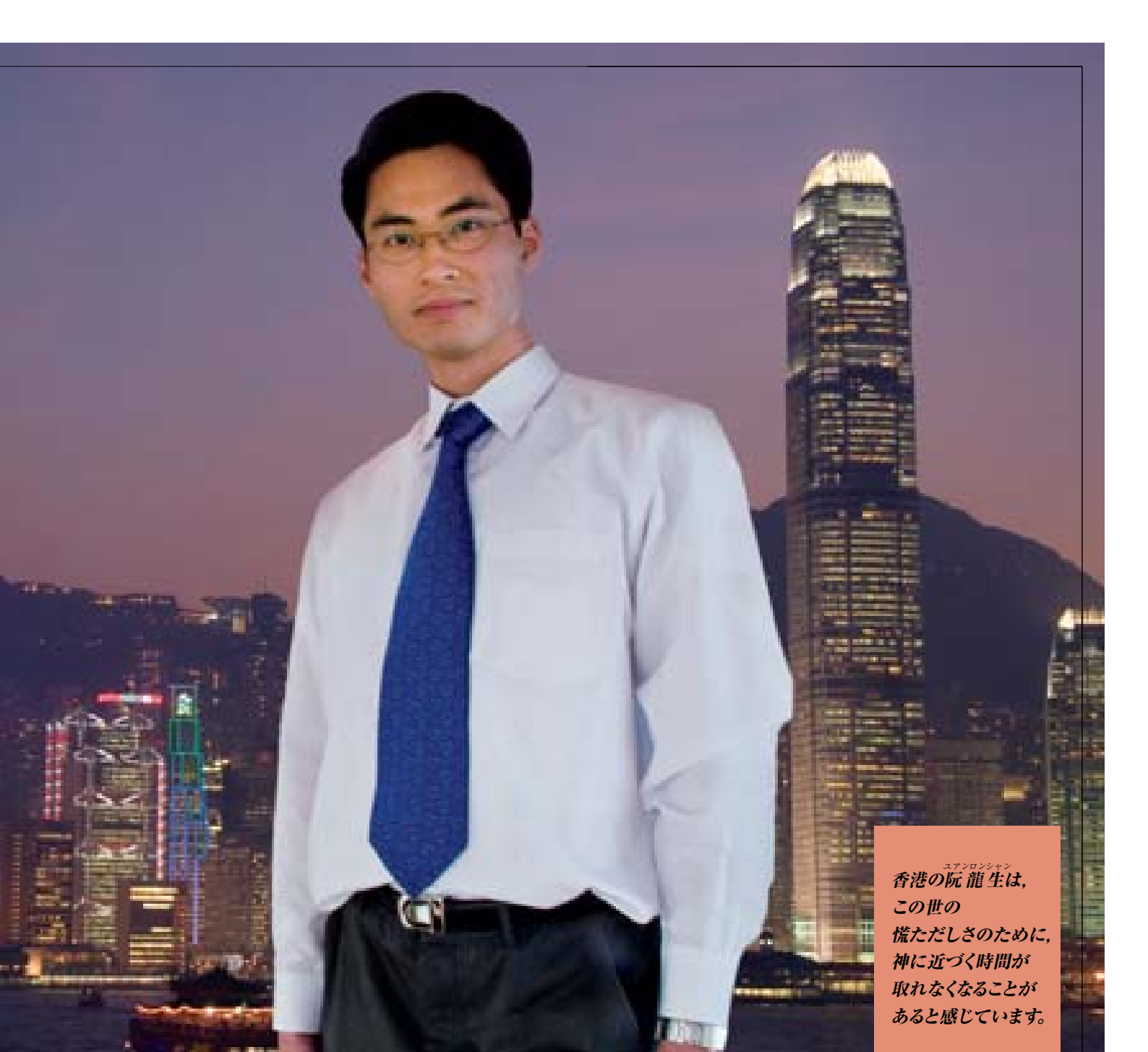
28歳の**周 豎 偉**は工場の監督として週に70時間働いてい



ます。29歳の**阮 龍 生**は建築技師として週50時間以上、28歳の**キャシー**も営業と顧客サービスの仕事で週に約50時間、研究助手として働く27歳の**陳・ミステイ・勳明**と28歳の機械技師、**曾・ディック・慶良**の二人は週に約45時間働いています。

そのうえ、この忠実なヤングアダルトの会員たちには教会の召しがあり、責任を果たすために週に5時間から15時間を費やしています。ステーキ若い女性会長、ステーキ若い男性会長会顧問、ワード日曜学校会長会顧問、地区インスティ

写真/アダム・C・オルソン、その他の説明のあるものを除く



ユアンロンシヤン
香港の阮龍生は、
この世の
慌ただしさのために、
神に近づく時間が
取れなくなることが
あると感じています。

テュート評議会議長、ステーキのヤングシングルアダルト代表などの責任を受けているのです。

自分自身を霊的に再生させる時間を見つけるには、きちんと計画を立てなくてはならないと彼らは話しています。そのために、時間の使い方を工夫したり、早起きや夜更かしをして睡眠時間を削ったり、通勤時間や休憩時間を有効に使ったりすることもあります。

ディックはこう言います。「聖文の勉強などに時間を取ること

は、そうしようという意志があれば簡単にできます。時間を無駄に使ってしまうことが多いのは計画を立てないときです。」

注意力をそらすものに気をつける

なぜ時間を無駄に使ってしまうのでしょうか。それは、仕事やそのほかの責任が一段落したとき、世の中は大抵、霊的なもの以外の事柄に時間を使わせようとするからです。



時間が 足りませんか？

「わたしたちは時間をどのように使うかについて、難しい選択を迫られることになるでしょう。しかし、霊的なことを意識的に後回しにする習慣は絶対に避けなければなりません。霊的なことを決して後回しにしないでください。……

……神の目的を第一に置くとき、神は奇跡を起こしてくださいます。……

……もしさらに多くのことを求められる責任に召されたとしても、目の前に立ちはだかる『時間が足りない』という壁は崩れ始めることでしょう。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
“Education for Real Life,”
Ensign, 2002年10月号,
18, 20, 21

「世の中にはいろいろな娯楽があふれています」と話すミスティーは、例としてMP3プレーヤー（訳注——コンピューターから取り込んだ音楽や動画を楽しめる携帯機器）を挙げています。どこにいても好きな音楽を聴くことができますが、そのために一つのことに集中できないこともあります。

ミスティーはこう言っています。「わたしは1年ぐらい前にやめました。集中できないからです。MP3を再生しながら、考えたり、冥想したりできません。」

ディックはテレビについてこう言っています。「テレビを見る時間があれば聖文を読めるはずですが、バランスを取り、正しいときに正しいことをする必要があります。」

ディックたちにとって問題は、悪い番組を見たり、不適切な音楽を聴いたりするかどうかではありません。問題は、霊的な事柄のために残されたわずかな時間が、娯楽のせいで消えてしまうということです。それは十二使徒定員会のリチャード・G・スコット

長老の次の言葉のとおりです。「俗世の事柄が押し寄せてくると、正しくないことを最優先させてしまうことが非常に多いのです。——サタンは善良な人々を攻撃する強力な武器を持っています。それは混乱という武器です。サタンは善良な人々の生活にいわゆる『良いもの』をいっぱい詰め込んで、必要不可欠なものが入る余地を奪うのです。」¹

自身を聖める

主は、「ゆえにあなたがたは、みずからを聖別し、聖なる者とならなければならない」と言われました（レビ20：7）。世の中に染まらずにいるために、ディック、キャシー、ロン、ミスティー、シューは自分のすべきことを学んでいます。聖めを求めるにはどうすべきかについてこの

5人が話し合ったことを紹介します。

1. 信仰によって

「主は言われる。『彼ら（は）わたしによって聖い者となるために、……わたしを信じる……。』』（エテル4：7）

信仰は行動へと続きます。この5人は、イエス・キリストを信じる信仰があると、キリストのような行動をするようになると信じています。

ディックは一日中、できるだけ頻繁にイエスについて考えるように努めています。「主は聖きの模範であられる。イエスは何を行い、何を言われたのだろうか。」

そして、救い主の模範に従って生活するよう努めています。

信仰があるので、5人は聖文を勉強し、インスティテュートに出席し、宣教師と一緒に伝道し、神殿で奉仕をします。時間の許すかぎり人に仕え、証あかししています。また、主に従順になるために、自分の願いを進んで犠牲にしています。

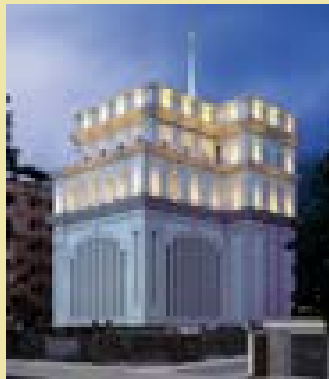
キャシーはこのように話しています。「いつもイエス・キリストを念頭に置いて考え、そして行動しなければならぬと思っています。もっと忍耐強くなりたいと言いつつ、自分では何もしないというわけにはいきません。主を信じ、主への信仰を持つなら、もっと主のようになることができます。」

2. 研究によって

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言みことばは真理であります。」（ヨハネ17：17）

聖文研究の経験について、ディックはこう話しています。「自分に当てはめるとき、聖文は、生活の様々な問題を受け止め、解決するのに役立つ答えを与えてくれます。」

ディックの意見に賛成するほかの4人も、仕事





ツァン
曾・ディック・慶良,
ヒンリヤン
ス
吳・キャシー・家麗,
ユアンロンシヤン
阮龍生の3人は、
時間が足りない
と思えるときには、
神を第一に置く
必要がある
と話しています。

前や寝る前、通勤時間などの30分でも、聖文研究の時間を取るように日々努めていると言います。

祈るような気持ちで深く考えながら研究すると靈感を受けられるようになり、自分の性格を変えることさえできるようになると、ロンは話しています。²

「聖文は福音の理解を深めてくれます。御霊みたまを感じる事ができます。聖文のおかげで神に近づくことができるのです。」

3. 犠牲によって

「この聖めは、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。」(ヒラマン3:35)

「救い主は、神に従うためにわたしたちが進んで自分の願いを犠牲にするよう求めておられます」とキャシーは話しています。

同じ意見のミステリーは「この世のものを自らあきらめなくてはなりません」と言っています。

ロンはルカによる福音書に出てくる若者を例に挙げます。永遠の命を受けるには何をすることが必要なのかイエスに質問した若者です。この人は小さいときから戒めを守ってきましたが、財産をすべて売り払って従ってきなさいとイエスに勧められたとき、富を手放すことができませんでした(ルカ18:18-23参照)。

「若者はキリストに従うために大切なものを犠牲にする必要がありました」とロンは説明します。「財産とは限りませんが、わたしたちは皆、主に従うことを妨げるものを持っています。」

その例として、5人は、神を知るために、自分の罪をすべて自ら捨てると申し出たラモーナイ王の父について話しました(アルマ22:18参照)。

「神はわたしたちが神に従う信仰を持っているかどうかを知ろうとされます。神はわたしたちの心を求めておられるのです」とミステリーは話しています。「わたしたちが何をいちばん愛しているかを知ろうとしておられるのです。このようにして、わたしたちは主の弟子になります。」

シューはこう言っています。「聖くなるには、自分の意志や願いを犠牲にしなくてはなりません。」

4. 従順によって

「律法によって治められるものは、また律法によって守られ、それによって完全にされ、聖められる。」(教義と聖約88:34)

主の御心みこころを行い、聖約に従って生活し、主の戒めを守るために自分の願いを犠牲にするとき、わたしたちは聖められます。ディックはこう話しています。「神は律法を与えられました。この律法に従順に従うとき、わたしたちは聖められます。」

キャシーはこのように語っています。「もっと喜んで従順になるなら、もっと多くの祝福を受けます。主の律法を守ることに、幸福になることができます。」



神のための
時間を取れるよう、
この世で
手に入れたいものを
進んで
犠牲にすることは
大きな祝福を
もたらすと、
チャウジュウエイ
周 豎 偉と
チェン
陳・ライミンミステイー・勵明は
語ります。

5. 贖い^{あがな}によって

「ただ一度イエス・キリストのからだ^みがささげられたことによって、わたしたちはきよめられたのである。」(ヘブル10:10)

「わたしにとって、聖くあるということは、純粋な心で神の御前^{まへ}に出るふさわしさを身に付けるという意味です。贖いを通してのみ、わたしたちは聖くすることができます」とロンは話しています。

ミステイーはこう言います。「救い主はすでに、わたしたちの苦難をすべて経験しておられます。わたしたちの気持ちを、主はすでにお感じになっているのです。贖いには偉大な力があります。この力によって救い主のように聖くなることのできるのです。」(モロナイ10:32-33参照)

人生に贖いの影響が及ぶようにするには、わたしたちのために「救い主がしてくださったことを覚えておく」必要もあるとキャシーは語っています。

主に清めていただけるよう、日々悔い改めて戒めを守るときに贖いの効力を感じるとディックは話しています。これは、主に聖めていただけるように、自らを聖める方法の一つです(レビ20:7-8参照)。

世^よにあって、世のものとならない

ディックたち5人は、聖くなるための時間を取り、この世的

な事柄に染まらないようにしています。主がこう命じられたからです。「自らを組織し、自らを備え、また自らを聖めなさい。まことに、あなたがたの心を清くし、またわたしの前に手と足を清めなさい。……」

聖められるために何をすべきか理解することは大切ですが、主がなぜ自らを聖めるようにと言われたのかも同様に大切です。

「……それは、わたしがあなたがたを清くするためであり、また、あなたがたがこの邪悪な時代の血から清められていることを、わたしがあなたがたの父、あなたがたの神、わたしの神に証するためであ[る。]」(教義と聖約88:74-75)

いつものように熱気に満ちた香港の夜を眺めながら、ディックはこう語ります。「人生には大変なときもあります。しかし、生活の中に救い主のための時間を作るとき、主から困難を克服する助けを受けることができます。天の御父のみもとへ戻れるということより重要なことは、世の中に何もありません。」■

注

1. 「第一のものを第一に」『リアホナ』2001年7月号, 7参照
2. 「恐れてはならない」『リアホナ』2004年5月号, 79参照

イエス・キリストの福音は、 前世が確かに存在することを 教えている



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を教えてください。その教義について証してください。あなた

が教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

わたしたちは前世について何を教えられているでしょうか。

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老——「わたしたちは前世において、聖なる御父である神と愛子イエス・キリストの御前に住んでいました。……わたしたちはこう教えられました。『わたしたちは……これらの者が住む地を造ろう。』」

そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

第一の位を守る者〔すなわち、前世で従順な者〕は付け加えられるであろう。……さらに第二の位を守る者〔すなわち、現世で従順な者〕は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。』（アブラハム3：24-26）……

……一人一人がこの世で直面するであろう状況について教えを受け、備えられました。……この生涯が正当な試しとなるように、前世の記憶は取り去られます。しかし、生活の方法に関しては導き与えられます。みもとに帰る機会を与える御父の救いの計画

は、イエス・キリストの福音と呼ばれています。』（「真理の回復」『リアホナ』2005年11月号、78-79参照）

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老——「わたしたち全員が参加していた前世の会議のとき、〔イエス・キリストは、〕御父がその子供たちのために用意された偉大な幸福の計



画を受け入れられ、その計画を実行に移すために、御父によって選ばれたのです。イエスは、サタンとその軍勢に対抗するために、良い霊の軍勢を指揮して、人の救いのために戦われました。その戦いは、この世界が形造られる以前に始まったものです。その戦いは今でも続いています。わたしたちは、その戦いのとき、皆イエスの側についていました。わたしたちは今なおイエスの側についています。』（「信仰にも行いにもクリスチャンである」『聖徒の道』1997年1月号、80）

前世を理解することがきわめて重要なのはなぜでしょうか。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「女性には創世の前から与えられた明確な役割があります。……前世での大きな戦いで、わたしたちは救い主イエス・キリストの側につききました。それは、永遠の家族の一員となるという可能性を守るためでした。わたしたちは自分が神の娘であること、そして何をすべきかを知っています。……わたしたちは家族が永遠の存在となれることを信じています。……増えよ、地に満ちよという戒めは、今なお有効だと知っています。……主の助けにより、立派に子供を育て、教えることができると信じています。これらのことは幸福の計画の中でとても大切な責任です。女性はこうした役割を受け入れ、心を尽くして責任を果たすときに幸福になれるのです!」（『末日聖徒の女性が秀でている事柄——力強く確固として立つ』『リアホナ』2007年11月号、110）

スペンサー・W・キンボール大管長（1895-1985年）——「わたしたちの存在が現世ですべて終わってしまうと考えるなら、苦痛、悲しみ、失敗、そして短命に終わる生涯は不幸なものだったと言えるでしょう。しかし人生を永遠に続くものとしてとらえ、遠い昔の前世から、死を迎えた後に永遠に続く未来までを視野に入れるならば、すべての出来事を正しい見地に立って理解することができるでしょう。』（『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』15）

研究を深めるためには、エレミヤ1：4-5；教義と聖約138：55-56を参照。■

「たった一度アルコールや たばこを試してみることに どんな害があるのでしょうか。」

聖文は、わたしたちが選択の自由を使えるように、世の中には反対のもの、すなわち善と悪がなければならないこと、また人は「一方に誘われるか他方に誘われるか」でなければならないことを教えています(2ニーファイ2:16, 強調付加)。自分には確かに選択の自由があるということを知るために、時々誘惑に負けて間違っただけの選択をする必要はありません。自分には善と悪を見分ける力が備わっているということが大切なのです。善と悪の両方を経験する必要はありません。善悪をわきまえ、そして善を選べばよいのです。

一度アルコールを飲んだりたばこを吸ったりしても害にはならないと思うかもしれませんが。しかしそれは間違いです。それらは有害な物質であり、体に取り入れると御霊みたまを感じられなくなります。一度手を出したために、生涯にわたってやめられなくなる人もいます。



「一度だけ」では決して済まない

だめです。試してはいけません。一度たりともです。二度としないと言うかもしれませんが、アルコールやたばこは依存症を引き起こすことがあります。一度だけと言ってアルコールを飲んだ友人がいます。次に出かけたとき、どうしたと思いますか。また飲んでしまったのです。「一度だけ」と言って飲んだことはだれもが知っていました。それが「もう一度だけ」になったのです。わたしたちは常に教会外の人から見られています。教会員の標準に従っていない姿を見られたくはないでしょう。そんな姿を見たらあなたの両親がどれほどがっかりするかは言うまでもありません。オーストラリア、ニューサウスウェールズ州、カイラ・W、17歳



戒めはあなたを安全に守ります

愛ある天の御父は、人生で起きるありとあらゆること、またそれらが及ぼす影響を御存じです。ですから主は、知恵の言葉をお与えになりました。主はあなたをとても愛し、悪魔から安全に守ることを望んでおられます。戒めを与えるということは、主があなたを安全に守ろうとされる一つの方法です。あなたは有害な薬物を取らないということが戒めであることを知っています。ですから、安全な側から決して離れないようにしてください。悪いと知っているのに試したくなるような思いから守られるよう、主の導きを求めて祈ってください。フィジー、スバ、アセナカ・V、18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



知恵の言葉を守る

知恵の言葉は神から与えられた戒めであり、完全に従う必要があるということを忘れてはなりません。そうでなければ罪を犯しています。たとえ一度だけでも、罪であることに変わりはないのです。深刻な罪は、アルコールやたばこがどのようなものを試してみるといった、小さな誘惑に最初に負けたときから始まるということを忘れないでください。
メキシコ、ミチョアカン州、アナ・M、20歳

誘惑と闘う

故意に体に取り入れる有害物質は、それが何であれ知恵の言葉に反しています。試してみたいはいけません。どれほどわずかな量であっても、体に取り入れると破滅的な依存症につながりかねません。知恵の言葉に反すると、受けられるはずの多くの祝福を逃してしまいます。霊が汚れてしまうのです。誘惑と闘うための最高の武器は祈り、断食、そして聖文研究です。
ウクライナ、クリミア、オレグ・P、16歳

痛い思いをして学ばない

教会の指導者は「一度だけ」とは言いません。してはいけませんと言っています。教会は、わたしたちが痛い思いをして学ばなくても済むよう、これらのことを教えているということを信じてください。また、神殿推薦状の面接で、神権指導者から知恵の言葉を守っているかどうか尋ねられるということも覚えておいてください。
アメリカ合衆国、メリーランド州、ローレン・R、15歳

正当化は常習につながる

「たった一度だけ」の問題点は、してしまったという事実にあります。一度してしまうと二度目の誘惑に抵抗する力が弱まります。「たった一度だけ」と正当化することで、わたしたちは細くて狭い道から離れてしまうのです。一度誤った方向に進んでしまうと、引き返すことはあまり楽ではないかもしれません。なぜなら「もう一度だけ。それに、やめたいときはすぐにやめられる」と言うようになるからです。ついには「飲まずに(吸わずに)いられない」とか「もう望みなんかはないと言うようになるかもしれません。カナダ、ブリティッシュコロンビア州、アダム・H、16歳

質問

「教会の友達の中には、どの宗教が真実かを教会員ではない友達と言いつ争う人がいます。争いは間違っているということは分かっていますが、福音に対するわたしの気持ちを友達に知ってもらうにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2008年7月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 7/08
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——
liahona@ldschurch.org

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名 _____
生年月日 _____
ワード(または支部) _____
ステーク(または地方部) _____
意見と写真の掲載を許可します。
署名 _____
親の署名(18歳未満の場合) _____

「一度だけ」の及ぼす害



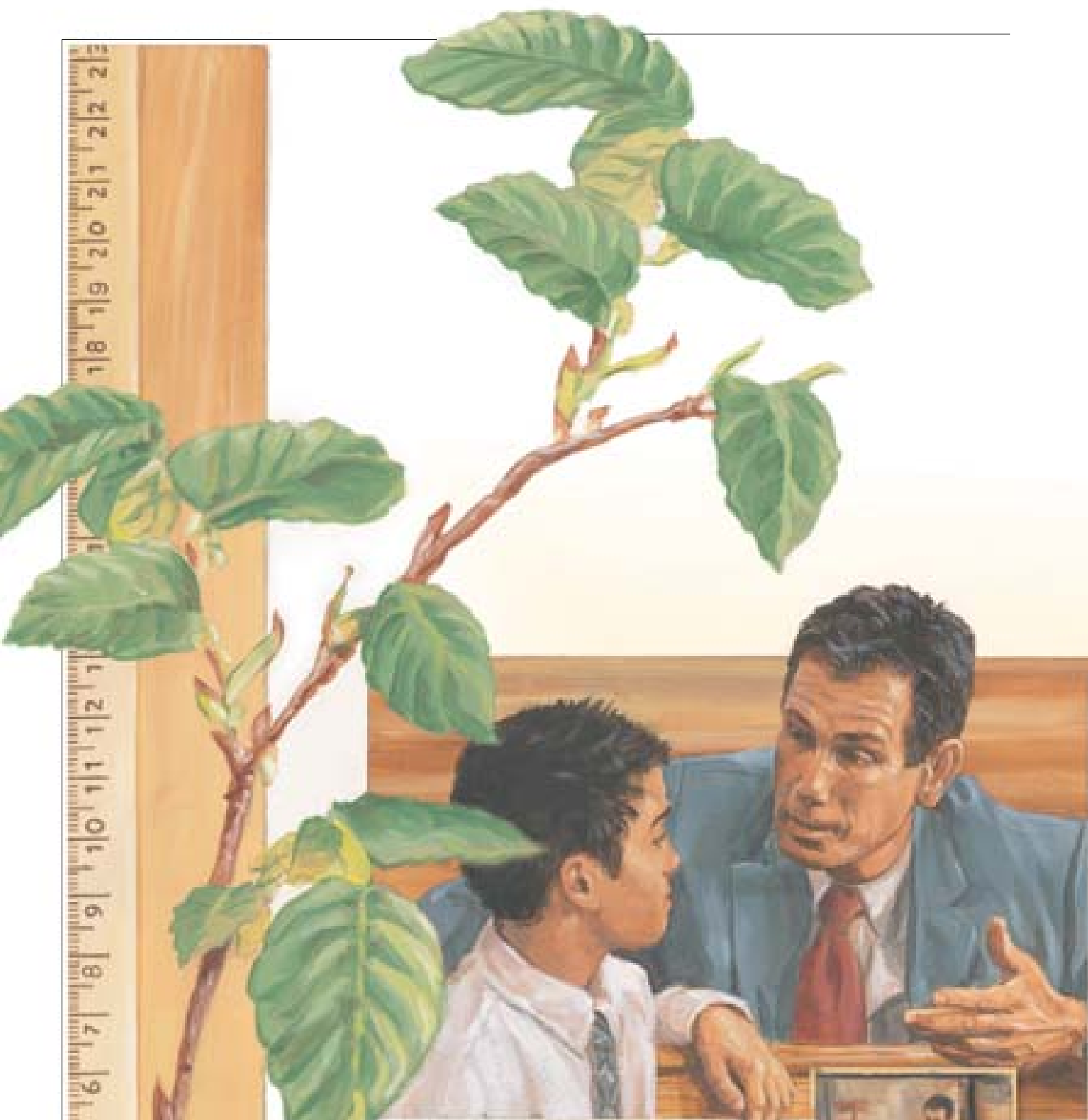
「何年も前、息子がわたしに、アルコール類やたばこがどんなものか経験してみるのかがどうしていけないのかと尋ねたことがあります。息子は知恵の言葉を知っていましたし、アルコール類やたばこの健康への悪影響

も知っていましたが、なぜ自分でちょっとそれを試してみたいとはいけないのかと尋ねたのです。わたしは、そんなに自分で試してみたいなら、納屋に行ってみてちょっと肥料を食べてみればよいと答えました。息子はぞっとした様子で後ずさりして、『気持ち悪いこと言わないでよ』と言いました。

わたしは『そう思ってくれるのはうれしいよ。だけど、実際どんな味がす

るか、ちょっと試してみたらどうだい。あるものが自分のためにならないと分かっても試してみたいのなら、その考え方をほかに応用してみても悪くはないだろう』と言いました。『自分で試してみる』ことの愚かさは、この説明で16歳の息子に十分伝わったようでした。」 ■

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
「罪と苦しみ」聖徒の道 1994年4月号、31-32



執 事で教会に集っているのは
わたし一人でした。
そこでビショップとわたしは近所を歩いて回り、
定員会の若い男性の家を1軒ずつ訪問し、
教会に戻って来るようにと勧めました。



召しを通して 成長する

七十人
ユリシス・ソアレス長老

わたしはブラジルで、善い両親のいる善い家庭に生まれ、4人の兄弟とともに育ちました。生まれたころ、両親はまだ教会の会員ではありませんでした。二人が教会に加わったのは、わたしが小さかったころです。わたしは8歳でバプテスマと確認の儀式を受けました。

12歳になると、わたしはビショップに呼ばれ、面接を受けました。そのときビショップは、アロン神権とは何かを詳しく教えてくれました。神権を持つことでどのような責任を引き受けることになるかを説明してくれたのです。わたしは執事定員会会長に任命されましたが、定員会で毎週活発に集っているのはわたしだけです。そんな状況の中で、偉大なビショップは教会での奉仕についてとても大切なことを教えてくれました。

簡単な勧め

ある日曜日のこと、わたしたちは礼拝堂で神権会に出席していました。すると、ビショップが

わたしの方を見て尋ねました。「ほかの男の子たちはどこにいますか。執事定員会の兄弟たちはどこですか。」

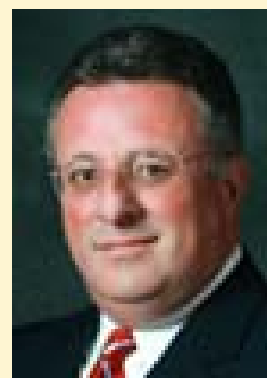
わたしは答えました。「ほくだけです。ほかにはいないと思います。」

「定員会の会員と親しくなるために何かできることはありますか」とビショップは聞きます。

わたしは答えました。「分かりません。」

するとビショップは優しく言いました。「どうすればよいか教えてあげましょう。」

集会后すぐ、ビショップはわたしを連れて外に出ました。二人で近所を歩き回りながら定員会の名簿にある若い男性を一人ずつ訪問し、また教会に来るように勧めました。すると何回か訪問するうちに、何人かがほんとうに教会に戻って来たのです。その中には、後に専任宣教師として奉仕し、すばらしい家族を持ち、ビショップやステーク会長になった兄弟たちもいます。すべてはビショップとわたしのあの短い訪問から始まりました。ビショップはあの小さなワードで特に必要とされている事柄にちゃんと気づいていたのです。わたしはとても感謝しています。いつまでも心に残る教訓を学んだからです。



ビショップは
わたしを信頼して
割り当てを
与えてくれました。
そして教会で奉仕し、
証あかしを使って
何かをするときに
大きな喜びがあると
理解させてくれました。



16歳の誕生日を
間近に控えて
いたころ、
ビショップはわたしを
日曜学校の教師に
召しました。

わたしは不安になり、
おじけづいてしまいました。
レッスンを準備しながら、
ひざまずいて祈りました。
次の日曜日、わたしは
クラスの生徒たちに、
信仰をもって祈るならば
天の御父は
こたえてくださると
伝えることができました。

これまでの人生を通して、人は戻るようにとの勧めを受ける備えができていたことを学んできました。皆さんは勧めに行かなければなりません。あ那时的わたしのような、神権者としての経験の浅い少年でも、王国の発展に大きく貢献できるのです。

執事定員会会長のときのあの経験は役に立ちました。ビショップは実に賢明でした。将来を見通す目を持っていました。ビショップは、若い男性だったわたしには教えてくれる人が必要だと分かっていたので、わたしにあの割り当てを任せました。そして、教える役を買って出てくださいました。だからこそ、時間を割いて一緒に訪問しながらわたしを助け、支えてくれたのです。ビショップはわたしに、教会で奉仕し、証あかしを使って何かをするときに大きな喜びがあると理解させてくれました。すばらしい奉仕の機会になりました。あのビショップに永遠に感謝するでしょう。

証についての教訓

16歳の誕生日を間近に控えていたころ、あのビショップから割り当てを受け、一時的に日

曜学校の青少年クラスで代理教師を務めたことがあります。召しについて聞いたとき、不安になり、おじけづいてしまいました。教えるだけの知識がないと感じ、心の中でこうつぶやいていました。「あのクラスの教師になれるわけがない。まるで目の見えない人が目の見えない人を案内するようなものだ。」

イエス・キリストについての証というテーマを特に採り上げて話したレッスンをよく覚えています。どうすれば福音の証が得られるかについてモルモン書から学ぶことになっていました。教会が真実であり、イエスがキリストであられることを知っている、心の中では感じていたのですが、それについて祈った経験はありませんでした。わたしは、「自分で答えを求めて祈った経験が一度もないのに、一体どうすればクラスの皆に、祈って答えを得なければならないと教えられるのだろうか」と思いました。

生まれたときからずっと、イエス・キリストへの信仰について教わってきました。教会員になってから、イエス・キリストについて、天の御父について、また教会について、いつも心の中に温かいものを感じていました。この教会がイエス・キリストの真の教会かどうかという疑問を抱いたことは一度もありませんでした。真実の教会だという思いがとても強かったのも、それについて祈ったこともまったくありませんでした。しかしあの週、わたしはレッスンの準備をしながら、福音が真実であるという確認を得るために祈るべきだという結論に達しました。

わたしは自分の部屋でひざまずきました。そして、この教会がイエス・キリストの真の教会であるという確認を心に得るために勢力を尽くして祈ろうと決めました。偉大な現れや天使の訪れがあるとは思っていませんでした。答えがどのように来るのか分かりませんでした。

ひざまずいて、この福音は真実かどうか主に尋ねると、心の中にとっても心地よいものを感じました。小さな声が、福音は真実であり、この福音に従って生きていくべきだという確認を与えてくれました。あまりにもはっきりとした気持ちだったため、知らないとは決して言えませんでした。この答えを無視することができなかったのです。小さな声でしたが、心に生まれた気持ちは非常に強いものでした。

その日は一日中うれしきでいっぱい、悪いことは何も考えられませんでした。学校の子供たちが何か悪いことを口にしても、耳を傾ける気になりませんでした。心にあるすばらしい気持ちについて思い巡らしながら、わたしはまるで天国にいるようでした。

次の日曜日、青少年クラスに臨んだわたしは、証をし、信仰をもって祈るならば天の御父はこたえてくださると伝えるこ

とことができました。わたしはヤコブの手紙第1章5節を読みました。ジョセフ・スミスも読んだ、知恵を求めて神に祈り求めることについての聖句です。しかし次の節には、「疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている」ので、信仰をもって祈らなければならないと書かれています(ヤコブの手紙1:6)。また、疑いの気持ちを抱いたまま祈る人は、答えを期待できないとも書かれています。そこでわたしは、この小さなクラスの皆に向かい、また自分自身に対しても、答えを求めながら真の信仰をもって祈るべきであり、そうするときに主はこたえてくださると言いました。

そのとき以来いつも、また難しい事柄に直面しているときには特に、正しい決断に必要な確信を自分自身の証から得るようになりました。福音の標準を守ろうとして試練に遭ったという経験はだれでもあるでしょう。わたしのように、学校でただ一人の教会員という場合は特にそうです。しかしわたしは、自分が持っていた証のおかげで、友人から間違ったことをするように圧力を受けたときも、自分が守っているのはイエス・キリストの真の福音であると思出すことができました。わたしはそのことを心の中で知っていたのです。以来、わたしはその証を絶対に否定できなくなりました。

レッスンをしたあの日、わたしの人生は大きく変わりました。その後、すばらしいビショップと家族の助けを借りながら、伝道に出る準備を続けました。そして伝道に出ました。帰還後は大学に入って学位を取得しました。結婚し、家族を築き始めました。すべてのことは、まだ16歳くらいだったときにささげたあの祈りから始まったのです。

生涯にわたる成長

すでに話しましたが、わたしは以前から福音が真実であると知っていました。しかし尋ねなければなりません。そして自身の経験を人々と分かち合わなければなりません。これは伝道中にも役立ちました。なぜなら、人に祈るよう勧めるとき、自分の経験を伝え、自分も祈ったことがあると話することができたからです。信仰をもって祈るならば、答えを得られるとわたしは証しました。

教会での召しや割り当てを通して、学び、奉仕し、成長する機会を与えられたことで、わたしは偉大な祝福にあずかりました。そのような機会が訪れるとき、皆さんがそれらを生かせるようにと祈ります。そうすることによって、皆さんの人生はきっと大きく変わることでしょ。■

石を投げる者は、利き手で石投げの両端をつかみます。片方の端を4本の指に巻き付け、もう片方の端を親指と人差し指でつかむこともありましたが、通常、頭の上で石投げを振り回すことはせず、1度だけ回してから、(上手投げか下手投げで) 投げる動作に入り、親指と人差し指でつかんでいた方の端を離して全力で石を飛ばします。



古代の石投げは、たいてい、1本の細長い、羊毛か亜麻で編まれたひもで作られており、真ん中に石を包んで固定する部分がついていました。ひもが長ければ長いほど速くまで飛ばせます。最も長い石投げを使うと約250メートルは楽に飛ばすことができ、速度は時速100キロから160キロになります。

石は丸く、やや重みがあるものが好まれました。より正確に飛ばせるからです。通常、石投げに使う石の大きさは直径約5センチ(ゴルフボールとほぼ同じ大きさ)です。

自分の ゴリアテに 打ち勝つ

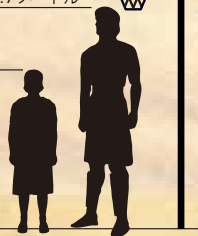
ダビデは、ゴリアテと戦ったとき、まだ17歳にはなっていなかったものと思われます。聖文には「血色がよい」と書かれており、これは「赤毛の」もしくは「バラ色の^{はっ}頬(若々しい)」を意味します。

「イスラエルに、
神がおられることを
全地に知らせ[るために],」
「……きょう、主は、
おまえをわたしの手に
わたされるであろう。」
(サムエル上17:46)

標準的なバスケットボールの
ゴールの高さ、3メートル

ゴリアテの身長、約2.7メートル

ダビデ



ししとくまが父親の羊の群れを襲ったとき、ダビデはこれを撃退しました。この経験がゴリアテと戦うための自信につながりました。

わ たしたちは皆、
人生のゴリアテ
に立ち向かわな

くてはなりません。試練や困難、誘惑など、大きすぎてとてまかなわないと思えるようなものばかりですが、ダビデのように神に頼り、自分でできることを行うならば克服できます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)は次のように教えました。「誘惑がやって来たら、^{ごうまん}傲慢で人を惑わすその巨人に向かって『ゴリアテめ!』と叫んで、ダビデがガテのペリシテ人に対したときのように戦ってください。」(『実生活の中のゴリアテに打ち勝つ』『リアホナ』2002年2月号, 5)

サムエル記上第17章を読みながら、ダビデとゴリアテの戦いから何を学ぶことができるか考えてください。ダビデは神を信頼していました。それはどのように役に立ちましたか。戦いを前に、ダビデはどのように備えられましたか。主の王国を築くために、一人の10代の若者はどれほど大きな影響を与えられると思いますか。

ダビデのこの驚くべき物語に

ついて学ぶのに役立つ、幾つかの詳しい情報を紹介します。

ゴリアテのうることじのよろい^は重さ「五千シケル」でしたが、それは、57キロから90キロだったと思われます。

ゴリアテのやりの柄は「機^{はた}の巻袴^{まきばこ}のよう」だったと書かれています。重さは9キロを超えていたでしょう。やりの穂の「鉄は六百シケル」とありますが、これは7キロから11キロです。



ペリシテ人^{びと}は、もともとエーゲ海周辺の地域に住んでいたと思われます。ゴリアテは「巨人」とさえ呼ばれた背の高い民族の子孫だったのかもしれませんが(申命2:10-11;ヨシュア11:22参照)。

ゴリアテの青銅^{あき}のかぶとは、恐らく青銅、銅、または鉄でできていました。かぶとは(肩に背負った)投げやり^{なげやり}に固定され、それで背中や首の後ろを守っていたものと思われます。





いや 癒しにおける 霊的な要素

アレクサンダー・B・モリソン長老
(七十人の一員として1987年から2000年まで奉仕)

聖文にあるイエスの生涯や教えに関する記述には、あらゆる苦しみを癒される主のたぐいぬ力について書かれた箇所が数多く見られます。四福音書では、カペナウムで役人の息子を癒されたことや(ヨハネ4:46-

53参照)、大祭司の僕マルコスしもべの耳の傷を回復されたことなど(ルカ22:50-51;ヨハネ18:10参照)、イエスが病人を癒された出来事は20以上も記録されています。

キリストの癒しの力は、肉体の病気だけでなく「民の中の……あらゆるわずらい」にも及びました(マタイ4:23, 強調付加。モーサヤ3:5;3ニーファイ17:5-10も参照)。無限の哀れみにあふれたイエスは、肉体の病を持つ人々だけでなく、心や感情の病に苦しむ人々をも癒されたのです。

これらの癒しは、イエス・キリストの贖罪しよくざいに不可欠な要素です。贖罪はきわめて強力です。すべてのものを包み、あらゆるものに届くため、贖罪の力は罪の代価を払うだけでなく、死すべき現世のあらゆる痛みをも癒すことができるのです。主は御自身の民をどのように救うかを完全に知ることができるよう、あらゆる苦痛と苦難を受けられ(アルマ7:11-12参照)、アダムの家族に属するすべての人々の罪という、想像を絶するような重荷を負われました(2ニーファイ9:21参照)。そして同じように、その原因が何であろうと、苦しんでいるあらゆる人々に御自身の癒しの力を差し伸べておられます。「彼……の打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ53:5)



いや癒しの神聖な賜物は、わたしたちのことを最もよく御存じである御方により、一人一人の必要に合わせた様々な方法で現れます。それは、主がわたしたちのことを何よりも愛しておられるからです。

「ベテスタの泉」
カール・ヘンリック・ブロック画、
ブリガム・ヤング大学付属美術館の
厚意により掲載。

癒しを
受ける側
にいる
わたしたちにとって、
信仰は必須の条件です。
信仰がなければ、
癒しの奇跡は
起こり得ません。

神権の役割

救い主は御自身の聖なる力によってすべての人々を癒すことができになりますが、聖なるメルキゼデク神権の権能を行使するわたしたち死すべき人間は、主の御心みこころに従わなければなりません。神権者が儀式を施しても癒されない時があります。癒されることが神の御心ではないためです。例えば、使徒パウロは自分を苦しめる「肉体[の]一つのとげ」を取り除いてほしいと「三度も主に祈[り]」しました(2コリント12:7-8)。このとげが何であったかは記されていませんが、主はそれを聞き入れることをされず、次のようにおっしゃいました。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。」(2コリント12:9) パウロは、かんなん艱難と苦痛の両方が人生で必要であり、避けられないものであることをだれよりもよく理解していました。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、神権者による癒しの力に限界が設けられているのには知恵があることを理解していました。そしてこのように述べました。「神権の力は無限ですが、神は知恵をもってわたしたち一人一人のうえに一定の限界を置かれました。……わたしは神権によってさえもすべての病人を癒せないことを感謝しています。死ぬべき人を癒してしまうかもしれません。……わたしは自分が神の目的をくじくことになるのを恐れます。」¹

何年も前、年若く、経験の浅い支部会長であったわたしは、支部のある兄弟から、重い病気を患っている彼の妻を祝福したいので助けてほしいと頼まれました。この男性がわたしに妻の完全な快復を祝福するよう願っていることは明らかでした。わたしもまったく同じように願っていました。その夫婦はどちらも、問題を抱えるわたしたちの支部にとって貴重な人材でした。

夫が妻の頭に聖別された油を定められたとおりの方法で注ぎ、続けてわたしが油注ぎを結び固めました(ヤコブの手紙5:14参照)。驚いたことに、わたしの口から出てきたのは自分の意志とは異なる言葉でした。わたしはその女性が「死に定められて」おり(教義と聖約42:48)、病気から快復することはないが、救い主の愛ある腕うでに抱かれながら、静かに、そして平安のうちに逝くであろうと伝えたのです。

翌日、彼女は亡くなり、わたしは葬儀を管理しました。悲しみのうちにも、わたしは知恵を得ていました。偉大な教訓を学んだのです。癒しの祝福を施すときには次のことを心に留めなければなりません。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)

これらのことから分かるように、癒しの神聖な賜物たまものは、わたしたちのことを最もよく御存じである御方により、一人一人の必要に合わせた様々な方法で現れます。それは、主がわたしたちのことを何よりも愛しておられるからです。キリストの癒しの力は、体の一部の異常を治し、疲れた心から労苦という重荷を取り去るという形で永続的な安らぎを与えてくれることもあります。しかし、日ごろから耐え難いほどの重荷を負っている人々が切望する平安、休息、苦しみからの解放は、医学的な癒しからではなく、さらなる強さ、理解力、忍耐、哀れみという形でもたらされるのかもしれませんが。それによって、苦しみを負った人々は重荷に耐えられるようになるのです。そしてアルマとその民のように、「容易に重荷に耐え」、「心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従[う]」ことができるようになるでしょう(モーサヤ24:15)。





医学の役割

原因を問わず、病気で苦しむすべての人が神権の祝福を受けさえすれば、重荷が半永久的に取り去られると信じるべきではありません。わたしは神権の祝福の力を擁護し、支持しています。自分自身の多くの経験から、ただイエス・キリスト御一方のみが、最終的で完全な癒しに必要な貴い「ギレアデに〔ある〕乳香」をお持ちであることを知っています(エレミヤ8:22)。しかし同時に、苦しみに対処するうえで大いに役立つ、すばらしい知識を神がお与えになっていることも知っています。わたしは、神から与えられたそれらの知識や情報をあらゆる方法で活用しなければならぬと信じています。

病を患い、神権の祝福を受け、重荷が軽くなるように熱心に祈っておきながら、病気の専門家に診てもらおうと、自分の信仰がひどく欠けているのではないかと感じてしまう人がいます。信仰は薬の代わりになると考え、処方された薬の服用をやめてしまう人もいます。そのような考えは明らかに誤りです。専門家の助言を受けて実行することと並行して信仰を働かせることは矛盾していません。実のところ、経験豊富な専門家の助言に従うことが、信仰を働かせるうえでの必要条件になっている場合もあるのです。

医学や心理学など、専攻した分野や専門にかかわらず、賢明な医療専門家は、治療における大切な要素の一つが霊性であることを認めるようになってきました。つい10年前まで、合衆国の医学部内で霊性やヒーリングに関する授業を行っていたのは一握りでしたが、今は半数以上の学校が行っています。うつ病の心理療法を例に挙げると、特に信仰心の篤い患者に対する霊的な面からの治療が、宗教と無関係な治療法と比べて同等以上の効果を上げることが証明され始めています。肉体的な病と心の病を患っている人に対し、霊的な面を重視した方法で治療する医師や心理療法士がますます増えています。

信仰の役割

癒しを受ける側にいるわたしたちにとって、信仰は必須の条件です(2ニーファイ26:13;モーサヤ8:18;教義と聖約35:9参照)。「望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」信仰は(ヘブル11:1)、御霊の賜物であり、義にかなった人への報いとして授けられます(1コリント12:9;教義と聖約46:19-20参照)。信仰がなければ、癒しの奇跡は起こり得ません。「もしも人の子らの中にまったく信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡も行おうことができにならない。したがって、彼らが信じてからでなければ、神は御自身を現されなかった。」(エテル12:12)

完全な癒しには霊的な要素が大きな部分を占めています。完全な癒しを得るには、わたしたちの持つ神の子供としての性質と、神と自分の関係を理解することが必要です。聖文は、死すべき人間が肉体と霊の両方から成っているということを教え、現代の預言者もそれが確かであると語っています。前者すなわ

ち肉体は朽ちるものであり、後者すなわち霊は永遠です。両者が一つに結合して命ある人を構成しています。

御父の偉大な幸福の計画の教えるところによれば、すべての死すべき人間に訪れる死によって分離した肉体と霊は、神が賢明に定められた時期に再結合します。そして「すべての人は不朽となり、不死となる。彼らは生けるもの〔となり〕、……完全な知識を持つ」のです(2ニーファイ9:13。アルマ11:42-45も参照)。



すばらしくも
キリストが
全人類へ
愛を示してくださった
おかげで、
あらゆる病に
苦しむ人々が
希望と励ましを
得ることができます。
主の愛は
いつもそばにあり、
決して絶えることが
ありません。

人が文字どおり神の子供であり、天の御父のようになることを目指すという神聖な機会が与えられていることを理解し、わたしたちに対する御父の愛が永遠で不変であることを認識するとき、愛にあふれた御父と御子、すなわち救い主を信じる信仰は、わたしたちの生活に平安をもたらします。肉体もしくは心が原因で患う病が医学面、心理学面、社会面において「肉体[の]一つのとげ」として残ったとしても、この平安が去ることはないでしょう。

苦しみの役割

わたしは、人の霊的な強さはその人の魂がどれほど鍛えられるかに直接関係していると信じています。しかし、艱難の中に苦しみも栄光も求めるべきではありません。苦しみそのものに本質的な価値はありません。苦しみは人を強くし、清めますが、確かに人を傷つけ、つらい思いもさせます。苦難によって、より強くなる人もいれば、傷つき倒れてしまう人もいます。作家のアン・モロー・リンドバーグは賢明にもこう述べました。「苦難から学ぶということができれば、全世界はもっと賢くなれるだろうに。なぜ

なら、だれの人生にも苦難は付き物だから。」² もしわたしたちが「[キリスト]の苦難にあずか[る]」必要があるならば(ピリピ3:10)、心を尽くして主を知り、主に倣う努力という代価を払わなければなりません。その代価には実際に苦しみが伴うかもしれませんが、苦しみとともに哀れみ、共感、忍耐、謙遜さ、進んで自分の思いを神の御心に従わせる意志も抱かなければなりません。

すばらしくもキリストが全人類へ愛を示してくださったおかげで、あらゆる病に苦しむ人々が希望と励ましを得ることができます。主の愛はいつもそばにあり、決して絶えることはありません。パウロはこのように証しています。

「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。……

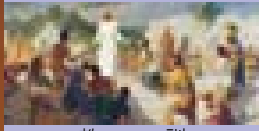
わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(ローマ8:35, 38-39)

無限の愛と哀れみをお持ちのイエスは、わたしたちの試練や悲しみを御存じです。なぜなら、主は「民がどの地に住んでいようとも、すべての民を心にかけてられる……。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神の憐れみの心は全地のうえに及んでいる」からです(アルマ26:37)。■

注

1. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』16
2. "Lindbergh Nightmare," *Time*, 1973年2月5日付, 35





心の変化を経験する



皆さんもわたしも、
大きな心の変化と
霊的な再生がもたらす
恩恵にあずかることが
できるでしょう。
そして平安、愛、真の喜び、
絶えず善を行う望みという、
約束された祝福を
刈り取ることが
できるのです。

七十人
キース・K・ヒルビッグ長老

何年前、東ヨーロッパを訪問したとき、一人の若い長老がほかの宣教師の前に立ち、自身の人生を変えた経験について話すのを聞きました。ゾーン大会と呼ばれる宣教師の集会で話したその長老は、同僚とともに遠方の町でイバン(仮名)という中年の男性に会い、福音を教えていました。擦り切れた衣服、無精ひげ、そして自信のなさそうな様子から、その求道者が大変な環境の下

で暮らしていることがうかがえました。厳しく、過酷な人生を送ってきたのです。

宗教的な戒めで自己を厳しく律したことがたくさんありました。回復された福音の教えにそぐわない習慣を捨てなければなりませんでした。新しい原則を受け入れ、そして取り入れる必要がありました。イバンには学習意欲があり、バプテスマと確認を受けるために熱心に準備しました。擦り切れた服と無精ひげは相変わらずでしたが、最初の一步を踏み出し



息 子アルマは、
神の敵であった
状態から、
改宗し、
王国の建設に燃えた
新しい人間へと
生まれ変わる、
個人的な経験をしました。

たのです。イバンがバプテスマを受けるとすぐ、その長老は転任になりましたが、いつかまた彼に会いたいと思っていました。

6か月後、伝道部会長は再びその若い長老を以前の支部に送ることにしました。驚きながらも大喜びの長老は、支部に戻って最初の日曜日、新しい同僚とともに教会にやって来ました。聖餐会が始まるまで時間がありました。会員たちは長老が戻ったことを喜び、駆け寄って来て、満面の笑みで温かく迎え入れました。

長老は数少ない会員たちのほとんどの顔を覚えていました。ところが、6か月前に同僚とともに福音を教えバプテスマを施した男性の姿が見当たりません。落胆と悲しみに包まれました。イバンは悪習に逆戻りしてしまったのでしょうか。バプテスマの聖約を尊ぶことができ

なかったのでしょうか。悔い改めを通して約束された祝福を失ってしまったのでしょうか。

不安な気持ちで考え込んでいると、一人の見知らぬ男性が駆け寄って来て長老を抱き締めました。その人はきれいにひげをそり、自信に満ちた笑みをたたえていて、表情から、その人の善良さがはっきりと見て取れました。白いワイシャツにきちんとネクタイを結び、安息日の朝に集ったわずかな人々のために聖餐の準備をしに行くところでした。彼が話し始めて、ようやく長老は分かりました。目の前にいたのは同僚とともに教え、バプテスマを施した以前のイバンではなく、新しいイバンだったのです！長老は、その友に起こった信仰の奇跡、悔い改めの奇跡、そして救いの奇跡を目の当たりにしました。贖罪がまさに現実のもの



ブリガム・ヤング
大管長は
「新しく生まれる」とは、
「真理の御霊と
神にきわめて
完全に、全面的に
自分をささげ[る]」人々
のことを指す
と教えています。

であることを知ったのです。

長老はゾーン大会に出席していた宣教師たちに向かい、彼の転任以来、イバンがあらゆる面で変わり、成長を重ねていたのだと述べました。イバンは福音を心から受け入れ、その光を輝かせていました。バプテスマを受け、その後も続く改宗の過程を力強く進んで行くのに十分な「心の変化」を経験していました(アルマ5:26)。より高い神権と神殿の儀式を受けるために準備していました。イバンはほんとうに「再び生まれ[た]」のです(アルマ7:14)。

長老は話を終えるに当たって、声に出してこのように自問しました。「この6か月間で、わたしはどれほどの『心の変化』を経験しただろうか。」続けてこのように言いました。「わたしは『再び生まれている』だろうか。」この二つの言葉は、一人一人が継続的に心に留めるべき深遠な問いかけです。

以来、わたしはあの若い宣教師の言葉とイバンの行いについて熟考を重ねてきました。心に生じる「大きな変化」(アルマ5:12)と「霊的に神から生まれ[る]」ことが(アルマ5:14)、回復された福音を心から受け入れる過程でどのような役割を果たすかについて深く考えてきました。そして、この二つが主の教義において重要な部分を占めており、死すべきこの世で一度だけ経験すればよいというものではないと結論づけるに至りました。どちらも絶えず続いていくものであり、改宗の過程をいっそう深いものとし、一人一人をさらに優れた者にするという目的があるのです。この二つのおかげで、わたしたちは永遠の命に向けて、より十分に備えることができるのです。

霊的再生というチャレンジ

再び生まれ、心に大きな変化を経験するというチャレンジは、すべての会員が受け入れるべきものです。キリスト教のグループの中には、過去または将来の自分の行動に関係なく、キリストが世の救い主であられることを認めさえすれば再び生まれることができると信じている人々がいます。キリストの役割を単に認め、キリストへの信仰を1度表せば、最終的に御父と御子のもとに戻るための条件を十分に満たせると力説する人もいます。善意から生じた考えであるかもしれませんが、これは正しくありません。

新約聖書には再び生まれるという概念について多数の記述がありますが、翻訳の過程を経るうちに、再び生まれるた

めにどのようにしたらよいかについての説明が必ずしも正確なものではなくなってしまいました。例えば、救い主(ヨハネ3:5-7参照)はこの原則を宣言しておられ、そのほかバプテスマのヨハネ(マタイ3:11参照)、パウロ(ローマ6:2-6;2コリント5:17;ガラテヤ4:29;エペソ4:24参照)も同様に宣言していますが、その意味についての明確な説明がありません。

対照的に、モルモン書は大きな心の変化と再び生まれる過程をさらによく理解するうえで役立つすばらしい情報源です。モルモン書に登場する預言者はこの過程に関する、より完全な教義を宣言しています。大きな心の変化と再び生まれることについて、より深く掘り下げたのが息子アルマです。アルマは教会の会員に3つの質問を投げかけました。「さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」(アルマ5:14)

水に沈めるバプテスマが教会の会員になる機会を与えてくれることは標準聖典から分かりますが、この儀式だけで天の御父のもとに帰るために必要な霊的再生が可能になるわけではありません。同様に、わたしたちはバプテスマの後に受ける確認を通して、聖霊を常に伴侶とする権利を得ます。しかし、真に悔い改め、その結果として実際に聖霊を受けて初めて、わたしたちは聖められ、そして霊的に再び生まれることができます。したがって、心を貫くようなアルマの質問は、生涯を通してわたしたち一人一人が繰り返し尋ねるべきものなのです。

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)は「新しく生まれる」ことについてこのように教えています。「肉体を持つ人間が、生きている間に御霊によって生まれるということが起きます。そして、神がわたしたち一人一人に与えられた肉体と霊、霊界、また肉と霊に作用する原則や力をより完全に理解するときに、新しい誕生と呼ぶことが適切と思われるほど、人が真理の御霊と神にきわめて完全に、全面的に自分をささげ、その御霊にすっかり包み込まれることがあることをわたしたちは知るでしょう。」¹

ペニヤミン王は民に語った感動的な説教の中で、福音の原則にどのように従うべきかについて勧告を与えました(モーサヤ2-4章参照)。そして大胆にも、民が自分の言葉信じ



ブルース・R・マッコンキー長老はこのように述べています。「実際に再び生まれた教会員は……この状態に達したのは、単に教会に加わったことによるものではありません。信仰、義、愛、そして世に打ち勝ったことによるのです。」

るかどうか尋ねました。民からの核心を突いた返事は力強い模範です。「すると民は皆、声を合わせて叫んだ。『そのとおりに、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かであることを知っています。御霊は、わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。』」(モーサヤ5:2)

彼らはまたこのように言いました。「わたしたちは、残りの全生涯、神の御心^{みこころ}を行い、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わします。」(モーサヤ5:5、強調付加)

その後ベニヤミン王は民に対し、彼らが何をした結果どのようなことが起こったかを説明し、再び生まれることの優れた定義を述べました。

「あなたがたは、わたしの望んでいた言葉を語ってくれた。あなたがたが交わした聖約は義にかなった聖約である。

さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなたがたを子^ことしてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名^{みな}を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。」(モーサヤ5:6-7)

ベニヤミン王に従ったこれらの人々は確かに、悪を行う性癖をもう二度と持つことがないほどに大きな心の変化を経験しました。さらに、彼らは紛れもなく霊的に誕生しました。つまり、新しく生まれたのです。

再び生まれることは過去の罪の記憶を消すわけではないということを覚えておいてください。しかし、それは良心に安らぎを与え、背きに伴う苦痛を和らげてくれます(モーサヤ27:29;アルマ36:19参照)。

再び生まれることがもたらす祝福

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)は次のように語りました。「実際に再び生まれた教会員は、祝福され恵まれた状態にあります。彼らがこの状態に

達したのは、単に教会に加わったことによるものではありません。信仰(1ヨハネ5:1)、義(1ヨハネ2:29)、愛(1ヨハネ4:7)により、そして世に打ち勝ったこと(1ヨハネ5:4)によるのです。』²

息子アルマは、神の敵であった状態から、改宗し、王国の建設に燃えた新しい人間へと生まれ変わる、個人的な経験をしました。

「彼はこのように述べた。『わたしは自分の罪を悔い改め、主に贖^{あがな}われました。まことに、わたしは御霊によって生まれました。

主はわたしに言われました。「全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならない。

このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。』」(モーサヤ27:24-26、強調付加)

もしすべての人が再び生まれて、心の変化を経験しなければならぬとすれば、活発な教会員の子供として生まれるのも、青少年や成人になってから改宗するのも同じです。わたしたちは皆、改宗の過程をたどりながら、いつか心の変化を経験し、御霊によって生まれなければならないのです。再生と心の変化という過程は全人類のためのものであり、すべての国民、すなわちすべての個人が経験できるものです。

聖文には、パウロ(使徒9:1-20参照)や息子アルマ(モーサヤ27:8-37参照)のように、驚くべき方法で再び生まれた人物についての記述があります。しかし、現代だけでなく、聖書やモルモン書の時代に生きたほとんどの人々にとって、この心の変化は1度限りの大きな出来事ではなく、むしろ自分自身の中で、ゆっくりと起きる過程です。

マッコンキー長老はプリガム・ヤング大学第1ステークのステーク大会で、慰めと励ましを与える次の言葉を語っています。「ほとんどの人にとって、改宗〔霊の再生とそれに伴う罪の赦し〕は過程であって、一步一步、段階に段階を重ね、水準に水準を増し、低い所から高い所、恵みに恵みを加えられ、その人が義の業に完全にふさわしい状態になるまで続きます。さて、これはある人が一つの罪を今日克服^{きょう}して、明日は別の罪を克服するということです。今、自身の生活のある分野に

わたしが教会を好きな 一番の理由

イザベル・アルパート

先日、主人とわたしは
数人の友人と夕食
を共にしました。話

題が宗教へと移ると、教会から
足が遠のいている一人の友人
が、なぜ教会が真実ではないか
についてわたしに話し始めました。

頑固な様子で語る友人の言葉は
敵対的で、怒りがこもっていました。
わたしはその間ずっと聞いていま
した。初めは泣きたい気持ちでしたが、
次第に腹が立ってきて、彼をたしなめ
ようと思いました。しかし、静かで細
い聖霊の声はわたしに黙っている
ようにと仰いました。

友人の手厳しい非難は、夕食を終え
テーブルで勘定を済ませるまで続いま
した。それから、わたしの反撃を待っ
たかのように彼は一息つきました。わた
しは少しの間、座ったまま心の中で祈
りました。そして、穏やかにこう言いま
した。「わたしが日曜日に教会に行く
のが好きな一番の理由を知ってる？ そ
れは聖餐よ。聖餐のおかげでわたし
は静かに頭を垂れて天の御父に祈る
ことができるの。過ごした1週間、こ
うしておけばよかったという事柄をすべ
て天のお父様にお伝えして、どうや
ったら改善できるかを考えるのよ。」

それからこう続けました。「それま
での1週間でわたしが祝福をもたらそ
うと努力した人々について考え、次の
1週間に祝福できる人をもっと見つけ
られるように、天のお父様に助けをお
願いするの。最良の自分になれるよう、
毎週、聖餐の間にこのような時間が
あって感謝しているわ。」

友人はわたしを見ましたが何も言
いませんでした。わたしたちはレストラ
ンを出て、車の所まで歩いて行きました。
そこで友人に、我が家の本棚に自
己啓発の本が何冊も置いてあったの

を覚えているかどうか尋ねました。

彼は覚えていました。わたしは、
教会に入って以来そのたぐいの
本を一切読まなくなったと伝えま
した。そして、答えを見いだすこ
とのできるただ一つの本はモルモン
書だと言いました。

数日後、彼からおおびの電話
がかかってきました。

教会から足の
遠のいている
友人は
怒りに任せて
話していましたが、
わたしは
この教会が好きな
一番の理由は
聖餐だと伝えました。

「キリストのもとに来て、……勢力と
思いと力を尽くして神を愛[しなさい]」とモロナイは勧めています(モ
ロナイ 10:32)。この勧告に従おう
とするときに、神の子供たちへのわ
たしの愛は強められます。自分に敵
対しようとする人をさえ愛せるよう
になるのです。■

給料日まで1週間

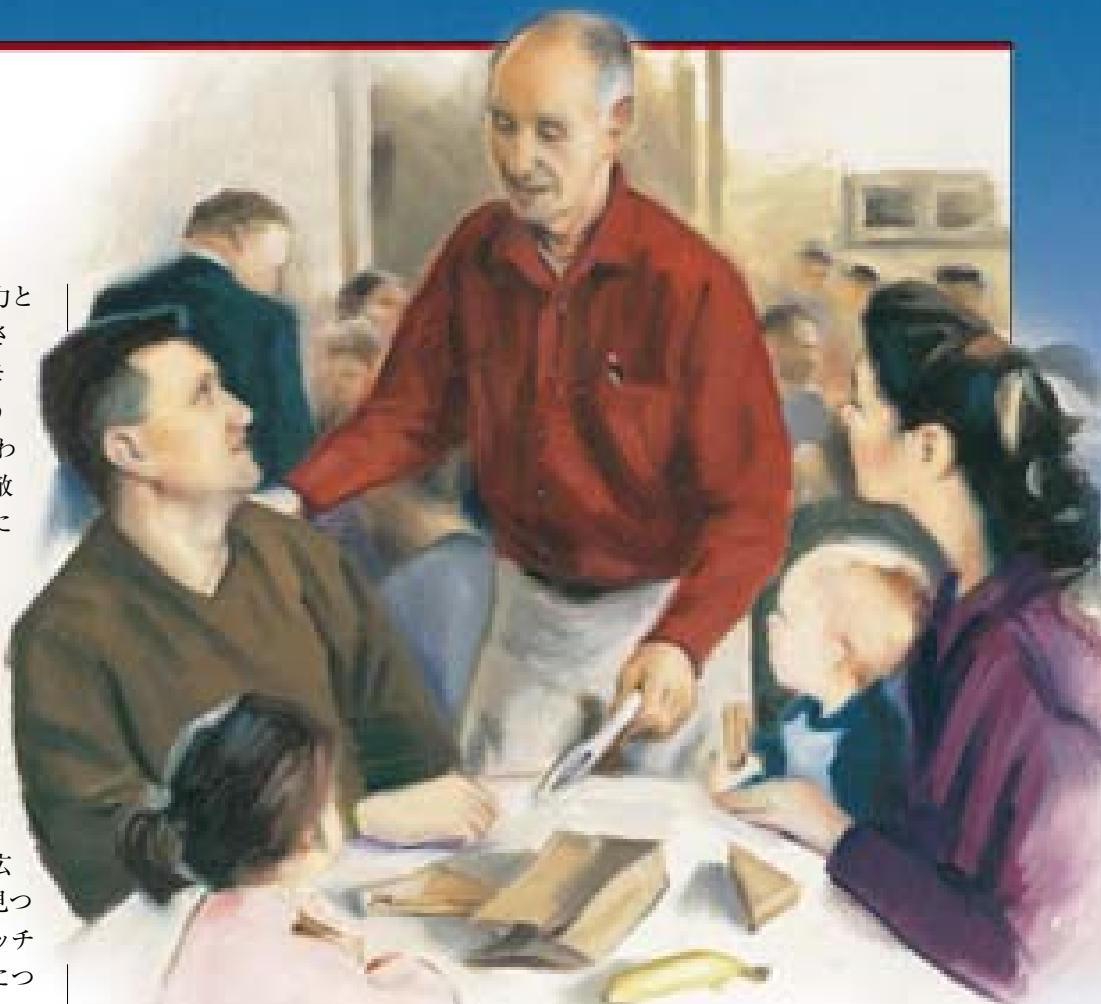
ジュリー・C・ドナルドソン

▲ 人の幼い子供を連れた
主人とわたしは、大学の広
▲ い食堂でようやく空席を見つ
けました。家で作ってきたサンドイッチ
を取り出し、我が家の苦しい家計につ
いて話し合いました。

手持ちのお金はなく、次の給料日は
1週間先です。お互いに、両親から助
けを借りたくはないと思っていました。
クレジットカードは持っていましたが、
使い始めたら切りがなくなりそうでし
た。忠実に^{じゅうぶん}什分の一を納めていたの
で、天の御父が祝福してくださることを
願っていました。

どうやって乗り切ろうかと考えてい
ると、テーブルを幾つか隔てた席から、
一人の男性がこちらに向かってほほえ
んでいるのに気づきました。我が家の
子供たちはにぎやかで活発なので、じ
ろじろ見られるのには慣れてます。
ですから気に留めませんでした。そ
の人はこちらに向かって歩いて来まし
た。そして二つに折った紙をテーブル
に置くと、主人の背中を軽くたたき、笑
顔で言いました。「なかなか忙しそう
ですね。」

そして立ち去ったかと思うと、すぐ
人込みの中へ消えていきました。紙を



見 知らぬ
その人は
こちらに

向かって
歩いて来ると、
二つに折った紙を
テーブルに置き、
主人の背中を
軽くたたきました。


開いてみると、「よく頑張っ
ていますね。うまくいよう願っ
ています!」と書いたメモがあり、
翌週までを乗り切ってさらに
少し余るほどのお金が挟んで
ありました。

目から涙があふれてきまし
た。これが祈りへの答えであ
り、什分の一を納めていたの
で与えられた祝福だという聖
霊の穏やかな確証を感じまし
た。そのとき、天の御父はこの小さな
家族のことを大切に思っておられ、お
見捨てにはならないということを知
りました。

わたしはそのメモを取っておき、こ
の数年の間に何度も読み返しました。

あの寛大な見知らぬ
人は、自分の行いがこ
こまで大きな影響を与
えるということを完全
には知らなかったはず
です。しかしわたした
ち家族にとって、この
経験は人生の分岐点
になりました。おかげ
でさらに従順になり、
信仰を深め、感謝でき
るようになったのです。

聖霊の促しと、進んで行動してくれ
た寛大な見知らぬ人、そして気の利い
たメモはわたしの家族を永遠に祝福
してくれました。■



ファビオが、歩道に置いてあった本に近づいてみると、見覚えのある金色の文字が目に入りました。それは、天の御父からの答えでした。

モルモン書はどこに行けば手に入りますか？

カーティス・クラインマン

アルゼンチンで伝道していた同僚とわたしは、ブエノスアイレスの町で家々の戸をたたきながら、何の成果もない長い一日を終えようとしていました。バスを待っていると、わたしは自己憐憫に陥り始めました。この地域に来てもう3か月になろうとしていましたが、目に見える結果は何一つありませんでした。主がっかりさせているように感じました。

ちょうどそのとき、自転車に乗った男性が、遠くの方から急いでこちらに向かって来るのに気づきました。男性は叫びながら手を振っています。怒っているように見えたので、話さずに済めばと思いながら、近づいて来たバスの方に足早に歩いて行きました。辺りは暗くなり始めていて、おまけにそこは治安の悪い区域でした。あの恐い人がこちらに着く前にバスに乗ってしまいたいと思いました。

「聞きたいことがあるんです」と男性

は叫びました。バスの方が一瞬早く着き、わたしたちは慌てて飛び乗りました。そのとき、男性がこう尋ねるのが聞こえました。「ジョセフ・スミスが翻訳した後、金版はどうなったんですか。」わたしはあ然としました。走り出したバスから飛び降りたくらいでしたが、その代わりにこう叫びました。「お住まいはどちらですか。」そして、急いで住所を書き留めました。

翌日、男性の家に立ち寄りました。ファビオという名前で、1か月前に友人のモルモン書を借りてからのいきさつを話してくれました。

「イエス・キリストのことをずっと知りたいて思っていました。あかしキリストの生涯についてのもう一つの証があるという話は一度も聞いたことがありませんでした。

聖書と、東方でのキリストの業についてしか知らなかったんです。キリストがアメリカ大陸に来られたなんてだれも教えてくれませんでした！ぜひもっと知りたいと思いました。」

数週間がたち、ファビオがモルモン書を返す日が来てしまいました。「どこに行けばモルモン書が手に入るかわかりませんでした。何よりも、わたしはこの本が真実かどうかを知りたかったのです。ひざまずき、天の御父に助けを祈り求めました。『お父様、モルモン書が真実ならば、引き続き研究できるよう、どうぞわたしのもとにモルモン書をお送りください。』」

ある日、ファビオが駅を通ると、歩道に青い本のようなものが置いてあるのがちらりと見えました。近づいてみると、見覚えのある金色の文字が見えます。それは、天の御父からの答えでした。

ファビオがバス停にいるわたしたちを見つけたのは、そのモルモン書を見つけてから数週間後のことでした。もうすでにモルモン書が真実だと知っていました。それから数週間をかけて、

わたしたちはファビオに福音の基本原則を教え、モルモン書を読み進めるよう勧めました。福音の原則を紹介する度に、それに従って生活する決意を促すのですが、ファビオはいつも「その原則に従わないわけにはいかないでしょう」と答えるのでした。程なく、彼はバ

プテスマの水に入りました。

今ではつらいことがあると、自己憐憫れんびんに陥る代わりにファビオを思い出すようにしています。落ち込んでいた二人の宣教師にファビオが投げかけてくれたあの質問と、答えを受けた後で見せてくれた主に従う決意を思い出すのです。■

不安でいっぱいだった子供たちが家庭や初等協会では教えられていたことを思い出したと知り、わたしは感動しました。まだ6歳と7歳ですが、祈りには力があるという信仰を持っていたのです。天の御父は幼い妹を助けることがおできになると知っていたのです。

その日の午後、わたしはずっと子供たちの信仰について考えていました。すると、わたしが平安な気持ちになったのはいつだったのだろうと思いました。病院に到着するまでの時間から計算すると、安らかな気持ちになったのは、バネッサとバスコが祈ったのとはほぼ同じ時間だと分かりました。

天の御父が、子供たちのかわいらしい声を聞き、娘の健康を祝福してくださっただけでなく、わたしに平安を与えてくださったことを知っています。あの日、子供たちから学んだことは決して忘れません。わたしたちには愛にあふれる御父がいて、わたしたちの祈りを聞き、「安きもて報いと〔される〕」ことを望んでおられるのです（「高ぶりを慎み」『賛美歌』71番）。■

子供たちの祈り

ビルジニア・アウグスタ・デ・パドゥア・リマ・ペレイラ

だれからだろうと思いながら、わたしは自分が通うポルトガルのビゼウの町にある教会堂の電話に出ました。驚いたことに受話器から聞こえたのは8歳になる息子の震える声でした。

「お母さん、ビビアナが車にはねられたんだ。命は大丈夫だけど、頭から血が出ているんだ！これから病院に運ばれるよ。」

気を失いそうになりました。どうしたらいいのでしょうか。幸い、教会には家族が一緒にいました。二人の妹がそばにいたのです。一人はわたしと一緒に病院について来てくれました。もう一人は家で悲しんでいる3人の子供の世話をし、子供たちを慰めてくれました。

あまりの苦悩に、祈ろうにもとめどなく涙があふれてきました。しかし、病院に行く途中、わたしの心は突然安かになり、大丈夫だという確信に包まれました。心配する必要はなく、すべてうまく行くと感じたのです。

妹がわたしの変化に気づいて聞きました。「大丈夫？」わたしはうなずきました。安心できない様子で、彼女はもう一度聞きました。「ほんとうに大丈夫なの？」

「ええ。」わたしはそう答え、その後は何も話しませんでした。

病院に到着すると、わたしはすぐに4歳の娘のところに向かいました。意識があり、けがもほんのかすり傷でした。娘を落ち着かせた後、わたしは病院へ向かう途中で与えられた平安について考えずにはいられませんでした。

ビビアナは1日入院して家に戻って来ました。事故について話していると、子供たちと一緒に家にいてくれた妹がこう言いました。「昨日、救急車を見送ってから、家の中に戻ったバネッサとバスコが二人で祈ったのよ。」

不安で
いっぱい
のなか、
子供たちは
教えられていたことを
思い出したのです。



御存じでしたか？



大好きな聖句

「まことに、主はこのように言う。自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう。」(教義と聖約93:1)



この聖句は、救い主にまみえるためにしなければならないすべてのことを教えています。救い主にお会いするという目標を達成するため、生涯、これらのことに取り組んでいきたいです。

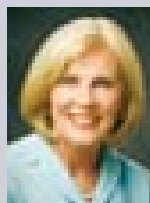
ノルウェー、ブスケル、オル・I、16歳

皆さんの好きな聖句と、その理由を教えてください。件名を「Favorite Scripture」とし、電子メールで lahona@ldschurch.org までお送りください。



お話のヒント

もし教会でお話の割り当てを受けても、心配しないでください。準備しましょう。主が与えてくださった約束を思い出してください。「備えていれば恐れることはない。」(教義と聖約38:30) お話の内容を準備し、組み立てるとき、テーマとなっている福音の原則が生活の中でどのように役立つ、自分をイエス・キリストに近づけてくれたかについて、あなた自身の前向きな経験を加えることを考えてみてはどうでしょうか。



義の指導者たち

「ゴードン・B・シンクレー大管長は皆さんについてこのように語っています。『皆さんは、

教会の歴史上最も優れた〔そして最も力強い〕世代です。』皆さんは問題も機会もいちばん大きい今の時代に地上に来るために取っておかれました。皆さんが義の指導者となり、『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても(モーサヤ18:9)』証人として立つことを、主は確信しておられたと思います。実際、皆さんは未来の『明るく輝く希望』であると言えるでしょう。』

中央若い女性会長第一顧問
イレイン・S・ダルトン
『顔に表れてくる』『リアホナ』2006年5月号, 109



数字は語る

350万——2006年に印刷されたモルモン書の数

世界の教会——ボリビア

アンデス伝道部に召された宣教師たちがボリビアに着いたのは1964年11月のことでした。翌月、最初の改宗者がバプテスマを受け、確認の儀式を受けました。

1967年、デジデリオ・アルセ・カノは、ボリビア人として初の宣教師となりました。アルゼンチンでの歌手としての活動を離れ、故国で奉仕することにしたのです。カノ兄弟は後に、ステーキ会長、伝道部会長に召されました。

ボリビアの会員数は、過去10年間で2倍以上に増えています。



会員数	15万3,674
ステーキと地方部	34
伝道部	3
神殿	1
家族歴史センター	31



「オリーブの木のたとえ」ブラッド・ティア一画

この木版画はモルモン書のヤコブ書第5章の一場面を描いています。

ここでヤコブは、預言者ゼノスが語った、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木のたとえを引用しています。

そのたとえはイスラエルの家の歴史と行く末を表しています。ヤコブはこう述べました。

「わたしの預言は次のとおりである。すなわち、この預言者ゼノスがイスラエルの家〔について〕……語ったことは、必ず起こるに違いない。〔ヤコブ6：1〕





世界指導者訓練集会

義にかなった子孫を築く

2008年2月9日

末日聖徒イエス・キリスト教会

発行：末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

©2008 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2007年5月

翻訳承認：2007年5月

原題：Worldwide Leadership Training Meeting, "Building Up a Righteous Posterity," February 9, 2008

06761 300

目次

一般的な規範と個々の生活	2
ジェフリー・R・ホランド長老	
家族に関する宣言	4
ボイド・K・パッカー会長	
ラウンドテーブル・ディスカッション	10
ダリン・H・オクス長老	
ジェフリー・R・ホランド長老	
ジュリー・B・ベック	
スーザン・W・タナー	
シェリル・C・ラント	
この世からの避け所	29
トーマス・S・モンソン大管長	

一般的な規範と 個々の生活

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老



常に家族を強調する

2008年世界指導者訓練集会へ皆さんを歓迎します。今回のテーマは「義にかなった子孫を築く」です。教会は常にこのことを強調しており、2年前の訓練集会でも「家族を支える」というテーマで放送しました。今日はそのときの教えも再確認されます。

家族を強め、守る必要性については、注意深く書かれた大管長会からの手紙をはじめ、教会の様々な資料を通じ

て見聞きしていることでしょう。以前聖餐会せいさんで読み上げられ、ホームティーチャーによって各家庭に配付された手紙にはこうあります。「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くして下さるようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。……必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」¹

お気づきのように、今回の放送はすべての成人会員を対象としています。義にかなった子孫を築くというテーマを中心とした話し合いにヤングシングルアダルトの皆さんを招くことには大切な意味があります。シングルアダルトの皆さんは、今、将来親になるために計画し、備えをしています。しかし皆さんは、今も将来も、自分の両親にとってはまさに子供であり、子孫なのです。皆さんが教会や両親から教わっている家族の原則に忠実であるように、わたし

たちは祈っています。

それに加えて、皆さんの中にはまだ結婚していない人や、教会でよく聞く「理想の家庭」から程遠い状態にある人もいらっしゃることをわたしたちは知っています。皆さんが様々な状況にあることをわたしたちは十分承知しています。その点について、どうかわたしたちを信頼してください。わたしたちは皆さん一人一人を愛しています。ますます多くの家庭が崩壊し、結婚、子供、伝統的な家庭が多くの文化的圧力によってないがしろにされているこの時代に、教会の中央幹部と中央役員は、理想について、また福音の中核を成す原則について話す責任を感じています。そうしなければ、わたしたちは避けることのできないこの世の風潮に流されて、教会の内外を問わず最もまじめな人々でさえも、神が求めておられる結婚や永遠の家族の標準から懸け離れた場所へ追いやられることでしょう。

規範(パターン)と模造品

この点を明らかにするために、たとえを使って説明しましょう。結婚や家族の状況にかかわらず、すべての人に当てはまるものです。ほかにもっと良いタイトルがないので、わたしはこれを「手作り服のたとえ」と呼んでいます。わたしが心から感謝しているわたしの母は裁縫が上手でした。子供のころ我が家にお金がなく、新しい服がほとんど手に入ることもなかったときに、学校へ着て行く服は母が作ってくれました。わたしはよく店先や通信販売のカタログで服を眺めていました。すると、母はよく「それくらいなら作れるわ」と言ったものです。母はまず、その服を

じっくりと見て、それから記憶を頼りに布を切り、よく似た服を作るのです。

わたしは母の優しさと才能に感謝しています。しかし母は、ほんとうはそんなやり方で作りたくはなかったでしょう。母は既製品をじっくり眺め、それに近いものを作ることができましたが、ほんとうは型紙(パターン。訳注——英語の pattern には「規範」と「型紙」の両方の意味がある。)を使いたかったことでしょう。型紙があれば、角度や形、縫い方などが簡単に分かるからです。さらに、2着目、3着目を作るときにも、正式な型紙を基にすればよいので、不完全な模造品を量産することもないので。

わたしと母が言いたいことはもうお分かりでしょう。模造品を型にすると失敗します。型紙がなければ一つか二つの間違いを犯すのは避けられません。その間違いは作る度に繰り返され、ますますおかしくなり、ついに学校に着て行くことなどできない服になってしまうのです。中学1年生にもなって、袖の長さが違ったり、縫い目が肩ではなく胸や背中にあったり、襟のボタンが後ろ前に付けられているような服で学校へ行くのは恥ずかしいでしょう。

神から与えられた理想的な規範

さて、すべての人が今理想的な状態にいるのではないことを十分理解していながらも、なぜわたしたちが結婚と家族の理想的な規範について話すのかについて、このたとえが皆さんの理解を助けてくれるように願っています。わたしたちがこのことについて話す理由を正確に述べると、それは、そのような理想を抱いていない、あるいは恐らく見たこともないという人が多いから



わたしたちは、この規範(パターン)が神からもたらされていることについて皆同意することができ、その規範を目指して最善を尽くすことができます。

です。また、天の御父の理想からわたしたちを着実に引き離そうとする文化的な影響力があるからです。そのためわたしたちは、天の御父が御自分の子供たちのために作られた計画の中で、御父がわたしたちに望んでおられることについて話すのです。

わたしたちは結婚と家族の状況がそれぞれ異なるので、個人の状況に応じて調整する必要があります。しかしわたしたちは、この規範(パターン)が神からもたらされていることについて皆同意することができ、その規範を目指して最善を尽くすことができます。

中央幹部と中央役員であるわたしたちは、神の一般原則を教えるために召されています。皆さんとわたしたちは、それぞれ独自の生活を送っているため、各自の状況に合わせて必要な導きを求めなければなりません。しかし、理想や教義的標準が確立されず、ある

いはわたしたちの時代について言えば、繰り返し教えられなければ、混乱が生じ、福音の約束は成就されません。結婚と家族に関する主の言葉を理解すれば、世の考えがどうであれ、その勧告を出されたのは主であり、わたしたちはそれを受け入れていると自覚することにより、大いなる強さを持つことができます。

わたしたちがあらゆる年齢の人々を気遣い、神の幸福の計画のいかなる側面をもくじこうとする世の動向や力に対抗して声を上げる理由を理解してください。感謝します。わたしたちは、次の言葉にどれほど感謝していることでしょう。「あなたがたが欺かれないために、わたしはすべてのことに関して規範を与えよう。」(教義と聖約52:14)

注

1. 大管長会からの手紙、1999年2月11日付

家族に関する宣言

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長



ひときわ優れた概念

この会に出席し、この非常に神聖で厳粛な機会に、世界中の皆さんにごあいさつできることを感謝します。今日のテーマは、教会指導者が皆さんにお伝えするメッセージの中で最も大切なテーマと言えるでしょう。この世の状況を見るにつけ、わたしたちも皆さんと同じように、家庭と家族の問題についてますます憂慮しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会は回復

された教会であり、回復の業を始めるに当たり、御父と御子は預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されました。わたしたちが現在「最初の示現」と呼んでいるその出来事の中で、この御二方が御姿を現されたのです。それ以来、二つのひときわ優れた概念がこの教会を導いてきました。

まず、神は父親であるという概念です。神は御自身の呼び名として親しみやすい名を選ばれました。神はわたしたちの父親です。わたしたちは神の子です。最初の示現では、隣に御子がおられ、御父は家族の自己紹介をされました。このようにして、御父と御子が御姿を現されました。

最初の示現の後で与えられた啓示の中で主はこのように言われました。「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているのです、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。」(教義と聖約1:17)

啓示によって生きる

これが始まりでした。これが規範と

なりました。つまり、わたしたちの行動、組織、生活は、主から受けた啓示に従わなければならないという規範です。それらの啓示は、御存じのように、教義と聖約にまとめられ、またモルモン書と高価な真珠に含まれ、この教会の土台となる聖典となっています。

主はこの教会を組織するに当たり、世の教会の規範に従うことはなさいませんでした。この教会には専門の聖職者はいません。他の教会のように、教会を導く聖職者を育成するための学校もありません。次の聖句に要約されているとおりです。「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため……〔である。〕」(教義と聖約1:20)

神権を持つ兄弟とその傍らに立つ姉妹が平等であることも、聖典の中にあります。男女は協力し、家族を組織します。わたしたちは皆、靈感や啓示を受ける権利があります。靈感を受けることは、この世にあって、特に家族を養育するために、何と必要なことでしょう。

義にかなった子孫を築く

この集会のテーマは、義にかなった子孫を育てるわたしたちの務めです。アダムとエバは、増えよ、地に満ちよ、という最初の戒めを与えられました。そして、地を満たすために必要なプロセスがアダムとエバの肉体に与えられました。その規範(パターン)は人類の歴史を通じて引き継がれるものでした。

このようにして、アダムと妻のエバ、そして後に子供たちも加わり最初の家族が構成されました。わたしたちは天に戦いがあったことを知っています。サタンは謀反を起し、天から追放さ



**アダムとエバは、増えよ、地に満ちよ、という最初の戒めを与えられました。
その規範(パターン)は人類の歴史を通じて引き継がれてきました。**

れ、全能の神の業を破壊しようと決意しました。サタンは、第一に破壊すべきは家族であることを悟るだけの知識、知恵、恐らくは靈感さえも得ていました。そのことは、アダムとエバの物語を読むと分かります。

世界への宣言

家族の大切さを訴える運動が世界中で起きたのは何年も前のことではありません。そのとき、国連は中国の北京で家族に関する会議を招集しました。わたしたちは教会の代表者を、家族に関する会議やその他の会議に送りました。やがて、ある会議が教会本部の近くで開かれることが発表されました。そこで、わたしたちは「ここで開かれるなら、教会の考えを宣言すべきだ」と考えました。

教会が出す宣言は、非常に重要で

大きな意味があります。設立以来、教会が宣言を発表したことはごくわずかしかありません。教会が出す宣言は重要であり、それは啓示です。今から十数年前にその会議が開かれたとき、中央幹部は「家族——世界への宣言」を発表しました。それは聖典と同じ権威を持つものです。

今日のほかのプレゼンテーションでも家族の宣言が何度も引用されるでしょう。わたしはこの宣言を皆さんに読んで聞かせることが有益だと考えました。すでに読んだことがあるのは承知していますが、ゆっくり、注意深く、はっきりと朗読するなら、思った以上の啓示が得られるでしょう。

なぜ教会員はこのような生き方をするのか、なぜわたしたちはこのようなことをするのか、あるいはほしくないのか、と疑問に思うなら、家族の宣言の中に



その答えを見いだすことができます。時にわたしたちは社会で常識だとされていることを受け入れず、行わないために、狭量であると非難されます。何と言われても、しないと決めていることはしませんし、できません。なぜならわたしたちが従う標準は主から与えられたものだからです。

では、家族の宣言を皆さんに読み聞かせるので、よく聞いて、今日の社会や政治、政府や宗教の中で最も大きな不安や悩みを引き起こしている事柄について述べられていないか確認してください。そうすれば、宣言の中に答えがあることに気づくでしょう。それが教会の答えです。

「家族——世界への宣言」

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長
会ならびに十二使徒評議会

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の〔すべての〕子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」

前世

教会員は啓示された教義から、人が前世から存在していたことを知っています。人の存在は、人類が地上に住み始めたときに始まったわけではありません。そして、福音の教義は預言者ジョセフ・スミスに啓示されたときに作られたものではなく、永遠の過去から永遠の将来にわたって存在するものです。では注意してお聞きましょう。

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。」

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。」



偉大な幸福の計画

ここではそれは幸福の計画と呼ばれています。モルモン書では、「偉大な幸福の計画」と呼ばれています(アルマ42:8)。

「神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠の一つとなることを可能にするのです。」

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」

宣言を読み進めると、世の人が異議

を唱えるような箇所があります。この世はこれを変えようとしますが、わたしたちは変えません。変えることはできないのです。自分が何者で、なぜここにいるのか知りたければ、ここに従うべき規範があるのです。

「わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。」

離婚、墮胎、性の問題に関する教会の立場は啓示に述べられています。そして、家族の宣言はこうした問題に関して最も明瞭に述べています。

親の務め

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜った嗣業であり』(詩編127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。」

そして教会では男女間の結婚以外の結婚の様式を認めていません。

「子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活にお

ける幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」

教会のすべての活動やプログラムの究極の目的は、男女とその家族が家庭で幸福になることであるとわたしはいつも感じてきました。

「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとりて確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

警告

わたしたちは警告します。(警告という言葉はあまり使いませんがここでは適切です。) わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の

方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。」¹

教義と儀式

さて、皆さんはこの世界指導者訓練集会で行われるプレゼンテーションを通じて、実際的な応用や教え、勧告や指導を聞くこととなりますが、それらはすべて、聖典に収められている啓示や教義、原則を中心としたものであり、すべてこの家族の宣言の中に述べられています。

結婚して家庭を持つことを楽しみにしている若い人々は、身の回りにある危険を知っています。家族を十分に守れる場所は地上に一つしかありません。それはイエス・キリストの福音の儀式と教義の中です。福音に添った生活をするならば、皆さんは守られることでしょう。

この世はあまり居心地のよい所ではありません。困難や病気があり、命あるものは必ず死を経験しなければならず、ありとあらゆる問題に出遭います。でも、家族が教会の基本的な単位であることを理解すると、答えが見つかります。教会の活動はすべて、家族を強めるためにあります。

家族を助ける

時々わたしたちは、家族を支えるという規範から少し逸脱し、家族に教会を支えてもらおうとしていることがあります。地元の指導者は、若い男女が成長し、結婚生活に備えられるようにし、そして彼らが結婚してからは、新婚から熟年に至るまで家族の助けとなるよ





**この世で家族を作り、子供を養育することは容易ではありません。
しかし、教会の中に、必要な助けを見いだすことができます。**

うに、教会の活動やプログラムを注意深く計画しなければなりません。

わたしは熟年がおもしろい経験だと気づきました。愛や家族の交わり、若き日のロマンスはどうなるのだろうか、年をとれば失われるのだろうかと考えていましたが、それらは失われず、さらに輝きを増します。

この世で家族を作り、子供を養育することは容易ではありません。しかし、教会の中に、必要な助けを見いだすことができます。

祈る方法や教える方法を知っていても、それでも助けが必要な時があります。どこにいても、いつも神権指導者がいます。わたしたちは啓示という規範を教えられていて、個人の啓示につ

いても知っています。不安なときには、神権指導者に頼ることができます。彼らに従うなら、子供たちや孫たちとともに、この現代社会を無事に生き抜くことができるでしょう。

さて、わたしの家族には孫やひ孫がいて、今でも神権指導者に頼りながら、教会で行うよう期待されているごく普通のことを行っています。しかし時には、大変な問題や困難を経験したり、危険な目に遭ったり失望を味わうこともあります。教会は家族を守るためにあるのです。教会では、家族を守るために自分でできる限りのことをします。そして、神権指導者がいます。神権の力は、教会がある国では世界中どこにも存在します。教会には神権に聖任

された男性たちと、賢明で、母性愛と天性の優しさを備えた女性たちがいます。

子供たちが親もとから遠く離れた土地へ行き、そこに居を構えることになったとき、見送るわたしの心には、そこにも家族がいるという安堵感がありました。子供たちに何度かこう言いました。「電話代が高いから、しょっちゅう電話をかけられないだろうが、向こうに行っても、おばあちゃんに会えるから大丈夫だよ。おばあちゃんがどこにいるかって？ 扶助協会だよ。扶助協会に行けば賢明なアドバイスがもらえるし、自分の家族と同じくらいに力が得られる。遠くへ行っても、家族が増えるようなものだよ。」

さて、皆さんはこの集会で語られる教えに進んで耳を傾けるなら、靈感と導きを受けることでしょ。バプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会に入るとき、バプテスマとは別のもう一つの儀式、すなわち聖霊の賜物が授けられる儀式があることを覚えておいてください。権能を持つ兄弟たちがバプテスマを受けた人、一人一人の頭の上に手を置き、その賜物を授けます。聖霊の賜物はわたしたちがこの人生を歩むときに、光となり、教師となり、間違いを直し、正しい道を示してくれます。

導きと祝福

教会員は、恐れを抱いて生活する必要はありません。身の回りの出来事を見て「誘惑や困難だらけのこの時代にどうやって家族を養えるだろう」と悩む必要はありません。

なぜなら皆さんは自分で導きを受けられ、子供にも導きを受けるよう教

えることができるからです。その中で幸福な人生を送り、この人生を終えた後で、来世において、家族が永遠であることが分かるのです。

時には、家族が教会から離れる場合もありますが、彼らは永遠に失われるわけではないと預言者が約束しています。彼らが神殿の儀式で結び固められ、聖約が守られるなら、やがて時が来て、必要なすべての懲らしめを受け終われば、もはや失われないのです。

ですからわたしは、世界中の教会の皆さん全員を祝福します。親であれ、子供であれ、あるいはどのような立場であれ、皆さんが家庭生活を営むに当たり、祝福され見守られますように。皆さんの生活の中に聖霊の力があり、常に神権の力によって守られて、正され、祝福と励ましを受け、皆さんの心に確固とした証が築かれますように。

神はわたしたちの父親である！

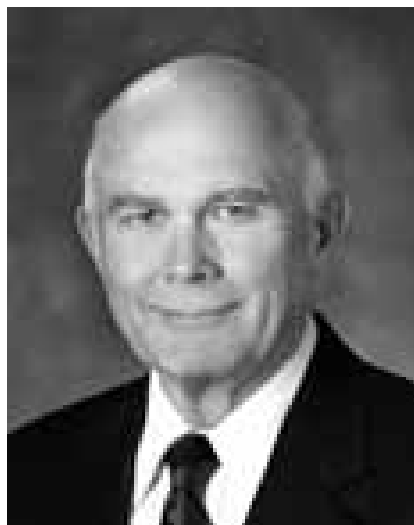
神は生きておられます。神はわたしたちの御父です。父親なのです。あまりにも気軽に呼べるその言葉をどのように口にすべきか分かりませんが、神はわたしたちの父親であり、わたしたちを愛しておられます。それと同じように、教会を導くわたしたちは、すべての教会員と求道者を愛しています。ですから皆さんのうえに主の祝福を祈り求めます。皆さんが教会員として正しい子孫を育てる責任を果たすときに、御父の祝福がありますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49

ラウンドテーブル・ ディスカッション

十二使徒定員会
ダリン・H・オックス長老



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老



中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック



中央若い女性会長
スーザン・W・タナー



中央初等協会会長
シェリル・C・ラント

創造主の計画

ホランド長老

パッカー会長が理想を明確に述べてくださったことに感謝します。ではこれから「家族——世界への宣言」を基に、ディスカッションをします。まずディスカッションの参加者をご紹介します。十二使徒定員会のダリン・H・オクス長老、中央扶助協会会長のジュリー・ベック姉妹、中央若い女性会長のスーザン・タナー姉妹、中央初等協会会長のシェリル・ラント姉妹です。この会にわたしを招き、またわたしをこのディスカッションの司会進行役に指名してくださったことに感謝します。

さて「家族——世界への宣言」には次のようにあります。「男女の間の結婚は神の永遠の計画に不可欠なものです。」¹ 教会ではなぜ、結婚と家族を神の計画の中で考えるのでしょうか。わたしたちはそのような考え方をします。そして、今夜も間違いなくそのような考え方をすることでしょう。結婚と家族を、永遠や救いの計画全体の枠組みの中で考えるのはなぜでしょうか。

オクス長老

家族の宣言の中でわたしたちはこのように教えられています。「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものである。」つまり、結婚、出産、養育に関して決意と望みを持つことは、永遠の見地から見て非常に大切だということです。この世の文化がどのような象徴をもてはやそうと、政治家たちがどのような見解を示そうと、わたしたちは神の戒めと神の僕たちの教えを指針とする必要があります。これこそ、わたしたちが心に留める必要のあることであり、この放送で教会の全成人会員に伝えたいメッセージであり、この放送をす

る目的だと考えています。

ホランド長老

そうですね。ありがとうございます。姉妹たちは、この永遠という枠組みについてご意見はありますか。教会はなぜ、ほかの社会団体とは違うのでしょうか。わたしたちはなぜ、他の社会団体のように、世の考えを反映しないのでしょうか。何かご意見はありますか。

三者で交わす約束

タナー姉妹

結婚とは約束です。この世は結婚を約束だとはまったく認識していないようですが、結婚とは三者で交わす約束です。夫と妻は互いに約束を交わします。でも、夫婦は間違いなく天の御父にも約束します。この結婚関係を結び付ける力は、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛です。互いにこの慈愛を持っていれば、慈愛はわたしたちを互いに引き寄せ、さらに天の御父に引き寄せます。夫婦は、神に近づくことによって、互いにさらに近づくのです。

ホランド長老

タナー姉妹が手で示した小さな三角形の中で特に強調したいのが、家庭を天国にするように、そして、結婚生活に神をお招きするようほんとうに努力することです。そのような努力をしている若い、あるいは年配の兄弟姉妹に助言はありませんか。何か感じていることはありませんか。

ラント姉妹

いつも心に留めているのですが、わたしたちが永遠の家族について話すとき、それは完全な家族について話しているのではなく、最終的に完全になることを目指して、天の御父のもとへ戻る努力をしている家族について話しているということです。ですから、先ほど

三角形を使って示されたように、天のお父様から助けを受けながら試練を乗り越える家族こそが、この世における完全な家族だと考えています。完全な家族とは試練がまったくない家族ではなく、試練があっても、天の御父の助けを受けながら克服しようと努力している家族のことです。

ベック姉妹

夫が家族を捨てて出て行ったり、夫に先立たれたり、何らかの理由で、現在独り残された女性たちについてお話ししたいです。結び固めのときに神の計画に心からの忠誠を誓いながらも、現在独りで生きている女性が現実に大勢います。そのような忠実な女性の多くがこう言っています。「そうです。わたしは計画に忠誠を誓いました。ですからわたしは、たとえ今孤独でも、この忠誠心を捨てることはありません。わたしは今でも、家族の祈りをしています。家族の聖文研究をしています。家庭の夕べをします。子供たちを教育します。主の計画に従って、子供たちの必要を満たしていきます。」わたしはこのような女性たちを尊敬しています。彼女たちは独りになっても主の計画を捨てません。この業を独りで行うのは難しいことですが、それでも彼女たちは行っています。

オクス長老

主は、それは簡単なことだとはおっしゃいませんでしたが、必ずできるとおっしゃいました。

家族が中心である

ベック姉妹

わたしたちはなぜ家族が創造主の計画の中心であるかについて尋ねました。どうしたらそれが分かるのでしょうか。預言者たちに与えられた啓示により、わ

たしたちは生まれてくる前に天に住んでいたことが分かっています。前世の戦いに参加したのは、永遠の家族の一員となる特権を得るためでした。

永遠の家族という単位があります。そしてこれこそ神の計画のすべてです。ですから、ほかのすべてのものは、この計画に付随するものなのです。

ホランド長老

天にはワードやステークがあるかもしれませんが。わたしはそのことについて何も知りません。そのほかにもわたしたちがほとんど知らない組織があるかもしれません。わたしたちがはっきりと知っているのは、天には家族があるということです。来世や永遠の命や日の栄えの生活に関してこれまで啓示されてきたもののほとんどは家族に焦点を当てたものでした。また、神殿と、神殿で交わす聖約も、ほとんどが家族に関するものです。

教会員の皆さんと、教会員ではない皆さんに、なぜわたしたちがこれほどこのことを強調しているのか、理解していただくために、この話し合いが役立つようお願いしています。

オークス長老

権力、出世、財産、名声などこの世が求めるものの非常に多くは、次の世で何かの役に立つという保証がありません。でも家族は違います。

結婚における一致と無私精神

ホランド長老

これから、家族について、子供たちについて、子供たちを産み、育て、愛し、必要な助けを与えることについて話し合いますが、その前に、まずは結婚生活における個人の事柄について話し合しましょう。

個人として結婚生活にどのように取



り組めば、将来子供を産み、育てる理想的な環境を用意できるでしょうか。

ラント姉妹

家族を築き、子供たちをこの世に招く準備をどのようにするかについてです。上手に準備するためには、夫婦が共通の霊的基盤を持つこと、家族に関する目標や考えを一致させることが必要です。成功するために家庭と家族の中に何があるべきかについて夫婦が一致することです。

ベック姉妹

どうすればよいかについて、創世記第2章にとっても簡潔な教えがあります。主は、人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるべきであると言われました(創世2:24参照)。結婚生活を始めるに当たり、夫婦には3つのことが求められています。前に住んでいた場所を離れ、互いに結び合い、一つになるのです。この原則に従えば、主との関係が築けます。

オークス長老

もうすぐ結婚する男女に言いたいことがあります。夫婦関係においては、儀式のとき聖壇で向かい合うように、まず相手と向かい合うことが大切で

す。すべての問題を解決する際に、相手の親きょうだいや友達ではなく、まず互いに向かい合う必要があります。先ほどの三角形の中で天の御父は愛に満ちた管理者であられますが、御父のもとで二人が一致するときに、結婚生活に付き物の様々な問題を乗り越えられるのです。

タナー姉妹

あの最初の出来事について考えたのですが、あのアダムとエバの最初のラブストーリーにおいて、アダムが創造され、主はアダムにすべてを与えられました。主は彼に一つの美しい世界を与えられました。主は彼が生活するために、花と動物と美しい園を造られました。けれどもアダムは成長できませんでした。自分に適したふさわしい助け手、情緒的、霊的、身体的にふさわしい人を得るまでは人は成長することができなかったのです。

このことから、幸せな結婚では相手とどのような関係を持つべきであるかが分かります。わたしたちは互いにふさわしい相手となる必要があります。この夫婦関係を成長させるために自分たちにできることについて考える必要があります。わたしたちはそれぞれ自分に本来備わっている根本的な性質をもって結婚生活を始めます。そしてわたしたちにはそれぞれ結婚生活の中で果たすべき使命があります。けれども、夫婦関係においては自分を忘れ、利己心を抑え、互いに助け合う必要があります。

ホランド長老

ヒンクレー大管長は結婚生活の最大の問題は自己中心的な言動だと言われました。² 教会員が利己心を克服できるように、「今日わたしは幸せだったろうか」ではなく「今日あなたは幸せ

でしたか」と尋ねるようになるために何か助言はありませんか。

ラント姉妹

そうですね、「自分の必要は満たされているだろうか」というのが今の風潮ですね。そのような言葉を年中耳にします。ホランド長老

はい。この必要という言葉はとても人気がありますね。

ラント姉妹

そうです。「わたしの必要は満たされていない」と言う人が多いですね。人の必要に目を向けるようになりさえすれば、自分の必要も満たされてくるとわたしは考えています。周りに目を向け、人の必要を満たすよう努力すること、それこそが自分の必要を満たす最善の方法なのです。

タナー姉妹

わたしの両親は良い夫婦関係を築いていて、わたしはそのような家庭で育ちましたが、母が何度もこう言っていたのを覚えています。「良い夫婦になるには努力が必要なよ。継続的な努力が必要なよ。」母は自分たちの結婚生活がうまくいっていないと言ったのではありません。母が言おうとしていたのは、結婚生活の中で伴侶を祝福し伴侶の必要を満たせるかについて考えない日が1日たりともあってはならないということでした。

伴侶を選ぶ

ベック姉妹

わたしたちはヤングアダルトが「気の合う人を探しています」と言うのを耳にします。そして彼らは、完全に一致できる、永遠に気の合う相手、永遠の親友となる人を求めて、結婚を先延ばしにしているのです。主の祝福を求め、永遠の家族を築きたいと願う人は、ど

のような特質をほんとうに探すべきなのでしょう。そうするためには、彼らはどのようにすればよいのでしょうか。オークス長老

わたしは、だれかが天で予任された人が現れるのを待っていると聞く度にいつも疑問を感じます。そのようなこともあるでしょうが、ほとんどの場合は、愛する人、永遠の家族を築くために自分と同じ理想と原則を抱き、一緒に立ち、前進する人を探すのだとわたしは考えています。だれかから頭をゴツンとたたかれて、「この人だよ」と言われるまで待つという考え方では、婚期が遅れるばかりか、結婚の機会が妨げられることさえあると考えています。

ホランド長老

皆さんは次のような言葉を聞いたことがあることでしょう。「そうですね、わたしは結婚する前に卒業しないといけません。」「就職する必要があります。」「銀行に少しお金をためる必要があります。」「車が必要になるでしょう。」社会ではますますこのような条件が聞かれるようになっていきます。すべてが整ってほしいというのです。

わたしは、何年も前にジェームズ・サーバーが言った、ささやかで、とても地味な愛の定義が大好きです。「愛とは苦難を共にすることである。」³

そこにいらっしやるシングルアダルトの皆さん、若く、苦しく、犠牲が必要な時期は、経済的に多少の余裕ができるかもしれない晩年と同様、きずなが深まる時期です。そのような時期を逃すべきではありません。

オークス長老

覚えておいてください。天の御父は生きておられます。わたしたちが御父の教えを実行すれば、御父はわたしたちを祝福してください。すべてを

自分で成し遂げなければならないと考えることによって、御父がわたしたちへの約束を果たそうとしておられるのを拒まないようにしましょう。

ラント姉妹

それと同時に、教会の標準に従っていない人との結婚は勧められないということを明確に述べておきたいのです。わたしが話題にしているのは教会の標準のことです。一緒に福音に従おうとせず、主に仕えようとはしない人と結婚すべきではありません。

恐れずに生きる

タナー姉妹

わたしは、結婚すること、子供をもうけること、忠実であること、そして福音のために犠牲をささげることすべて喜びだと考えています。それはわたしたちの生活に喜びをもたらします。わたしたちは、そのことを覚え、その喜びを強調する必要があります。家族生活はわたしたちにとって素晴らしい祝福です。

ホランド長老

国際的にも、国内的にも様々な出来事が起きている今日、わたしたちの周りには大変な恐怖心が表れていると思います。わたしは、ヤングシングルアダルトや10代の若人の多くが恐れ、将来に不安を感じ、このように言うのを聞いています。「わたしは結婚するまで生き長らえられるだろうか。」

よく聞いてください、これまでいつの時代も大変でした。この世の歴史の中で何の心配もない時代、恐れるものなど何もない時代などこれまで一度もありませんでした。だから福音があるのです。この教会の中にいれば、物事がうまくいかないからといって、また不吉な予兆がたくさんあるからといって、

恐れる必要はありません。それは個人的な不安かもしれませんが、社会的な不安かもしれませんが。必要なのは、ただ福音に従い、信仰を奮い起こし、祈りの答えを受け、前進することです。わたしたちはこれまで常にそのようにしてきました。

オークス長老

聖句に言い換えるなら、「[主の]完全な愛は恐れをとり除く」ということです(1ヨハネ4:18。モロナイ8:16も参照)。

対等のパートナー

オークス長老

このことに関して一つの質問をさせていただきます。結婚を真剣に考え、求愛期間を過ごしているある若者たちがこう言うのを聞きました。「あなたがすることのリストとわたしがすることのリストを作ってそのとおりに実行すれば、幸福な結婚生活を送れるはずですよ。」皆さんはどう考えますか。

ベック姉妹

結婚生活はリストではありません。そのリストは絶えず変更しなければなりません。やるべきことは毎日変わりますから。

タナー姉妹

ジョン・ミルトンの叙事詩『失樂園』からのすばらしい引用があります。アダムがエバをこのようにたたえています。「愛情……がにじんている一切の言葉や動作から日々自然に流れ出てくる、あの数限りないしとやかな振舞^{ふるまい}。[]」⁴毎日しとやかな振る舞いに満たされ、言葉と行いで愛を示すために自分に何ができるかを考えるような関係が築けたらすばらしいですね。

ラント姉妹

結婚生活にはある程度の仕事の分

担というものが必ずあります。独りですべてを行えませんから。わたしの心に浮かんだのは、当然といえば当然ですが、今の若い夫婦はわたしが結婚したばかりのころと分担のしかたが違います。わたしは、子供たちが夫婦で責任を分担する方法を見ました。その方法は、わたしたちと違いますが、責任はきちんと果たしています。子供たちは違う方法で協力しています。そして多くの点でわたしたちよりも上手にしていると考えています。決まった方法はありません。それぞれの夫婦が自分たちに合った方法を見つけるのです。

ホランド長老

もう一度家族の宣言を見てみましょう。宣言は対等のパートナーについて述べています。わたしたちは「子育ては全部そっちに任せるから、お金(あるいは何であれ)の方は全部こっちに任せて」と言うことはできません。状況に応じてどちらかが中心になることもあるでしょう。バランスというものがあります。しかし、一緒に取り組み、責任を分かち合う必要があります。それこそまさに宣言の趣旨だと考えています。

宣言の別の行にはこうあります。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」わたしはこれを「家族の欠点を気にする前に、自分の欠点を改めるべきである」と理解しています。

オークス長老

それは、まず自分の目の梁^{はり}を取り除いてから、他人の目のちりを取り除きなさいというイエスの教えをまさに具現化していると思います(マタイ7:3-5;ルカ6:41-42;3ニーファイ14:3-5参照)。

末日聖徒の文化

ベック姉妹

改宗者である友人夫婦の模範について考えています。彼らは、自分の文化や家族の中で、一致の精神やキリストのような模範を見たことはありません。それは彼らの受け継ぎの中に含まれていませんでした。でも彼らは教会に入り、救い主の教えを受け入れました。そして結婚するときに「わたしたちは、どのような家風を築こうか。わたしたちはどんな文化を築こうか」と考えました。そして彼らはよく考えた末次のように決意しました。「わたしたちは末日聖徒の家風を築こう。」彼らは聖文を研究し、教義を研究しました。そしてこう自問しました。「わたしたちが真実だと知っている事柄に一致した生活を送るために、わたしたちの家族はどんな家族になるべきだろうか。」彼らは、先ほど皆さんが述べたキリストのような特質のうえに家庭を築きました。救い主は何を教えられたらう、わたしたちは互いにどのように接するべきだろう、と自問して、礼儀正しく、思いやりと尊敬の念をもって接することにしたのです。

それから長い年月を通じて、この家族が輝いているのをわたしたちは見してきました。彼らの家庭には自分の国の文化はありません。あるのは福音の文化です。

オークス長老

そしてこの末日聖徒の文化は、結婚の基盤として責任のリストよりはるかに優れています。

ラント姉妹

子供たちが結婚するようになってから、わたしたちが何年も教え続けているのは、大切なのはだれが正しいかではなく、何が正しいかということです。



彼らの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。

新婚の二人はそれぞれ家族の伝統を受け継いでいます。そして、それらの違いに気づくとき、二人が福音の原則に照らし何が正しいかを判断してくれるようお願いしています。そうすることで、二人は自分たちが育った家族よりもさらに強い家族を築くことができます。そのようにすれば、彼らの家族はさらに堅固なものとなり、さらに良い家族になるでしょう。

信仰によって子供をもうける

ホランド長老

タナー姉妹、姉妹はアダムとエバについて話してくれましたね。わたしはモルモン書のニーファイ第二書第2章にとっても感謝しています。アダムとエバが下した決断について詳しく述べられているこの章のおかげで、わたしたちは世界のだれよりもそのことについてよく理解することができます。

ニーファイ第二書第2章を読むと、アダムとエバはエデンの園では子供をも

うけられなかったことが非常にはっきりと記されています(23節参照)。このことを、世のほとんどの人は理解していないと考えています。わたしたちにとっては、これはまさに土台となる教義であり、永遠の計画の概念と家族が中心であるという、わたしたちがこの計画について述べてきた要点の土台となるものです。

タナー姉妹

わたしたちは教会の中であって、家族の宣言により豊かに祝福されていると感じています。この宣言は生ける預言者と使徒から与えられたものなので、ほとんど聖文のように頼ることができます。この宣言の中で、アダムとエバが夫婦として神から授けられた、増えよ、地に満ちよ、という戒めが今も有効であることを思い起こします。

わたしはヤングシングルアダルトの時代と新婚時代に説教壇の使徒と預言者たちからその戒めについての説教を聞いたことを覚えています。彼ら

の勧告に感謝しています。たとえ不可能に思えても、結婚し、子供をもうけ、教育を受けることを、全部平行して行うべきであるという説教を聞いた記憶があります。確かに不可能なことにように思えるかもしれませんが。疑問を抱き、どうしてそんなことが可能だろうかと思う人もきっといることでしょう。

わたしは、増えよというこの戒めは今も有効であることについて考えています。これが真実で正しいことであるとわたしは知っています。そして、このことを行うには、大きな信仰、大きな勇気、大きな犠牲が求められると信じています。このことを行うには、主から個人的な啓示を受ける必要があると考えています。そして、ほかの人がこの戒めについてその人独自の啓示を受けたときにその人を裁かないようにするために、清い心を持つことが求められています。

オークス長老

わたしは、タナー姉妹のおっしゃったことは正しく、また非常に大切な点でも考えています。話して下さって感謝します。わたしには、子供をもうけることに関して教会員がこの世的な優先順位に目を向けるという危険を冒している印象があります。これらの決定を下すときに、主の約束や人生の目的や偉大な幸福の計画に関する知識に信頼を置くのではなく、テレビや今の世の中の著名な思想家や、周囲の人々の言葉にさえ頼っているのです。この重要な、永遠を左右する事柄、主に祈って決定すべき事柄について、そのようにして決めているのです。

ベック姉妹

わたしは、これはまさに信仰の問題だと考えています。わたしたちは、世界には住宅不足に悩む地域が多くあるこ

とを承知しています。自分が住む場所も見つからないのに、子供をもうけることはおろか、どのようにして新婚夫婦の住む場所を見つけられるだろうかということです。わたしは、これは信仰の問題だと考えています。わたしたちはお金があるから、物があるから、子供をもうけるではありません。わたしたちは、信仰をもって子供をもうけるのです。

主の計画の下で主の祝福を求めるといふ気持ちと態度があれば人々の生活の中に奇跡が起こるとわたしは信じています。たとえ住宅不足の地域に住んでいたとしても、道が開かれるのです。什分の一じゅうぶんを納めるのとちょうど同じように、子供をもうけることは信仰の問題です。お金があるから什分の一を納めるではありません。同じように、お金があるから子供をもうけるではありません。

オークス長老

今わたしたちは、教会の中央幹部と中央役員として、一般原則について教えているというのを付け加えておきます。

タナー姉妹

わたしは「信仰によって歩むなら道は開かれる」という言葉が大好きです。忠実であれば道が開かれることについて、わたしには個人的な証あかしがあります。結婚したてのころ、夫の父親が夫に祝福を授けました。このような言葉が述べられました。「福音の原則に従いなさい。結婚生活の中で、あなたが行くべきだと知っていることを行い、信仰によって歩みなさい。そうすれば、道が開かれるでしょう。それは、今のあなたには見えていない道です。」

信仰をもって歩むとは、やみくもに進めることではありません。わたしたちは決定を下すときに大いに知恵を使う必要があります。それから、とても熱

心に働き、進んで犠牲を払い、何かがなくとも前に進んで行く必要があるのです。夫とわたしは夫の父親の祝福が成就したのを知っています。わたしたちに見えていなかった道が開かれたのです。これは信仰によって歩むすべての人にとって真実の原則であるとわたしは知っています。

ラント姉妹

タナー姉妹は大変な事柄を進んで行うことについて話されました。子供をもうけることは大変な事柄です。しかもわたしたちはそのことを恐れる必要がないのです。なぜならば、熱心に努力し、大変なことを進んで行うことによってわたしたちの人格が築かれるからです。犠牲によってこそ人格が形成されるのです。家族を持ち、子供を持つ喜びについて証したいと思います。なぜならそれは主の戒めであると同時に、約束された大いなる祝福でもあるからです。

オークス長老

そして、この放送を見ている世界の多くの地域では、子供を産むという考えが拒絶されているという事実を思い起こしましょう。あるいは、一人産めば十分で、二人以上産むのは愚かである、または愛国心に欠けているという考え方があります。この世には福音に反する考えが満ちあふれています。しかし父リーハイが言ったように「すべての事物には反対のものがなければならぬ」のです(2ニーファイ2:11)。わたしたちが正しいと知っていることを行う度に、この世がわたしたちを称賛すると期待することはできません。けれども、神が祝福してくださるでしょう。

心の望み

ベック姉妹

わたしは、子供が欲しくても恵まれ

ない夫婦を大勢知っています。彼らのチャレンジは、子供がいないというチャレンジです。わたしたちは彼らに耳を傾け、支え、励ます必要があります。独身の姉妹やこのような夫婦が子供を望む気持ちは、彼らが義にかなっているならば恐らくなくなるでしょう。なぜならそれは神から与えられた望みだからです。それは、彼らの心の奥底に語りかけ、彼らが天で受けた教えを思い起こさせるものです。その望みは消えてなくなるのです。けれども、主はその人たちを祝福してください。

オークス長老

そして、その望みは「最後の裁き」のときに重視されることでしょう。わたしにとってすべての聖句のうち最も慰めを与えてくれる聖句の一つは、教義と聖約第137章9節です。そこでわたしたちが教えられているのは、主はわたしたちの行いに応じて、またわたしたちの心の望みに応じて裁かれる、ということです。

家族を第一にする

ホランド長老

では、子供を養育することについて話し合しましょう。それは、子供を産み、子供に死すべき状態という機会を与えることによって永遠の成長を続けるという戒めに従った後に訪れる事柄です。これらの義務は互いに無関係ではありません。なぜなら、主は単に子供を産むように命じられたのではなく、主はわたしたちに子供を救うという考えをもって産むように命じられたとわたしには思えるのです。

オークス長老

わたしたちはこの件に関して話し合っていますが、では家族を第一にす

るとはどういう意味でしょうか。わたしたちはそのことについて話し、そのことを信じていますが、家族を第一にするとは、一体何を意味するのでしょうか。

ちょっと眼鏡を拝借して、ニール・マックスウェル長老の隠喩を紹介します。彼は別のテーマで話しているときに、レンズの内側に大切な言葉を書いておくことを提案しました。そうすれば物を見る度にその言葉が目に入ります。同じように、家族の時間の使い方を決めるため、あるいはワードの活動について決めるために見ると、眼鏡の内側に「家族が第一です」と書かれているのです。

ホランド長老

わたしは、そしてわたしたち全員は、伝道の書の次の聖句が好きです。「天が下のすべての事には季節があり、す

べてのわざには時がある。』(伝道3:1) わたしたちに与えられた時間は限られていますが、全員に与えられた時間の量は同じです。ですから、わたしたちが優先順位をつけることを怠らなければ、家族を第一にして、優れた働きをすることができる、そのようにわたしは考えています。

オークス長老

そしてわたしたちが家族を第一にすると言うとき、わたしたちは、家族の祈り、家庭の夕べ、家族の聖文研究について考え、子供たちの霊的成長にとって永遠の影響を持つこれらのことを行うために時間を取り、実行しなければなりません。そうすることが「家族を第一にする」という概念を具現化することなのです。

家族の規範(パターン)

ホランド長老

わたしは冒頭で規範(パターン)という言葉について短く紹介しましたが、恐らく当たり前だと思っている事柄の中には、おろそかにできないものもあります。家族の聖文研究、家族の祈り、家庭の夕べなどがそうです。これらのことはだれもが理解しているだろうと考えて強調しない傾向がありますが、そうではありません。それらは家族の規範となる必要があります。



タナー姉妹

規範が役に立つことについて一つ挙げましょう。これらの規範を習慣にしようと努力するとき、わたしたちは自分自身の不完全さを痛感します。しかし、たとえそうだとしても、子供たちがその規範に従おうと努力している様子を目にすると、驚きと喜びを感じます。たとえ自分たちは完全にできなかったと感じたとしても、です。

ホランド長老

努力の幾分かが報われたのですね。

タナー姉妹

個人的なことですが、夫は父親の葬儀のときに、教会で学んだことの中で、事前に家庭で学んでいなかったものは何もなかったと話しました。それは大勢の子供を育てた、夫の両親に対する心からの賛辞です。夫は、両親が時々子供たちをベッドの傍らに集めて、父親が寝室の古いブラインドを下ろし、その上に救いの計画を表す図を書いて教えたときのことを話してくれます。夫は言いました。「わたしたちは両親のベッドに座って救いの計画を教わりました。そして福音の真実を学んだだけでなく、一緒に外に出て家族で『今夜はクマはいない』などの楽しいゲームをして遊びました。」夫の家族は家族の時間を使って多くの有益なことをしました。皆で集まって教え合い、思い出に残るようなことをたくさんしたのです。

オックス長老

わたしは子供時代にあった我が家のルールを思い出しました。どの家庭にもルールがあります。我が家では食事のときにテレビをつけないというルールがありました。我が家では、食事の時間は、みんなで話し合う時間だと考えていたからです。「今日はどん



なことがあったの?」「困っていることはない?」「どうやって手伝おうか?」という具合です。家族の食事時間にテレビのニュースの大きな声が聞こえてくると(たとえどんなに大切なニュースであっても)、家族の会話ができません。我が家にはファーストフードを買う余裕がありませんでした。ですから、ファーストフードを拒むためのルールは必要ありませんでした。けれども、我が家にはテレビを見ないでたくさん会話するというルールがありました。そして、夕食のときには家族全員が集まるようにしていました。朝は状況が許さず、皆で食事をするのができませんでしたが、毎日1度は家族そろって食事をしました。それはわたしの家族にとって素晴らしいことでした。

タナー姉妹

わたしの家族も同じような経験をしました。オックス長老は会話について話し、会話を通して家族が一つに結ばれることについて話しました。それは家族を一つに結び、互いのことをよく知ることができるだけでなく、楽しい

ことでもあります。一緒に笑い、思いやりを示し合うことができます。朝食と夕食のときに全員がそろうので、家族の祈りはたいていそのときにしました。家族の祈りの内容が食事の話題になることもよくありました。あるとき、夫は手術を受けることになった祖母のために祈りました。夫は世界のどこかで地震やそのほかの災害に遭った人々のためにもよく祈りました。そして食事が始まると、わたしたちはそのような話題について話し合うのですが、こうした一緒に時間が家族としてのきずなを強めました。

ベック姉妹

わたしは大家族で育ちました。わたしの両親は子たくさんでした。家族が多い分、意見をまとめるのも、家族の世話をするのも大変だったと思います。両親は家庭の夕べを通してわたしたちにほんとうによく教えてくれました。毎週「家庭の愛」を歌いました。それが開会の賛美歌でした。10代のころ、わたしは毎週同じ歌を歌うのは退屈だと思っていたのを覚えています。

オークス長老

時々、歯を食いしばってあの賛美歌を歌う人もいますよ。

ホランド長老

そして、割り当てられて歌うんですね。

ラント姉妹

時々、歯を食いしばっているのが母親であることもありますね。

ベック姉妹

それは単なる習慣ではなく信念でした。父は毎週こう言っていました。「さあ、開会の歌『家庭の愛』を歌おう。」14歳か15歳のころ、何かにつけて理由を聞いたがる年ごろだったわたしは父に尋ねました。「どうして毎週これを歌わなきゃいけないの。ほかにもいい賛美歌がいっぱいあるじゃない。」

すると父は非常に真剣な表情でわたしを見て言いました。「家庭の愛についてほんとうに学べたら、レッスン2に進むよ。」わたしはレッスン2が何だったのか分かりません。わたしたちはとうとうレッスン2に進めなかったのです。でも、それから長い年月が過ぎた後、わたしは自分の家族を見て理解しました、わたしたちは確かに互いに愛し合っていると。わたしたちは確かに、何とかして、長い年月をかけて、互いに愛し合うようになったのです。なぜならそれが、わたしの両親の教えたかったレッスン1だったからです。両親はすべてを教えようとはしませんでした。両親はまずそれについて取り組めば、後はうまくいくことを知っていたのです。

あるとき、若くてすばらしい母親がわたしに近づいて来ました。彼女には6歳を筆頭に4人の子供がいました。彼女はこう言いました。「毎朝忠実に家族で聖文を学ぼうとしています、大変です。いつもだれかが泣いて、だれも聞こうとしません。」そこでわたし

は「どのくらいの時間勉強しようとしていますか」と尋ねました。「毎日10分が目標です。」彼女の不安を和らげようとして、わたしは言いました。「小さな子供に聞かせる時間としては、あなたの目標は恐らく約8分程度長すぎますね。」彼女は基準を下げて、子供たちの年齢に合わせる必要がありました。恐らく、最初はアダムとエバの絵を見せながら絵について話すだけにしてもよいでしょう。2歳児には聖句朗読を期待しません。でも彼女は忠実でした。それゆえにわたしはこの母親を愛しています。

けれどもわたしは、すべての幼い子供たちは聖文を読み聞かせてもらうことが大切であると心から信じています。子供たちは、両親の言葉と同じくらい、聖文の言葉に親しみを感じるようになるべきです。

人を裁かない

ラント姉妹

ホランド長老、人を裁くことについて少し話させてください。わたしたちは



人々の外見を見ますが、物事はいつもその外見どおりであるとはかぎりませんが、でもその考え方が常に正しいわけではありません。

我が家は大家族で、子供たちが皆まだ幼かったころ夫はビショップでした。子供たちを教会へ連れて行くために、土曜日は一日中、日曜日は午前中ずっと大忙しでした。早く出かけないと、集会所にたどり着くことさえできませんでした。わたしたちはいつも前から2列目の中央の長いすに座りました。その座席はわたしたち家族で埋まりました。わたしたちはいつも集会が始まる前にその席に着いていました。

ある日、一人の姉妹がわたしの後ろに来て、身をかがめてこう言ったのを覚えています。「ラント姉妹、うちの子がお宅のお子さんのようにいい子で、あなたのように簡単にしつけができるなら、わたしもたくさん子供が欲しいわ。」

ほんとうに、涙が出てきました。そしてわたしは集会中ずっと泣いていました。夫は「どうしたんだい。どうしたんだい」とでも言うようにずっとわたしを見ていました。わたしはショックを受け、かなり取り乱していました。平静を保つのは簡単ではありませんでした。

わたしたちはお互いを裁く傾向があります。わたしたちは厳しく裁いてしまいます。ほかの人を不親切な目で見るときに不当に裁いてしまいます。実際にはお互いの状況をほんとうには知らないのです。ですからわたしたちがしなければならぬのは、ただ愛し合うことだけです。

ホランド長老

そして、教義から離れてはなりません。これらの理想から離れてはなりません。皆最善の方法でこの山に登ろう

としていますが、方法は家族によって多少異なることもあるでしょう。

協力する

オックス長老

それにはもう一つの側面があります。それは、リーダーシップを取るようにという父親たちへのチャレンジです。家族の宣言は父親に家族を導くよう求めています。父親は家族の祈りのために全員を集めなければなりません。父親は、家庭の夕べが確実に開かれるようにしなければなりません。時には、計画を母親に委任することによって最善の結果が得られるかもしれません。父親より母親の方がずっと上手にできる場合もあります。しかし主は父親に責任を与えられました。だからこそ家族の宣言に「父親は管理しなければならぬ」とあるのです。

父親の皆さん、立ち上がって自分の役割を果たしてください。

ホランド長老

それは先ほどわたしたちが話したことに呼応します。現在多くの影響力が人々を家庭から引き離そうとしています。これは、わたしたちが人々を、もう一度言いますが、特に父親を、家庭に戻そうと努力しているもう一つの例なのです。

ラント姉妹

父親が管理します。そして、父親が家族を自分の周りに集めます。けれども、母親はそれを助けなければなりません。両親は家族がそのように集まって、良い経験ができるよう道を備えなければなりません。

ベック姉妹

両親が一緒になり、(わたしたちが最初に話し合った原則に戻りますが)神が家族を定められたことを両親がとも

に理解し、ともにそう信じているのなら、両親はもちろん一緒に計画し、実現させるはずです。助け合って一緒に実現させるはずです。

ラント姉妹

小さな子供も喜んで協力しなければなりません。10代の子供も進んで応じなければなりません。

ベック姉妹

そうですね、彼らも時々進んで協力していますね。

オックス長老

簡単にはできませんけれどね。

ラント姉妹

とにかく頑張らしましょう。

わたしたちが話してきた原則、家族が土台とすべきこれらの原則はどれもわたしたちを神殿に向けさせます。神殿は、すでに参入した家族にとっても、これから参入することをわたしたちが望んでいる家族にとっても、非常に大きな祝福であるとわたしは考えています。これらすべての真実の原則と、家族生活のすべての規範(パターン)は、積み積み重ねていって神殿の祝福に至ります。なぜなら、神殿こそわたしたちが永遠の家族になる場所だからです。

バラード長老は次のように言っています。「明らかに……貴い子供を託されている人は神聖で高貴な管理の職を受けています。神がわたしたちに与えられた責任とは、この時代の子供たちを、愛と、信仰の炎と、彼らが何者であるかについての理解をもって包み込むことです。」⁵ これこそ親の務めです。

親戚

ホランド長老

では、「家族」を助けることのできる人たち、つまり、祖父母やおばやおじ、一時的に家族を持っていない人たち

について一言述べましょう。導入でも理解したように、すべての人がこのような家族の形態を持っているわけではありませんが、皆がこの理想のために献身することができます。わたしたちは皆、この教義のために献身することができます。広い定義での家族が参加し、関心を持つことについての意見を願います。

ラント姉妹

わたしは母親として、だれからも助けてもらえない状態を考えたくありません。わたしは自分の子供たちに良い影響を与えてくれた人々に感謝しています。教師、隣人、友達、親戚など、そのような人はたくさんいます。わたしの子供は多くの人からいろいろな方法で助けられています。わたしはそのことを感謝しています。そのような人たちは親が教えようとしていることに証を添えてくれます。そして時には、親が影響を及ぼすことのできない場所に子供が行ってしまい、だれかほかの人がその子供に影響を及ぼせる場合があります。

子供の何人かは外国で暮らしています。末の娘夫婦はスペインに住み、そこで最初の子供を授かりました。もちろんその孫娘は祖母であるわたしから遠く離れていました。わたしはその状況に不安を感じ、孫娘が心配でした。でもそこに住むすばらしい聖徒たちが家族のように接してくれました。彼らは孫娘のためにそこにいて、孫娘を助け、彼女の周りに集まりました。娘と赤ちゃんを愛してくれました。わたしは彼らにどれほど感謝しているのでしょうか。孫娘を気遣い、彼女の人生に影響を与えてくれたことにどれほど感謝しているのでしょうか。

オックス長老

わたしは8歳の誕生日の少し前に父

を亡くし、母子家庭で育ったため、祖父母の影響について直接知っています。おば、おじ、いとこたちの影響について自分の経験を通して知っています。合衆国以外を旅して親戚同士の強いきずなを目にするときに、わたしは喜びを感じます。

世界の多くの地域においては、近年の合衆国に比べて、親戚の協力体制がもっと堅固であるとわたしは考えています。わたしの同胞である北アメリカに住む会員の皆さんに、親戚に手を差し伸べ、力づけてくださるように励ましたいと思います。それと同時に、世界には北アメリカよりも親戚がもっとよく機能している地域があることを知ってほしいのです。

ワードという家族

ベック姉妹

ワードという家族もあります。先ほど話し合いましたが、どのワードでも会員たちは様々な状況にいて、様々なチャレンジがあります。何人かの女性は子供を迎える準備ができています。何人かの女性は結婚を控えているでしょう。伴侶の死期が近づいている人もいます。そうではない人もいます。現実には、子供たちをもうけることのできる女性、大勢の子供を迎えることのできる女性は少ないのです。ワードの家族として子供たちを家族に迎えようとしている人たちの周りに集まって、支えとなるべきです。大家族を持つのは大変なことです。教会員の中に「もう一人産むなんてどうかしているわ」などと言う人が一人もいないように心から願っています。そうではなく、彼女の能力と子供たちを望む気持ちを祝福し、次のような言葉をかけてほしいのです。「応援するわ。出産に向

けてあなたを励まし、助けるためにわたしができることは何でもさせて。」

オークス長老

その件について話してくれてありがとうございます。なぜなら、子供を産むことについて末日聖徒同士が互いに批判しているという報告を実際に受けているからです。昔のことですが、妻のジューンが5人目の子供を身ごもったとき、同じワードの非常に活発な姉妹が妻にこう言ったのを覚えています。「あなたは何をしようとしているの。世界の人口を自分独りで満たすつもり?」そのときジューンがとっさに次のように切り返したことをわたしは誇りに思いました。「ほかに適任者が思い浮かばないんですもの。」

ホランド長老

そして、タナー姉妹が先ほど話したように、健康上の理由があること、物質主義以外の理由があることをわたしたちは皆承知しています。わたしたちが話し合っているのは、お金や、政治的な正当性や、社会の違いについてはありません。わたしたちが話し合っているのは、わたしたちが見守り評価することのできる、福音に正しく根ざした事柄なのです。だからこそ、なおのこと、裁いてはならないのです。わたしたちは教え、励まし、助けるために寄り集まり、応援します。福音という環境の中で、わたしたちは会員たちに、自分が望む結果を求めるように励ますのです。

決してあきらめない

タナー姉妹

子供の養育について、恐らくこの放送を聞いている方の中には自責の念を感じ始めている方が恐らくいらっしゃるでしょう。わたしたちは日々の生活の中で、母親や父親として理想

と現実の間に、時としてとても大きな差を感じる場合があります。けれども母親や父親は永遠の役割、あるいは永遠の召しであり、したがってその召しに対してほかの召しと同様に権威の外套がいを授かるのだと、わたしは知っています。子供を養育するには、その外套が常に必要であり、その外套が持つ御霊たまが必要です。実際、エリシャのように、子供の養育には霊が二つ分必要だと思います(列王下2:9参照)。天の御父はそれを祝福してくださることをわたしは知っています。その子供たちは天の御父の子供です。ですから、わたしたちが義にかなった子供たちを養育しようとするなら、御父は霊の二つ分をもってわたしたちを祝福してくださるでしょう。

オークス長老

そして、実際ほかに子よりも難しい子がいます。親として子供たちに関心を払い、大切な決定をするときに、すべての子供たちを平等に扱うことはあり得ません。資産分与についてはわたしたちの選択にかかわらず平等にできるかもしれませんが、時間についてはそれぞれに必要な量が違うため、平等に分配することは絶対に不可能です。

ベック姉妹

時間の分配については、わたしは成長期を通じて自分の家庭で一つの例を見てきました。10人きょうだいのいちばん上の姉は2歳のときに耳が聞こえなくなりました。ですから母は「まずこの子と10分過ごして、次にあの子と10分過ごすわ」とは絶対に言えませんでした。言うまでもなく、母は長い間、時間の大部分をいちばん上の姉のために使いました。

わたしはまた、永遠に結ばれた家族には、助けと力が神殿からもたらされ

ると考えています。ステーキ会長は鍵と力と権威を受けています。ビショップは、ワードを運営し、ワード内で儀式を執行する鍵と権威を受けています。それと同様に神殿の中の両親は答えを受ける力を与えられています。解決すべき問題を解決するために必要な啓示を受ける力が与えられているのです。オークス長老

その啓示の一部として理解すべきは、神が御自分の子供であるこの子供たちに選択の自由を与えておられることです。そして子供たちは成長し、自分で選択し、その選択に対して自分で責任を負わなければならない時期がやって来ます。

子供が大人になってから下したすべての決断に対して親が罪悪感の重荷を背負うのは大変に不幸なことです。わたしたちは決して、決して、決して、あきらめません。わたしたちの責任は、正しい原則を教え、愛と説得などにより、できることをすべて行うことです。これらすべては、家族と教会の権威を行使する神権の原則です。けれども、結局のところ、わたしの同胞である、成人となった子供を持つ両親や祖父母に対してわたしが言いたいのはこういうことです。「祈り続け、努力し続けてください。でも罪悪感の重荷は降りてください。なぜなら選択する力を与えられている人は、間違った選択をするからです。」時には、間違った選択の結果を見るまでは学べないという人もいます。そのようなときに、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの贖いの驚くべき力に頼るのです。わたしたちがこの死すべき世で犯す可能性のある罪の中で、ふさわしい原則に従うことにより、わたしたちの主の

贖いの力によって赦されない罪は、ほとんどないのです。

養うための環境を築く

ラント姉妹

心から互いに愛し合うことについてわたしたちは十分話したでしょうか。わたしたちはたくさんの言葉を使って、子供たちをどのように教えるべきか、家庭の中で何を行う必要があるかについて話し合いました。でも、わたしたちは単純に互いに愛し合わなければならぬと、わたしは考えます。父親が子供にできる最も偉大なことは母親を愛することであると聞いたことがあります。同じことが家族一人一人にも言えます。愛を示し、愛の言葉を語り、愛を表現する方法をほんとうに探す必要があります。

ホランド長老

教会は、父親を含め、家族を家庭に戻すよう努力しています。教会は、父親と母親の両方にできるだけ家にいるようにと勧めています。

妻の父親が亡くなったのはそれほど前のことではありません。父親を亡くしたたいていの娘がそうであるように、わたしの妻も悲しみに暮れました。わたしが慰めていると、妻はこう言いました。「お父さんはわたしをとっても愛してくれたわ。毎晩歌を歌ってくれて、わたしをベッドに寝かせ、毛布をかけてくれた。」妻は言いました。「お父さんが毛布をかけて歌ってくれなかった日はほとんど1日も思い出せないわ。」わたしが言いたいことは、父親は家庭に在るべきだということです。そしてわたしは、その点でわたしの息子たちを称賛します。息子たちはわたしよりも



よくおむつ替えをしていますし、教会に
いるときに子供たちを外へ連れて出た
りしています。

ラント姉妹

この世には大きな影響力があり、わ
たしたちを家庭から引き離そうとして
いて、家庭だけでなく真に大切なもの
からもわたしたちを引き離そうとして
いると思います。家族の中でわたした
ちが道からそれる原因を見てみると、
それは時には物が多すぎることであ
ったり、時には物が少なすぎることで
あったりします。でも、すべて物と関係
があります。優先順位をほんとうに注
意深く見てみる必要があると思いま
す。わたしたちは忙しすぎないでしょ
うか。わたしたちはあまりにも多くのこ
とをしようとしていないでしょうか。子供
の生活にほんとうに変化をもたらすもの
に注目し、霊的なものを絶対に除外し
ないようにしなければなりません。

ベック姉妹

わたしは、主の計画に従うのに、余
分な活動や時間を設ける必要はない
と考えています。それは簡単な方法で
できるのです。両親が家庭をしっかり
管理するためにいちばん大事な概念
の一つは、良い環境を作ることだと考
えます。わたしたちはよく、大切な
のは義務を課すことだと言ったり、達成
した事柄やリストによって測ったりし
ます。けれども、わたしたちは何か
が成長するための環境について思い
巡らすことができます。養育するとい
う言葉は、成長を助けることを意味
します。どんな植物でも、乾燥しすぎ
たり、寒すぎたり、地面が固すぎると
成長できません。子供を養育するう
えでの親の務めとは、信仰と希望と
慈愛のある場所で、御霊とともに成
長できる環境を維持することです。

メキシコに住む一人のすばらしい母
親に会いました。入り口の外に小さな
中庭がありました。そこで彼女は壁に
庭の絵を描きました。彼女には庭を
作る土地がありませんでした。でも彼
女には壁がありました。それで、壁に
庭を描いたのです。花や樹木や噴水
のある庭です。彼女は家族を育てる
環境を作りたかったのです。家族に
そのようなイメージを与える場所を作
るとは何とすばらしいアイデアでしょ
う。

オークス長老

わたしの母は好んでパール・バック
の言葉を引用しましたが、次の言葉も
その一つです。「わたしは子供たちを
心から愛しています。けれども、すべ
ての時間を使って子供たちを愛するこ
とはできません。」⁶ 一家の稼ぎ手
になってから、母は限られた時間を慎
重に使いました。母はわたしたちと過
せる限られた時間に何をすべきかに
ついてとても注意深く考えました。母
は皆で協力して作業をすることを好
んでいました。当時のことを思い出す
と心が温かくなります。それは、当時
味わった気持ちよりももっと深い気
持ちはです。今思えば、母はいつもガ
レージを片付けるスケジュールを組ん
でいたように思います。しかし、今振
り返ると、子供を自分と一緒に働か
せることによって、母が大切な親の
務めを果たそうとしていたことが理
解できます。

多くの人々が生活する都会の社会
においては、そのようなことを行うこ
とはますます困難になってきていま
す。夫と妻と子供たちが家族全員で
田んぼで働くような発展途上の地域
に住む人々には、このような問題は
ありません。しかし、どこにいても
原則は同じように人を祝福します。
そしてこの原則はわたしたちにと
つて、とても、とても大切なのです。

ホームメイキングの原則

ラント姉妹

今、原則について話されました。
わたしたちはこの話し合いの中で常
に原則をほんとうに頼りにする必要
があると思います。なぜなら、家族
や家族の状況は世界中で異なってい
るからです。けれども、子育てのし
かたや、良い関係を築く方法を知る
には、労働の原則、愛の原則、無私
の心の原則、救しの原則、奉仕の
原則など、福音の基本原則に基づか
なければなりません。

オークス長老

家族の宣言には、わたしたちが頼
る必要のある幾つかの原則が記され
ています。

「神の計画により、父親は愛と義
をもって自分の家族を管理しなければ
なりません。また、生活必需品を提
供し、家族を守るという責任を負っ
ています。また母親には、子供を養
育するという主要な責任があります。」
そこには「独占的な」という言葉は
使われていません。「これらの神聖
な責任において、父親と母親は対等
のパートナーとして互いに助け合
うという義務を負っています。」

母親が家計を支えなければならない
場合もあるかもしれません。わたし
はそのような家庭で育ちました。健
康上の理由で父親が責任を果たせ
ないこともあるでしょう。しかし、
対等のパートナーとして問題を解
決するという原則に従って、天の
靈感を受けながら個々に状況に対
応することができるのです。

タナー姉妹

家庭を築く、すなわち家庭を築く
人になるには特定の原則を知り、
特定の技術を実践する必要があります。
ホームメイキング、つまり家庭を
築く技術とは単にパンを焼くことを
意味するものではありません。この
家庭を築く技術が

不足すると、子供たちは情緒的なホームレス状態になり、路上のホームレスの人々と同じような問題を抱えるようになります。御霊がとどまる場所、心の休まる場所、価値観や原則が教えられる場所を持たない人々は、路上のホームレスの人々と同じように絶望や、薬物使用、虐待、不道德といった多くの問題を抱えています。わたしたち父親と母親には、協力して家庭を築く人となる機会、やがて家庭となる環境を築く機会があります。家庭とは単なる場所ではなく、感情であり、御霊なのです。

オークス長老
ホームメイキング(家庭を築くこと)が話題に上り感謝します。なぜならこのホームメイキングという言葉は一部の人によって軽視されていますが、実際は軽視すべきではないからです。しかし、この言葉を定義する必要があるかもしれません。ホームメイキングとは単にパンを焼いたり、家の掃除をしたりすることではありません。ホームメイキングとは、子供を永遠の命に向かって養育する環境を築くことであり、これは親であるわたしたちにゆだねられている責任です。ホームメイキングは母親に負けず劣らず父親も深くかかわっていることなのです。

ラント姉妹

そしてその家庭は、安全な場所であればなりません。家庭とは、家族全員が帰って来ることができて、自分は愛されていて、この世の事柄から守られていて、自分は大丈夫なんだと感じられる場所です。

オークス長老

委任という観点から考えると、ハウスキーピングつまり家事は多くのことが委任できますが、ホームメイキングつまり家庭を築く責任には委任できる

ものは何一つありません。例えば、家庭の夕べの実施をだれかに委任することはできないのです。家族の祈りを委任することはできません。母親として父親として子供たちを愛することや、子供と一対一で過ごすことは、成長の基本となるものであり、委任できません。ハウスキーピング(家事)とホームメイキング(家庭を築くこと)の区別をつけましょう。

ラント姉妹

それらの責任は、委任はできませんが、分かち合うことはできます。

オークス長老

そうです、分かち合うことはできます。
ホランド長老

オークス長老が「委任することはできません」とおっしゃったとき思ったのは、その責任を地域社会にも、商工会議所にも委任することはできないということです。

オークス長老

教会にさえ委任することはできません。
ホランド長老

教会にさえ委任できません。そこを指摘したかったのです。そのことについて話し合ひましょう。教会は家族をどのように助け、祝福するべきかということについて話し合ひましょう。純粋な家族の問題には、教会であれ——ほかのだれであれ——介入することがまったくできない、また介入するべきでない事柄があります。

活動を計画する

ホランド長老

家族を助けることとスケジュールや日程を組むことのバランスをどのように取るべきかについて、教会の指導者全体に対してどのような助言がありますか。教会のワードやステークには時間

をどのように使うべきかという問題があります。

オークス長老、日程を組むことについてわたしたちはどのように気をつけているでしょうか。

オークス長老

ワードやステークの評議会を管理するビショップとステーク会長の皆さんに向けて話させてください。スケジュールを組むときは、親が子育てに必要な時間を考慮するようにしましょう。家族にどのような影響を与えるかを考慮することなく、思いつかぎりの集会や活動を教会のカレンダーに入れることのないようにしてください。

ホランド長老

わたしたちは個人を祝福したいと思っていますが、家族という単位も守らなければなりません。

ベック姉妹

何年も前にわたしは自分自身のために一つの小さな決まりを作りました。それはすべての人に当てはまると思います。それはこうです。ワードやステークが活動を行うときは、正しい理由がなければなりません。正しい理由とは、わたしたちがそれを必要としていて、それが家族と個人を強めるということです。活動を行う理由として間違っているものは、伝統だからとか、祝日だからという理由です。わたしたちが福音の規範を説くとき、わたしたちはその必要性を知っています。必要性に基づいて活動を計画しましょう。去年成功したからといって、それを毎年の伝統とする必要はありません。

オークス長老

それから、教会のスケジュールは家族の状況を考慮することが最も大切だと言うことができます。平日の夜や週末の家族の負担が大きすぎて、家族が



ワード評議会や会長会で「わたしたちはどうしたら家族を支えられるでしょうか」という問いについて熟考すべきです。

一緒に過ごせるかもしれない時間を奪わないようにしなくてはなりません。

一つ警告しておく必要があります。家族の時間が多くなると、今度は両親が時間の使い方に対してもっと責任を負わなくてはなりません。単にスポーツやテレビを見る時間、個人的な運動競技、多くの、子供向けの、非常に良い地域活動に参加する時間が増えただけという結果に終わらないようにしてください。わたしたちはほかの活動と競争して、教会員に足かせをつけようとしているわけではありません。教会の集会と活動は家族のためになるように秩序をもって行いましょう。空いた時間は、他のものを招き入れて埋めるのではなく、家族で活用しなければなりません。

ラント姉妹

そうですね。そうすることで、責任を家族に戻しているのですね。

オークス長老

そのとおりです。

ワード評議会および家族会議

ベック姉妹

ワード評議会や会長会で「会員からもっと支援を得るにはどうしたらよいでしょうか」とか「大勢の会員がいるからたくさん支援が得られますね」ということがよく話し合われますが、これはまったく逆の発想です。ワード評議会や会長会を「わたしたちはどうしたら家族を支えられるでしょうか」という問いかけで始めるならば、わたしたちは家族を支えるのに役立つことを行うようになり、その逆のことは行わないようになるでしょう。わたしたちは皆、今までの見方を逆にすることができると思います。

オークス長老

そしてそれは、ワード評議会のとても良い議題です。今日のわたしたちのように、グループで集まり、それぞれが自分の考えを分かち合うのです。ピショップは決断を下しますが、彼はまず

すべてのグループから意見を聞き、活動の標準を決め、わたしたちが今話し合ってきた原則に基づいて、スケジュールを調整します。

ホランド長老

話し合いの途中ですが、少し中断して、教会の視聴者の皆さんに伝えるべき非常に大切なことがあります。わたしたちは、そのことを意識してこの話し合いを始めたわけではありませんが、兄弟姉妹が教会で話し合うときに皆さんに経験してほしい事柄を無意識のうちに実演しています。

オークス長老

すべての文化において。

ホランド長老

すべての文化において、ワード評議会ではこのように話し合うべきです。夫婦の間でも同じように話し合ってほしいと思います。わたしたちは互いを尊重し、互いに関心を持ち、皆が自分の意見を持ち、分かち合っています。これは世界放送ですから、ある地域の文化では、その歴史や伝統、人々の流儀とは異なるかもしれません。しかし、福音の文化が常に優先しなければなりません。姉妹の話に耳を傾けることや、ここにいる姉妹たちのように神権者に大いに敬意を示すという習慣や伝統がこれまでもしもなかったのなら、この話し合いのすべてを通じて、教会員に変わる必要性を感じ取ってほしいと願っています。つまり、わたしたちは、互いに耳を傾け、互いに愛し合い、ともに話し合い、最善の考えを導き出し、導きを求めて祈り、その結果として、より良い家庭を築き、より良い教会を築かなければならないのです。このことは、今夜の放送の中で、最も小さな教えではないはずで

必要と能力のバランスを取る

オークス長老

L・トム・ベリー長老は2003年1月の世界指導者訓練集会ですばらしい原則を教えてくださいました。彼の説教から少し読んで、その原則を再度強調したいと思います。その教えは、彼が初めて述べた5年前よりも現在の方がもっと大切な意味を持っています。

「支部、地方部、ワード、ステークを築く秘訣は、会員をよく知ることです。能力と必要を知り、指導者の数と会員の必要を判断して組織を作っていくのです。……何事をするにも、大きいことは必ずしも良いことだと考える必要はありません。会員の数と成長に合わせて、発展していけばよいのです。会員に力を蓄えさせてください。」⁷

これは、解放の原則です。

ラント姉妹

そうです。そして、これは補助組織の指導者にとっても同じことだと思います。よくあることですが、初等協会の指導者を召すと、新しい指導者は初等協会のプログラムを見てこう考えます。「よし、このプログラムをどうやって全部やってやろうかしら。」そして、それらを行い始めると、ほかにもできることはないだろうかと探し始めます。

わたしたちが行うように召されたすべての責任を果たすときに、わたしたちは家族に焦点を当てなければなりません。なぜなら、それ以上のことをする必要はないからです。時にはプログラムを取り除き、必要に目を向け、量を減らすことができます。

ホランド長老

スコット長老が、召しを尊んで大いなるものとするとは、時として量を増やすのではなく、減らすことであると言われたのを思い出します。⁸ 焦点を絞り、

適切に判断してください。質を向上させますが、全体量としては増やすのではなく、減らすべきかもしれません。これもまた解放するという考え方であり、しりごみする、あるいは怠け者になるというわけではないと考えています。そうではなく、ほんとうに真剣に、大きな視野を持ち、家族もその視野の中に入れ、そのうえで、ことによると時には量を減らすのです。

ラント姉妹

そして、多くの場合、補助組織の指導者は非常に有能で、非常に多くのことができるので、我を忘れてしまいます。そのようなことにならないよう、わたしたちは自分を振り返り、プログラムではなく人に焦点を当てなければなりません。

知恵と分別

タナー姉妹

責任に召す前に家族の状態に目を向けてくださる神権指導者に感謝しています。召しは靈感によるものだとこのことを知っていますが、召しには神権指導者の知恵と判断力も求められます。

オークス長老

活発会員の数が限られているユニットでは働き手が不足しています。そのようなユニットの指導者は単に責任の穴を埋めるために、10人の同じ会員に4つも5つも違う召しを与えることのないように細心の注意を払うべきです。それは家族を強める方法ではありません。それはワードを強める方法でもありません。靈感を受けた神権指導者は、忙しい親に複数の召しを与えるべきでないことを前提にするべきです。

2003年1月の世界指導者訓練集会でベリー長老が概説した原則に従うには、プログラムを幾分減らさなければなりません。

ホランド長老

わたしたち、この話し合いの席に着いている一人一人は皆、犠牲は今なおイエス・キリストの福音の原則の一つであることを理解しています。わたしたちは家族のきずなにおいて互いに犠牲を払います。そしてわたしたちはその原則を非常に拡大させて、支部、ワード、ステークに出て行きます。わたしたちは皆、精いっぱい努力しなければできないことを行うよう召されています。ですからわたしたちは、「家族を守るために何をするか」「教会を守るために何をするか」「教会と家族を確実に榮えさせるためにどのようにするか」ということについて判断を下さなければなりません。

大体全部できるようになるためには知恵と分別が必要です。現実には、すべてを一度にすることはできませんし、これまでしてきたことをすべて行う必要はない場合もあるのです。しかし、最も大切な事柄をわたしたちは行えるように祝福されます。

ベック姉妹

バラード長老が賢くあることについて教えてくださいましたすばらしい説教を思い出します。バラード長老は「これらのことを選ぶに当たって賢くありなさい」⁹ と言いました。犠牲の教えは大切です。わたしの証が初めて芽生え「この教会はすばらしい」と感じ始めたのは、両親が召しを受けて、奉仕し、努力し、学んでいるのを見たときでした。わたしは両親のその模範から何かを学びました。そしてわたしは全力を尽くして、自発的に奉仕をすることを通じて主に近づいてきました。家族か、奉仕か、どちらか一方を選ばなければならないとは決して言いたくありません。主の王国を築くという主への約束と、家族を築くという約束は

密接に結合していなければなりません。王国と家族は歩調を合わせて進みます。どちらか一方だけではないのです。

安息日の喜び

ホランド長老

安息日の喜びを取り戻すために可能なことをすべて行うよう、このグループの皆さんに、また教会員全体に嘆願させていただけますでしょうか。日曜日に完全な喜びを得るために、家族の一致を強める以上に何ができるかわたしは知りません。そしてわたしたちは確かに安息日を楽しんでいます。わたしは安息日を楽しんでいます。確かに忙しいのですが、わたしは日曜日を何より大切にしています。初期の時代の聖文、わたしはとりわけはっきりと旧約聖書にさかのぼって考えていますが、その時代の聖文にも、またわたしたちの時代の聖文である教義と聖約にも、安息日の喜び、礼拝の喜び、安息日の大いなる喜びについて述べられています。確かに、わたしたちは安息日とともに過ごすことについて改善できます。場合によっては、福音に生きるうえで重要なもう一つの側面であるこの事柄が家庭で実現できるように、割り当てを減らす必要があるでしょう。

ベック姉妹

そうですね。ホランド長老もまた安息日について、安息日の経験をより良くする方法について話してくださっています。わたしは思うのですが、安息日に教会の責任を果たそうとして忙しくなり、そのためにわたしたちは教会に行くほんとうの理由から離れてしまうことがよくあります。わたしたちは、聖約を新たにするために行くのです。安息日に経験することに対して、家族が準備し、そのことに集中し、それを

第一にするなら、わたしたちは家族を祝福することに成功するだろうと思います。わたしたちは聖餐^{せいさん}を受けるために行くのであって、残りはそれに付随するものです。聖餐は付随的な事柄ではなく、わたしたちが教会へ行く第一の理由なのです。

時々、わたしたちが忙しいと、子供たちにはそのことが理解できなくなるのではないかと思います。そしてそのことこそ、わたしたちが第一に教えるべきことなのです。

「さあ、朝の食事をしなさい。」

ホランド長老

ホームメイキング(家庭を築くこと)の真の精神において、ホームメイキン

グという言葉の最善の、最も崇高な意味で、家族が再び共通の晚餐^{ばんさん}の食卓につけるように、わたしは願っています。ほとんどの社会学者は、「皆で同意した食事時間に一緒に食事をとることほど、1週間の家庭生活の中で家族に一致をもたらすものは恐らく何もない」と言うでしょうし、実際にそう言っているのです。

ベック姉妹

聖典の中の一つの例は、わたしの大好きな聖句の一つですが、ヨハネによる福音書の最後の章です。救い主はガリラヤの海辺で弟子たちを集められました。主はそこで火をおこし、炭火で魚を焼いて言われました。「さあ、朝の食事をしなさい。」この言葉から

一緒に食事をとることほど、一週間の家庭生活の中で家族に一致をもたらすものは恐らく何もないでしょう。



主が手間をかけて用意をされたことが分かります。食事が用意されていました。それはいわば家族の食事でした。主はさあ、朝の食事をしなさいと言って弟子たちを招かれました。ちょっと寄ってつまみなさい、ではなく、さあ、朝の食事をしなさい、と言われたのです。聖典にはそれから「彼らが食事をすませると」とあります。その後で、主は羊に食物を与えるというあのすばらしい教えを教えられました(ヨハネ21:9-15参照)。そこには、一緒に食べてくつろいだ後の良い雰囲気がありました。もしこのような場所を備えることなく教えられたとしたら、主のこの教えはどのように見えていたでしょうか。

主は教えるための場所を用意されました。そしてそれは食事時でした。これは偶然ではないとわたしは思います。

教義に堅くつく

オークス長老

これまで話し合ったすべての中で土台となるのは、親としての務めを果たすことや結婚、そして永遠の重要性を持つこれらすべての事柄において、この世をわたしたちを導くガイドとしない、ということだとわたしは考えています。わたしは今使徒パウロがコリント人に与えた勧告について思い起こしています。これはコリント人への第二の手紙の第6章に記されています。「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。」(2コリント6:14) パウロは、これらの土台となる永遠の決断を下そうとするときに、この世に歩調を合わせ、この世とともにくびきを負う余裕などわたしたちにはないと言っているのです。

ホランド長老

この話し合いの最初に話し合った

概念に戻ります。それは天の御父が前世でわたしたちにくださった計画と勧告の中に含まれている概念です。つまり、もしわたしたちが教会の教義に堅くつくなら、最後まで歩き通すことができるということです。わたしたちは、祈りの答えを受け、真実の原則の土台のうえにとどまることができるでしょう。

わたしはしばしば開拓時代の先祖たちについて考え、また自分の子供たちにもよくその話をします。チムニーロックやマーティンズコープは、教会の歴史的な場所であり、そこから先に進めなかった人もいて、そこにはいたるところに小さな墓が散在しています。彼らがそこを通過して来たのは、プログラムのためでも、親睦のためでもありませんでした。彼らがそこを通過して来たのは、イエス・キリストの福音に対する信仰が心の奥底に、骨の髄にあったからなのです。だからこそ母親たちは、幼い我が子をパン入れに入れて埋葬し、「約束の地はかならずあるわ。わたしたちはその盆地にたどり着くのよ」と言いながら前進したのです。

聖約、教義、信仰、啓示、御霊のゆえに彼らはそのように言えたのです。もしもわたしたちが家族と教会でこれらを維持できるならば、ほかの多くのことは自然にうまくいき始めるでしょう。恐らく、その他の多くの必要性の低い物は荷車からこぼれ落ちて行くことでしょう。当時、手車に積める荷物はわずかだったと聞いています。開拓者は持ち物を選ばなければなりません。わたしたちの先祖とちょうど同じように、恐らく21世紀の社会も「この手車に何を積めるだろうか」という決断をわたしたちに迫ることでしょう。手車に積む物、それはわたしたちの霊を構成し、骨の髄の要素となるもので

す。もしも啓示に堅くついているならば、わたしたちは家族と教会を祝福できることでしょう。

オークス長老

ホランド長老、それは良い結びの言葉だと思います。

ホランド長老

オークス長老、バック姉妹、ラント姉妹、タナー姉妹、すべての教会員を代表して皆さんに感謝します。皆さんの時間と、皆さんの愛、皆さんの奉仕、皆さんの犠牲、そして、イエス・キリストの福音における家族生活と家族愛に対し皆さんが心に抱いている確信に感謝します。ありがとうございます。そして、兄弟姉妹、すべての皆さんに感謝します。

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. ゴードン・B・ヒンクレー「忠誠を尽くす」『リアホナ』2003年5月号, 59
3. “Thurber,” *Life*, 1960年3月14日号, 108参照
4. ミルトン作、平井正徳訳『失楽園』(下)岩波文庫, 第8巻, 600-602行
5. M・ラッセル・バラード, “Great Shall Be the Peace of Thy Children,” *Ensign*, 1994年4月号, 60
6. パール・S・バック, “At Home in the World,” *Marriage and Family Living*, 1942年2月号, 2参照
7. L・トム・ベリー「基本ユニット・プログラム」『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月, 9
8. リチャード・G・スコット「補助組織に関する基本的な教義」『世界指導者訓練集会』2004年7月, 7-8参照
9. M・ラッセル・バラード「おお、賢くありなさい」『リアホナ』2006年11月号, 17-20参照

この世からの避け所

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長
トーマス・S・モンソン大管長



家庭を天国にする

わたしの兄弟姉妹の皆さん、この靈感された集会の最後に話すことに、へりくだる思いです。わたしたちの思いは家庭と家族に向けられました。そしてわたしたちは、「家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たしませんし、その大切な役割を果たしてはくれません」¹という言葉の思い起こしました。

外見的には様々な家族があります。父親、母親、兄弟、姉妹がいる家族も

あれば、独りの親と子供たちから成る家族もあります。そして、たった一人だけの家族もあるかもしれません。

それぞれの家族の形態がどのようであれ、この集会でわたしたちの前に示された指針に添って生活するなら、わたしたちはさらに主に近づき、家庭をさらに天国のようにすることができます。

イエスは、わたしたちが現在敬虔な気持ちで聖地と呼ぶ町々や村々の砂ぼこりの舞う道を歩かれ、美しいガリラヤの岸辺で弟子たちに教えを説かれたとき、人々がよく理解できるように、たとえて語られました。そしてしばしば、耳を傾ける者たちの生活にかかわりの深い、家庭を築くことについて話されました。

主は宣言されました。「内^{わか}わで分れ争う……家は立ち行かない。」(マタイ12:25) 後に主は警告されました。「見よ、わたしの家は秩序の家であり、混乱の家ではない……。」(教義と聖約132:8)

この世はますます無秩序と混乱に満たされています。わたしたちは、わたしたちが大切にしている信条と相反するメッセージ、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に

値すること」(信仰簡条1:13)からわたしたちを引き離そうと誘惑するメッセージに取り巻かれています。そのようなメッセージはしばしばイエス・キリストの福音の外にはびこる思想を信奉しています。しかし、家族が同じ目的で結ばれ、家庭を平安と愛で包むなら、わたしたちの家庭はこの世からの避け所となります。

疲れているとき、病気のと看、落胆しているときに、家の方角に顔を向けることができるのはなんと大きな慰めでしょう。わたしたちは、家族の一員であるという祝福、家族の輪の中に自分の場所があるという祝福を受けています。

時には、家庭や家族の見慣れた環境に退屈したりうんざりしたりすることがあるかもしれません。変化がなく、魅力がないと感じ、ほかの場所の方がもっと刺激的に見えるかもしれません。しかし、多くを試し、遠くの場所を歩き回り、この世の多くの場所が、いかにはかなく、深みのないものであるかに気づいたとき、自分には頼りにできるものがあるということ、家庭があり、家族がいて、愛する人がいつもいてくれるということに対する感謝が増すのです。義務や、尊敬、帰属意識で結ばれることの意味が理解できるようになります。家庭生活という祝福された人間関係の代わりになるものなど何もないことに気づくのです。

わたしたちは皆、子供時代の家庭を覚えています。ほとんどの人にとって、家の大きさや、隣近所が立派だったとか、貧しかったとかいうことはどうでもよくなります。それより、家族と一緒にした様々な経験の中に喜びを見いだすのです。

マーガレット・サッチャーはイギリスの首相時代に、次のような深遠な哲学を言い表しました。「家族は社会を築



家族で毎日祈るとき、今の世の中でわたしたちすべてがほんとうに心から切望している守りが得られるでしょう。

くレンガである。家庭は保育所であり、学校であり、病院であり、遊び場であり、避難所であり、休息所である。家庭は社会の縮図である。家庭は信念を培う場所であり、残りの人生に備える場所である。』²

わたしたちがこの世からの避け所となる幸福な家庭を確実に築く助けとなるように、3つの指針を提案しましょう。

祈りという規範

第1に、祈りという規範を確立しましょう。

一つの民として、家族の祈りが時代遅れなものとなみなされていないことに感謝しようではありませんか。家族がともに祈る姿以上に美しい光景は、この世にありません。主は家族で祈るように教えられました。「あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたが

たの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。」(3ニーファイ 18:21)

家族で毎日祈るとき、今の世の中でわたしたちすべてがほんとうに心から切望している守りが得られるでしょう。

学びの場

第2に、わたしたちの家庭を学びの場にしましょう。

わたしたちの学習室には良書が欠かせません。読書は人生で得られる真の喜びの一つです。わたしたちの時代は大衆文化の時代であり、わたしたちが会う書物の非常に多くが要約され、脚色され、質が低下し、ずたずたに裂かれ、かいつまんだものになっている中で、独り腰を下ろして自分の趣味に合った本を読めば、心が和み、精神が鼓舞されることでしょう。

著名な作家、ジェームズ・A・ミッチェナーは「国家の未来は若者が読む本ようになる。それから、国家の理想が形成され、国家の目標がしっかりと定められる」と言いました。

主はこう勧告されました。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」(教義と聖約88:118)

もちろん、標準聖典はわたしが話している究極の学びの場を提供してくれます。独りでも、また家族と一緒にでも、聖文を頻繁に読みましょう。そうすれば、教えを受け、教化され、さらに主に近づくことができるでしょう。

愛という遺産

第3に、愛という遺産を喜びましょう。

子供たちは、親の模範を黙って観察することによって、愛について数々の小さな教訓を得ているようです。わたしたちの模範が子供たちにまねてもらうに値するものとなるようにしましょう。家庭の中で愛という遺産が受け継がれるなら、モルモン書のヤコブの叱責がわたしたちに向けられることはないでしょう。「あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えている。」(モルモン書ヤコブ2:35)

そうならないよう、家族と家庭を愛で満たすことができますように。家庭を互いへの愛、福音への愛、隣人への愛、救い主への愛で満たすことができますように。そうすれば、天はもう少しこの地球に近づくことでしょう。

わたしたちの家庭を、家族が常に帰りたいと望む、避け所とすることができますように。

望郷の思い

皆さんの中には、幼いときに両親のもとから遠く離れた村に連れ去られた少年の物語を覚えている人もいることでしょう。そのような状況で、少年は、両親のことも故郷のことも思い出せないまま成長していきました。大きくなるにつれ、彼は故郷の両親のもとに帰りたいと強く願うようになりました。

でも、家はどこにあるのでしょうか。お母さんとお父さんをどこで探せばよいのでしょうか。両親の名前さえ覚えていれば、まだ探しようもあったでしょう。彼は必死になって子供のころのわずかな記憶をたどりました。

ある日、まるで靈感が下ったかのように鐘の音を思い出しました。その鐘は、毎週安息日の朝、村の教会の塔から歓迎するかのように鳴り響いていました。若者は村から村へ、あの懐かしい鐘の音を探して歩き回りました。よく似た音を出す鐘もあれば、彼の記憶とはまったく違う音を出す鐘もありました。

ついに、疲れ果てた青年は、ある日曜日の朝に、どこにでもあるような町の教会の前に立ちました。鐘が鳴り始めると、青年は耳を澄ませました。聞き覚えのある音でした。これまで聞いたどの鐘とも違っています。子供のころの記憶の中で鳴り響く鐘でした。そうです。あの鐘です。まさにあの音です。目には涙があふれ、心は喜びに満ち、胸は感謝が満ちあふれました。青年はその場にひざまずくと、鐘のある塔のはるか上の天を仰いで、小さな声で感謝の祈りをささげました。「神よ、感謝します。今帰って来ました。」

わたしは次の賛美歌の歌詞が好きです。

愛する故郷よ、異国の地を、
遠い海をさまよるときいつも、

時がたつにつれ、わたしの心は
^{なんじ}汝をますます恋しく思う

美しい自然に囲まれて、
優しく忠実な友に囲まれ、
陽気な歌に囲まれても、
わたしの心は、今なお汝を慕わしく
思う

わたしたち全員が、家庭を、主の御
^{たま}霊が宿る場所、愛と平安と幸福の宿る
避難所とするために、常に努力するこ
とができますよう、イエス・キリストの御
^な名によりお祈りします。アーメン。

注

1. デビッド・O・マッケイ、*Family Home Evening Manual* (1965年)、iii
2. ニコラス・ウッド、"Thatcher Champions the Family," *The Times*, 1988年5月26日付、24
3. "O Home Beloved," *Hymns*, 337番

世界への宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会ならびに十二使徒評議会

わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

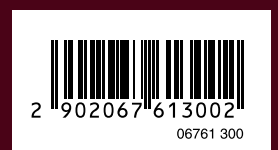
います。「子供たちは神から賜^{たま}わった嗣業^{しぎょう}であり」（詩篇127：3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦^{ゆる}し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとり確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要ときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

末日聖徒
イエス・キリスト
教会





トーマス・S・モンソン大管長

末日聖徒イエス・キリスト教会第16代大管長

『リアホナ』付録

トーマス・S・モンソン 大管長

主の足跡をたどって

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

トーマス・S・モンソン大管長は教会で多くの召しを果たしてきました。新しい召しを受け、奉仕の場所を移す度に、大管長は1枚の絵を大切に持って行くことにしています。ビショップを務めていた1950年代から所有しており、カナダ伝道部を管理したときも、本部のあるトロントに持って行きました。今は大管長の執務室の壁にかかっています。それは著名な画家ハインリッヒ・ホフマンによる、心を打つ主イエス・キリストの絵です。

この絵は執務室の壁を飾っていますが、それ以上の意味を持っています。末日聖徒イエス・キリスト教会の「隅のかしら石」(エペソ2:20)がどなたであるかを思い起こさせてくれますが、それ以上の意味があります。大管長に召された者が、救い主の生ける証人の長となるよう期待されていることを宣言していますが、それ以上の意味があります。この絵は、トーマス・モンソンが人生の手本としてきた主、すなわち完全な模範を表しているのです。モンソン大管長は改めて絵を見詰め、こう語ります。「わたしはこの絵が大好きです。身近に置くことで力を感じます。優しさにあふれる目を見てください。ぬくもりに満ちた表情を見てください。わたしは難しい問題に直面するとこの絵を眺め、『主ならどうされるだろうか』としばし



ば自問します。そして、主がなさるであろうことを行うようにしています。」

主に対するこの忠実さ、主をいつも手本とするこの姿勢、そして救い主の示された道を歩もうとするこの決意が、指導者として人生を送ってきたトーマス・S・モンソンの特徴です。大管長が主のふさわしい弟子であることを示す逸話の多くはよく知られています。大管長は少年時代、ある男の子が自分

分よりもっと欲しがっているからと、大切なおもちゃを上げました。また、友達の家族がクリスマスの夕食を食べられるよう、

ペットとして飼っていた2羽のウサギを差し出しました。若いビショップとして、夫を亡くしたワードの84人の姉妹の必要を満たし、その後何十年も彼女たちを心にかけてきました。中央幹部となってからも、御^{たま}霊のささやきに注意深く耳を傾け、集会を中断して子供を祝福することもありました。



上—10代のころのトーマス・モンソン(左から2番目)、両親(前列に着席)と家族とともに。

上および左—少年時代は「トミー」として知られていた。

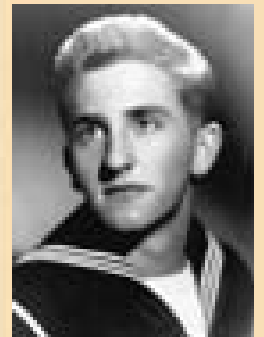
次ページ—トーマス・S・モンソン大管長とフランシス姉妹。イリノイ州ノーブー神殿にて。



**トーマス・S・モンソン
大管長の半生における
おもな出来事**

1927年8月21日、
ユタ州ソルトレーク・シ
ティーでG・スペンサー・モ
ンソンとグラディス・コン
ディー・モンソンのもとに
生まれる。

1945 - 1946年
アメリカ海軍予備軍で軍
務に就く。



1948年
ユタ大学を優秀な成績で
卒業する。

デゼルトニュース社に入社
する。

モンソン大管長をよく知る人たちは、大管長がそうしたのは、単に親を喜ばせるためでも、ビショップとして、夫を失った姉妹たちへの責任があったためでも、または使徒の務めだったためでもないことを知っています。これらの無私の奉仕を行ってきたのは、大管長にそのような特質が備わっているからでした。トーマス・

S・モンソンは、救い主ならなさるであろうことを行っているのです。

大管長自身がしばしば引用する聖句を使って短く表現するなら、大管長は「よい働きをしながら、……巡回され」た「ナザレのイエス」のまことの弟子なのです(使徒10:38)。大管長の責任には、管理上の多くの決断を下し多くの



上—
**温かい食物を盛った皿を
 孤独な隣人に届けることは、
 子供時代の
 トミー・モンソンが
 仕えることを学んだ
 様々な機会の一つであった。**
 次ページ—
**モンソン大管長(写真は
 息子クラークとともに)は
 少年時代に
 釣りを愛するようになり、
 後にその伝統を
 子供たちに伝えた。**

文書を処理することが含まれます。ほとんどの人にとって驚くほどの重責です。それでも、大管長は自らが模範とする御方がお仕えになる人々をなおざりにするようなことはありません。手を差し伸べ、不遇な人を励まし、すぐに忘れられてしまうような人々を心に留めるという生き方を続けてきました。「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」と命じられた神聖な務めを、モンソン大管長ほど尊んでいる人は近年の教会指導者の中でほかにいないのではないのでしょうか(教義と聖約81:5)。

始まり

トーマス・スペンサー・モンソンのひととなりを知るには、モンソン家のルーツとモンソン大管長の生まれ育った環境を知ることが大切です。

モンソン大管長はG・スペンサー・モンソン、グラディス・コンディー・モンソン夫妻の第2子、長男として1927年8月21日に生まれました。父方はスウェーデン人とイングランド人を先祖に持ち、母方の先祖はスコットランド人です。曾祖父はモンズ・オケソンといいました。このため、父

の名を姓にするスウェーデンの慣例に従い、祖父はネルズ・モンソンと名乗りました。父の代からはアメリカの一般的な習慣に基づき、モンソンという姓になりました。トーマス・スペンサーの名は、母方の祖父トーマス・シャープ・コンディーと父スペンサー・モンソンから取っています。

モンソン大管長はソルトレーク・シティー西部で育ちました。裕福で著名な人々がいるような地域ではありませんでしたが、心の優しい働き者がたくさん住んでいました。特に大管長の家族はそのような人たちでした。モンソン家は鉄道の線路の近くに住んでいて、1930年代の大恐慌の間、列車で現場を渡り歩いた労働者の間でよく知られていました。そのような人々の中には10代の少年もいました。家族の話では、彼らがモンソン家の裏口をたたくと、大管長の母グラディス・モンソンは中に招き入れ、台所で座って待つように言い、その間にサンドイッチを作り、コップにミルクを注いで出してあげたそうです。また、幼いころのトムは、母親の作った温かい食事を近所の「ボブじいさん」に運んで行く役目を任されていたときがあります。ボブじいさんは、祖父

が世話した家に独りで住んでいました。モンソン家の近所には、そのようなクリスチャンの施しを受ける人々が大量に住んでいました。

日曜の午後にはよく、体の弱い「エライアスおじさん」を連れて市内をドライブする父の車に同乗しました。関節炎で手足の不自由なおじを父が優しく車まで連れて行き、景色のよく見える前の座席に座らせていたことを覚えています。「短時間のドライブで、話もそれほどしませんでした。愛の大切さを父から教わるすばらしい機会でした」とモンソン大管長は振り返ります。「父は、聖書の良いサマリヤ人について読んでくれたことはありません。しかし、わたしとエライアスおじさんを1928年型の古いオールズモビルに乗せ、いつまでも記憶に残る生きた教訓を教えてくれたのです。」

父が示した勤勉という模範も、大管長の心に深く刻み込まれました。G・スペンサー・モンソンは一度取りかかった仕事は必ずやり遂げることで、そして熱心に取り組むことで知られていました。印刷会社で管理職に就いており、トムは幼いときからこの仕事に慣れ親しんでいました。やがてこれが自身の職業になります。ユタ大学で経営学を学び、1948年に(優秀な成績で)卒業すると、日刊紙を発行する教会の新聞社デゼレトニュース(Deseret News)に入社し、広告担当部の管理職に就きました。(生涯学習の大切さを固く信じていた大管長は後に、十二使徒定員会で奉仕しながら経営学修士号を取得しています!)それから11年間、デゼレトニュースに勤め、印刷業界で働いた後、1959年にカナダ伝道部を管理する召しを受けます。伝道部長の

責任を終えると、デゼレトニュースの系列会社であるデゼレト出版(Deseret Press)の社長として仕事に戻りました。そして、父がかつて示した印刷業務への注意と熱意を忘れることなく、同じように熱心に仕事に励みました。

大好きな家族に囲まれて育った少年時代

少年時代の写真には、活発で愛くるしい表情を見せ、時にいたずらっぽく目を輝かせる、かわいらしいトミーが写っています。男の子らしい男の子だったと大管長は話します。初等協会時代にはこんなことがあったそうです。

「トレッカー(10歳児のクラス)時代のわたしの振る舞いは必ずしも初等協会にふさわしいものではありませんでした。元気が有り余っていて、クラスでじっとしてられないのです。ワードの初等協会会長はメリッサ・ジョーゼル姉妹でした。ある日、ジョーゼル会長が話をしたいと言うので、二人で礼拝堂のいちばん前のベンチに座ると、彼女は泣き始めました。初等協会の開会行事で困っている、特に男の子たちが静かにしてくれないので悲しいと言いました。何も知らないわたしは言いました。『ジョーゼル姉妹、何かお手伝いできますか。』

ジョーゼル姉妹はにっこりして、目を輝かせてこう言いました。『手伝ってくれるの?』

わたしは手伝うと言いました。途端に、初等協会での行儀の問題が解決したのです。」大管長は笑いながら話してくれました。

祖父トーマス・コンデーは、ソルトレーク・シティ500サウス、200ウエストという所に、娘たちとその家族のために4軒の家を建てまし



1948年10月7日

ソルトレーク神殿でフランシス・ビバリー・ジョンソンと結婚する。



1950年5月7日

ソルトレーク・シティ、テンブルビューステーキ第6・第7ワードのビショップとして支持される。

1953年

デゼレトプレスの営業担当マネージャーに任命される。

1955年6月26日

テンブルビューステーキ会長会の第二顧問として支持される。



1958年

デゼルト出版の副社長に指名される。

1959 - 1962年

トロントに本部を置くカナダ伝道部の会長を務める。

1962年2月1日

バレービューステーキの高等評議員として支持される。



1963年10月4日

十二使徒定員会の会員として支持される。

1966年

ユタ大学の「優秀同窓生賞」を受賞する。

た。「コンディーズテラス」と呼ばれたその地域で、トマス・モンソンはいつも家族に囲まれ、まるで自分の家のようにいとこたちの家に入りしていました。また、ソルトレーク盆地のグレインジャーにあるコンディー家の農園を好んで訪れました。今でこそ住宅やショッピングセンターが建ち並んでいますが、当時は片田舎でした。10代半ばに夏の仕事をできるようになるまで、トムは家から約95キロ離れたプロボ峡谷のビビアンパークにある山小屋へ行くのをとても楽しみにしていました。外でいとこたちと遊び、川で泳ぎ(おぼれていた若い女性を助けたこともあります)、生涯の趣味となった釣りを覚えました。

カモなどの鳥を狩ることも覚えました。やがては鳥を養い、守るようになります。少年時代にははと鳩に興味を持つようになり、家で育て始めました。ついにはコンテストで入賞するような鳩を育てています。しかも、鳩を飼うことで、指導者としていつまでも役に立つ教訓を得ました。

例えば、ワードで教師定員会の会長を務めていたときのことで。定員会アドバイザーから鳥を育てるのは好きかと聞かれ、トムは大喜びします。アドバイザーはこう尋ねました。「純粋なバーミンガムローラー種(訳注——競技・演技用に品種改良された鳩の一種)の鳩のつがいを飼ってみないかい。」雌の方は特別な鳩だと言われました。猫に襲われて片目が見えなくなっていました。アドバイザーの指示に従い、トムは10日ほど小屋に入れ

ておいてから、鳩を空に放ちました。戻って来るかどうか確かめるためです。雄は帰って来ましたが、雌はそのままアドバイザーの家に戻ってしまいました。トムが雌を返してもらいに行くと、アドバイザーは教会に来ていない定員会のある少年のことを話しました。そこでトムはこう言いました。「今週の定員会に彼を連れて来ます。」トムは鳩を家に連れて帰りました。そしてまたつがいを放すと、雌は再びアドバイザーの家に戻ってしまいました。鳩を返してもらいに行くと、アドバイザーは定員会に来ていない別の少年について話しました。鳩を放す度に、雌はアドバイザーの家に戻り、返してもらいに行くと、ほかの少年について聞くことになったのです。

当時を振り返り、大管長はこう語ります。「わたしはもう子供ではありませんでした。アドバイ





ザーのハロルドが、自分の鳩の中から、放されたら必ず戻って来る特別な1羽を選んでおき、わたしにくれたと気づくまでにそう時間はかかりませんでした。教師定員会会長と理想的な神権個人面接を2週間ごとに行うすばらしい方法でした。この面接と年老いた片目の鳩のおかげで、教師定員会は全員が活発になりました。」

少年から大人へ

10代半ばに差しかかるころ、同年代の少年の未来が第二次世界大戦の影響を受けることは避けられなくなっていました。トムは高校を卒業すると、ユタ大学に入学しました。18歳の誕生日が近づくと、徴兵されることがほぼ確実になり、合衆国海軍に入隊することを決意します。入隊の際にトムが行った選択は将来に大きな影響を及ぼしました。海軍の予備軍に入ることにしたのです。終戦直後、兵力が削減されると、トムの現役勤務は終わりました。こうして彼は家に戻り、大学に復帰することができたのです。フランシス・ビバリー・ジョンソンとの

コートシップも再開しました。(大管長は、当時はコートシップの方が大学への復帰よりもはるかに大切だったと告白しています。)

トムがフランシスに出会ったのは大学1年のときでした。フランシスの家族とは、初めて紹介されたときから固いきずなが結ばれました。トムが訪ねて行くと、フランシスの父は、シルクハットをかぶった教会初期の末日聖徒の宣教師二人が写っている写真を持って来ました。そして一人を指し、このモンソンと親戚なかと尋ねました。トムは「はい」と答えました。写っていたのは父のおじ、エライアスだったのです。フランシスの父の目に涙が浮かびました。エラ

前ページ——
モンソン大管長は、
バーミングガムローラー種の
鳩の飼育を楽しんできた。
上——若いころから教会で
多忙な務めを果たし、
22歳でビショップ、
36歳で使徒として
召されている。

左上——
フランシス・モンソンと
トマス・モンソン。
3人の子供トマス、
クラーク、アンと。



**上—1965年に
トンガ伝道部を訪れた
モンソン大管長。**

**次ページ、上から—
モンソン大管長は、
スカウト活動において
様々な働きをしてきた。**

**ドイツ・フライベルク神殿の
建築許可を得るのに
貢献した(写真は、1985年の
オープンハウス時のもの)。**

**1981年には
ロナルド・レーガン
米大統領から、
民間活力に関する
大統領直属の
特別委員会の一員に
任命されている。**

イアス・モンソン長老はジョンソン家族が福音に改宗する仲立ちとなった宣教師だったからです。トムはコートシップがすばらしい形でスタートを切ったことを心の中で喜びました。

トーマス・モンソンとフランシス・ジョンソンは1948年10月7日、ソルトレイク神殿で結婚しました。

モンソン姉妹は、長年にわたって教会で忙しく奉仕する夫の姿を見てきました。「トムはワードの書記をしていました。結婚したときにYMMIA(青年男子相互発達協会)の会長になり、その後も次々と責任を受けてきました」とほほえみながら語ります。大管長は1950年2月に22歳でワードのビショップに召されて以来、常に指導者として導き管理する責任を受けてきました。「夫が主の業を行っているために、わたしたちが犠牲を強いられていると感じたことは一度もありません。わたしにとっても子供にとっても祝福でした。夫は、教会のためであれば務めを果たすようわたしが願っていることをいつも知っていました。」

モンソン大管長は、妻の支えなしでは務めを果たすことはできなかったと語ります。「わたしの教会の責任についてフランシスが不平を漏らしたことは一度もありません。何日も家を空

け、集会で隣に座ることもめったにありませんでした。彼女のような人はほかに一人もいません。妻はあらゆる面でわたしを支えてくれる、静かで、驚くほど強い信仰を持つ女性です。」

3人の子供たち、トーマス・リー、アン・フランシス、クラーク・スペンサーのために妻が家庭を堅固に守り続けてきたことをモンソン大管長は認め、感謝しています。3人とも結婚し、モンソン大管長と姉妹には8人の孫と4人のひ孫がいます。

大管長は教会の責任でしばしば遠出し、週末の度に家を空けなければなりません。しかし、息子のクラーク・S・モンソンはこう話しています。「わたしたち子供のために必ず時間を作ってくれました。それは今でも変わりません。父と一緒にいる時間がないと感じたことはありませんでした。家にいるときは一緒にゲームに興じ、アイスクリームを買いに一緒に出かけてくれました。時間に余裕のある夏の間は、プロボ溪谷にある家族の山小屋で一緒に過ごしたものです。子供のころは父と一緒によく釣りをしました。父親が息子と一緒に過ごすのに、これ以上の方法はないと思います。」

娘のアン・モンソン・ディブは、父親を助け敬う最良の方法の一つは、母親を助け敬うことだということを昔から知っていました。大管長は

子供たち、そして今は孫たちをいつも愛し、支えてくれていると彼女は語ります。「うちの息子たちはおじいちゃんの家での庭の芝刈りを喜んで手伝います。おじいちゃんのそばで働くことが好きなのです。家族の山小屋でキャンプファイヤーを囲み、マシュマロを焼きながら、おじいちゃんの話に耳を傾けるのが皆大好きなのです。」また彼女は、大管長は学んだことをいつでも惜しみなく話してくれると言っています。

大管長は、勤勉であることによっていろいろなことを学んできました。それは幼いころからの習慣です。例えば、あれほどの若さでビショップになれば、だれでもしりごみしたくなるでしょう。1,080人の大きなワードでした。そのうちの84人は夫を亡くした姉妹で、ビショップの助けを必要としていました。しかしモンソンビショップは重責にたじろいで時間を無駄にするようなことはありませんでした。祈り、そして行動しました。奉仕し、愛し、力づけました。それはビショップの務めであったと同時に、自ら望んだ道でもありました。「主の用向きを受けて」いたのです(教義と聖約64:29)。

多くの教会員は、夫を亡くした姉妹たちの必要を満たしたモンソンビショップの経験談を耳にしてきました。しかし、この話を最後まで知っている人はほとんどいません。クリスマスになるとモンソンビショップは食べ物を携えて姉妹たち一人一人を訪ねました。長年にわたり、自分で飼っている雌鶏を料理用に下ごしらえして届けていたのです。最初は全員を訪問するのにクリスマス休暇の1週間を使っていました。ビショップを解任されてかなりの年月が過ぎても、姉妹たちは恒例となった毎年の訪問を楽し



1971年

ボーイスカウトアメリカ連盟のシルバービーバー章を授与される。

1974年

ブリガム・ヤング大学で経営学修士号(MBA)を取得する。

1975年4月27日

ドイツ民主共和国(東ドイツ)を伝道の業のために再奉獻する。

1978年

ボーイスカウト・アメリカ連盟の最も榮譽ある章であるシルバーバッファロー章を授与される。

1981年

ブリガム・ヤング大学から名誉法学博士号を授与される。

1983年4月23日

ドイツ・フライベルク神殿の鍬入れ式を管理する。

みにし、必ず来てくれると信じて待っていました。モンソン大管長は年老いていく彼女たちを引き続き訪れ、驚いたことに84人全員の葬儀で話すことができました! モンソン大管長は、「自分の」姉妹たちや友人たちを訪れた際に出会った人々たちを訪問するため、今も地元の施設や療養所に定期的に足を運んでいます。

「父はヤコブの手紙にある3つの聖句を生活の指針としています」とディブ姉妹は話します。「1つ目はヤコブの手紙第1章22節、『御言を行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけません。』2つ目はヤコブの手紙第1章25節、『実際に行う人……は、その行いによって祝福される。』3つ目はヤコブの手紙第1章27節、



『父なる神のみま^{けが}えに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない。』」モンソン大管長は救い主の方法に倣^{なら}って人を助けると彼女は言い



1985年11月10日

エズラ・タフト・ベンソン大管長の第二顧問として任命される。

1986年1月17日

アルゼンチン・ブエノスアイレス神殿を奉献する。

ます。「どのような試練や悲しみを受けている人にも、父は手を差し伸べます。彼らが救い主イエス・キリストへの信仰を応用し、救い主に頼るよう、引き上げ、慰め、支えています。」

友人と主に対する誠実さ

愛する友人を大切にする姿から誠実な人柄が見て取れると、モンソン大管長をよく知る人々は言います。大管長と出会うほとんどの人

知ることができます。

こうしたことを聞くと、トーマス・S・モンソンが持つ、誠実さという特質のもう一つの側面を思い起こすことができます。それは御霊の声に誠実であることです。若いころビショップを務めていたある日の夕方、ワードの年配の会員が治療を受けるためにソルトレーク・シティーの退役軍人病院に運ばれたという連絡を受け、病院へ行って祝福してほしいと言われました。モンソンビショップはステーキの集会へ向かう途中だったので、集会が終わったらずぐに病院へ行くと言いました。指導者会の間、不安で落ち着きませんでした。すぐにその場を離れて病院へ行きなさいという強い促しを受けました。しかし、ステーキ会長の話の最中に退席するのは失礼に当たると思い、その場を去ることができませんでした。ステーキ会長の話が終わると、閉会の祈りも待たずに出口に向かいました。病院に着くと、いつの間にか廊下を走っていました。すると病室の外の様子が慌ただしいこと



1993年

世界スカウト委員会からブロンズウルフ章を授与される。

1994年6月5日

ハワード・W・ハンター大管長の第二顧問として任命される。

1995年3月12日

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の第一顧問として任命される。

は友人となりますが、そうした友人たちとの間には固い誠実のきずなが築かれます。少年時代の仲間とは今でも親しくしています。もしバスケットボールのユタジャズの試合を特別席で観戦する機会があったとしたら、大管長は自治体や実業界の指導者、あるいは有力者を招いて一緒に楽しむかもしれません。しかし同じように、昔から知っているごく普通の友人たちを招き、一緒になって熱心に観戦することでしょう。大管長と試合を一緒に見る機会のない人たちも、かつての出来事を懐かしく語るその声から、または声の調子からだけでも、大管長が仲間を大切に思っていることを

に気づきました。看護師から声をかけられました。「モンソンビショップですか。」「そうですが」と不安げに答えました。「お気の毒ですが、患者さんは亡くなりました。息を引き取る間際まであなたの名前を呼んでいました。」

その夜、若きビショップは病院を出るとき、



前ページ、左から—
大管長として支持される前、モンソン大管長は
エズラ・タフト・ベンソン大管長、
ハワード・W・ハンター大管長、
ゴードン・B・ヒンクレー大管長(上および右)の下、
それぞれの大管長会で働いた。

主からの導きを二度とないがしろにしないと誓いました。大管長ほどその誓いを忠実に守っている人はいないでしょう。事実、御霊の導きに忠実であったために、大管長は次々と奇跡を経験しています。

何年も後、十二使徒定員会の会員として訪問したあるステーキ大会は、いつもとは違う特別な会になりました。心の中には、恐らくあの病院での経験があったのでしょう。その週末、モンソン長老は別のステーキを訪問する予定になっていましたが、割り当てが変わることになりました。当時十二使徒定員会会長だったエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)から「モンソン兄弟、わたしはあなたをルイジアナ州シュリーブポートステーキに送るよ」という靈感を受けています」と言われたとき、モンソン長老はこのことに特別な意味があるとは思いませんでした。

シュリーブポートに到着したモンソン長老は、末期癌^{がん}で苦しむ10歳のクリスタル・メスビンが、中央幹部、特にモンソン長

老から祝福を受けたがっていることを知ります。大会の日程を検討しましたが、クリスタルの家まで130キロを移動する時間はありませんでした。ステーキ会長に、大会の間、集会の祈りの中で彼女のことを忘れずに祈るよう頼みました。メスビン家族は、モンソン長老に来てもらうには遠すぎるということは分かっていたのですが、娘の望みがかなえられるようにと祈っていました。土曜の夜の指導者会で話す準備をしていたときのことをモンソン長老はこう振り返っています。「わたしの霊に告げる声を聞きました。それは短いものでしたが、何度も聞いたことのある言葉でした。『幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。』(マルコ10:14)」ステーキ会

長の協力を得て、翌朝メスビン家を訪問するよう急いで手配しました。この祝福の機会に携わった人たちにとってそれは厳粛で、神聖な経験でした。望んでいた祝福を受けてからわずか4日後、クリスタルは天の御父の家に戻ったのです。

このような出来事は、しばしば人々の人生に霊的な波及効果をもたらします。1975年10月の総大会でモンソン長老はクリスタルの話を紹介しました。タバナクルの2階席に座っていたクリスタルくらいの年齢の金髪の少女を目にして、その子に聞かせたいと感じたからです。クリスタルの真摯な願^{しんし}いについて、そして天の御父が愛をもってその願^{しんし}いを聞き入れられたことを話してから、最後にこう語りました。「2階席に座っている幼い友人であるあなたと、そして信じる心を持つすべての人に、わたしはナザレのイエスが幼子^{おきなご}を確かに愛^{あかし}しておられ、皆さんの祈りに耳を傾け、こたえてくださることを証^{あかし}します。」

部会が終わり、執務室に戻ると、2階席に座っていた金髪の少女が祖母と一緒にモンソン長老を待っていました。少女はバプテスマを受けるかどうか悩んでいたのです。彼女の周りでは18歳まで待つよと言^いう人もいました。答えが分かるようにイエスが助け^{たす}てくださるという信仰をもって、彼女は祖母に大会に連れて行^いってくれるよう頼^{たの}みました。少女はモンソン長老の手を握^とり、こう言^いいました。「モンソン長老を通して、主は祈りにこたえてくださいました。ありがとうございます。」間もなく彼女はバプテスマを受けました。

人々を教え導^まりてきたトーマス・モンソン大管長は、ささやくような御霊の促^ましにこたえることにより、驚くような経験を目

の当たりにしてきました。それは途切れることなく、繰り返し起こっています。ある人が受けたいと願っていた祝福を施すためにふさわしい瞬間に訪問し、人々の無言の必要にこたえ、ある人に助けがどうしても必要なときに指導者や会員たちの力を結集したのは大管長でした。しかしモンソン大管長は、それらの経験は聖霊の働きによるものであって、自分の特殊な才能や能力によるものではないと言うでしょう。「この世で得られる一番の喜びは、主の手が肩にかけられていると感じることです」とモンソン大管長は熱心に語ります。「少年時代に受けた祝福師の祝福でわたしは識別の賜物^{たまもの}を受けると約束されました。その宣言が豊かに成就していると言うことができます。」少年時代から学び始めたそれらの事柄は、年月を経て豊かに生かされていきました。

生涯の奉仕に召される

指導者として召されたころの若きトーマスについてはすでに触れました。トーマスは22歳のときに、ソルトレーク・シティーのテンプルビューステーク第6・第7ワードのビショップとして召されました。27歳のときに同ステーク会長会の顧問として召されています。そしてその務めを果たしていたとき、31歳でカナダ伝道部の会長として召されました。伝道部の管理を終えて帰還すると、高等評議会と教会の中央の複数の委員会で働くように召されました。そしてわずか1年余りの後、36歳で聖なる使徒職の召しを受けることとなります。

1963年、トーマス・S・モンソンが十二使徒定員会の欠員を埋めるように召されたとき、その経歴について何も知らない会員たちは、彼がどこからともなく突然現れたように思ったかもしれません。1910年にジョセフ・フィールディング・スミスが33歳で召されて以来、モンソン長老は最年少でその職に召されたのです。しかしモンソン長老をよく知る人々は、彼がその職に備えられてきたことを知っていました。

彼は、若いころから教会の指導者たちと交わりを持っていました。ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973年)は、かつて彼のステーク会長でした。1950年、トム・モンソンはある重要な決断を下すに当たり、友人であった当時十二使徒定員会のリー長老に助けを求めました。第二次世界大戦後、海軍予備軍で下士官として働いていたトムを、少尉に任官する話が来ていたのです。部隊が戦時編制されたなら、召集されて家を離れることになるでしょう。それを承知のうえで、この話を受けるべきでしょうか。任官を辞退し海軍を除隊するようリー

長老から助言され、トムは決断に苦しみました。将校への任官は、懸命に目指してきた昇進だったからです。にもかかわらず、トムは助言に従いました。間もなくトムはビショップとして召されました。任命を行ったリー長老は、もしトムが軍務に身を投じていたならば、恐らくビショップの召しは来なかっただろうと指摘しました。そしてまた、後の様々な重要な召しも



トーマス・S・モンソンの著書

- Pathways to Perfection*〔『完成への道』〕, 1973年, 1976年
- Behold Thy Mother*〔『ごらんなさい、これはあなたの母です』〕, 1976年
- In Search of the Christmas Spirit*〔『クリスマスの精神を探して』〕, 1977年, 2007年
- Be Your Best Self*〔『最高の自分になる』〕, 1979年
- Conference Classics*〔『大会クラシック』〕, 第1巻, 1981年
- Honor Thy Mother*〔『あなたの母を敬いなさい』〕, 1981年
- Christmas Gifts, Christmas Blessings*〔『クリスマスの贈り物、クリスマスの祝福』〕, 1983年
- Conference Classics*〔『大会クラシック』〕, 第2巻, 1983年
- Conference Classics*〔『大会クラシック』〕, 第3巻, 1984年
- Favorite Quotations from the Collection of Thomas S. Monson*〔『名言集—トーマス・S・モンソン選集から』〕, 1985年
- Invitation to Live the Good Life*〔『すばらしい人生への招き』〕, 1988年, 1993年
- The Church in a Changing World*〔『変わりゆく世界の中の教会』〕, 1989年
- The Search for Jesus: A Christmas Message*〔『イエスの探求—クリスマスメッセージ』〕, 1992年
- Inspiring Experiences That Build Faith*〔『信仰を築く、靈感に満ちた経験』〕, 1994年
- Faith Rewarded: A Personal Account of Prophetic Promises to the East German Saints*〔『報われた信仰—東ドイツの聖徒に対する預言者の約束の記録』〕, 1996年
- An Invitation to Exaltation*〔『昇栄への招き』〕, 1997年
- Meeting Your Goliath*〔『あなたのゴリアテに立ち向かう』〕, 1997年
- A Christmas Dress for Ellen*〔『エレンのクリスマスドレス』〕, 1998年, 2004年



**1999年5月25日、
ニューヨーク州パルマイラ神殿（くわい）の献入れ式で
若い会員の助けを受ける
ヒンクレイ大管長とモンソン管長。**

来ることはなかったでしょう。

トーマス・モンソンの長男トムは、ミドルネームをリー長老からもらっています。モンソン家の次男クラークの名前は、同じく一家の友人である、大管長会で顧問を務めたJ・ルーベン・クラーク管長(1871 - 1961年)に由来しています。印刷業者として、トム・モンソンはクラーク管長とともに働き、名著『福音書の主』(Our Lord of the Gospels)を含む、この教会指導者の著書を数多く手がけました。二人の関係は、父と子のようでした。

仕事をする中で、トム・モンソンはまた、十二使徒定員会のリグランド・リチャーズ長老(1886 - 1983年)と知り合い、敬服するようになります。トロントで伝道部を管理していたときには、カナダの政財界の指導者でもあったネイサン・エルドン・タナー長老(1898 - 1982年)と知り合いました。実は、1963年にトーマス・モンソンが埋めることになる十二使徒定員会の欠員は、タナー管長が同定員会から、デビッド・O・

マッケイ大管長(1873 - 1970年)の顧問として大管長会に召されたことにより生じたものでした。

伝道部会長の務めを終えてソルトレーク・シティーに戻ると、モンソン兄弟は当時十二使徒定員会のスポンサー・W・キンボール長老(1895 - 1985年)が指導していた教会の神権伝道委員会の一員に召されました。またタナー長老のもと、神権系図委員会で働きました。その後、成人コーリレーション委員会、そして当時十二使徒定員会の会員であり、後に大管長会で顧問を務めたマリオン・G・ロムニー長老(1897 - 1988年)のもと、神権ホームティーチング委員会で働きました。教会の委員会での仕事に没頭していたため、十二使徒定員会の召しを受けた日、マッケイ大管長の執務室に呼ばれたのは委員会で割り当てられている仕事の一つについて話し合うためだと思っていました。

学ぶ者、教える者

教会の指導者たちと交わるようになる中で、モンソン長老は物事を熱心に、また速やかに学んでいきました。務めを果たすモンソン長老の能力は、定員会の兄弟たちの間で有名になりました。キンボール大管長はモンソン長老について、「まさに『行動』の人」であり、「迅速に、断固として行動する」人である、と述べています。十二使徒のブルース・R・マッコスキー長老(1915 - 1985年)は、かつてモンソン長老を「教会管理の天才」と呼びました。モンソン長老の、人に対する心からの誠実さについて、後にともに大管長会で働くことになるジェームズ・E・ファウスト長老(1920 - 2007年)は、「彼の思いが、また心が、何かを、特に人々を忘れることはありません」と述べています。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926 - 2004年)は、トーマス・モンソンについて次のように語っています。その管理能力と実行力は「生まれ持ったものです。彼は20年を要することなく物事の重要性を理解し、その意味を心にとどめます。大半の問題について、ほかの人がまだ包みをはが

1996年

ソルトレークコミュニティカレッジから名誉文学博士号を授与される。

1997年

コタ州軍から「名誉民兵賞」(Minuteman Award)を授与される。

ブリガム・ヤング大学の「理想の人物賞」(Exemplary Manhood Award)を授与される。

1998年

モンソン姉妹とともに、セント・ジョセフ・ビラの慈善修道会から「人道支援継続表彰」(Continuum of Caring Humanitarian Award)を授与される(下)。



2000年

6つの神殿を奉獻する。

2003年4月24日

ブリガム・ヤング大学の卒業式で、同大学史上最多の卒業生に向けて話す。

2005年10月21日

BYUハワイ校の創設50周年を記念するディボーションで説教をする。

2007年

ロータリー国際大会で「特別世界人道支援賞」(Special Worldwide Humanitarian Award)を授与される。

ユタ大学から名誉経営学博士号を授与される。

そうと努力しているときに、彼は中身を食べ尽くしてしまっているのです。」ともに十二使徒定員会で働いた間、常にモンソン大管長の隣に座ってきたボイド・K・パッカー会長は、次のように語っています。「慎重に扱わなければならない問題を教会の評議会で注意深く話し合う舵取り役が必要だとするなら、トーマス・S・モンソンこそわたしがそのような務めに選ぶ人物です。」

十二使徒定員会で働いた間に、モンソン大管長は成人コーリレーション委員会、伝道管理委員会、および教会福祉管理委員会で委員長を務めました。モンソン大管長の福祉への関心は有名であり、教会がソルトレーク盆地だけでなく世界各地で地域の必要を満たす際の原動力となってきました。モンソン大管長の気遣いは、言葉だけの抽象的なものではありません。新しい衣服を買う余裕のない貧しい会員たちに、自分が着ていた衣服を脱いで実際に与えたことで知られています。モンソン大管長はよく隠れたところで奉仕をします。「とても多くのことをひそかにしてきました」と、娘のアンは言います。しばしば当事者がそうした経験を大管長の息子や娘に伝えます。「子供のわたしたちでさえ、父が行ってきた事柄をすべては知りません」とアンは述べています。

十二使徒の一員として、モンソン長老はリーダーシップ委員会の委員長も務めました。この委員会には、教会のプログラムについて中央幹部を訓練し、次に彼ら自身が学んだ事柄をステーク大会で伝えられるようにする、という責任があります。モンソン長老は、自身が主イエス・キリストの特別な証人の定員会において、前を歩む偉大な指導者たちから熱心に学ぶ優秀な教え子だったのと同じように、後に続いてきたわたしたちにとって意欲的で有能な教師となってきました。後に十二使徒定員会に召された者の一人として、わたしは(すべての兄弟たちとともに)、モンソン大管長から大いに影響を受けてきました。その熱意、細部への配慮、生涯の経験から彼自身が学んできた教え。ほ

かにも非常に影響を受けてきましたが、そこに並々なぬインパクトがあるのは、特に、若くして使徒に召された人物が長い年月をかけて得てきた教えだからです。わたしたちはモンソン大管長とのそのような交わりの中で、ソルトレーク・シティーの西側で彼が指導者として最初に接した友である会員たちが感じたのと同じように、彼のわたしたちに対する誠実さを感じてきました。

モンソン大管長は、20代前半から、教会の青少年のために務め、彼らを強める取り組みにかかわってきました。青少年の霊的な福利への関心は、行動となって現れてきました。例えば、1969年からボーイスカウトアメリカ連盟の全国理事会で働いており、その働きのゆえに、アメリカ全土および全世界におけるスカウトの最も栄誉ある章を授与されています。

教会の召しにおける働きを通じて、モンソン大管長は世界中の政府や実業界、市民活動の指導者に知られるようになりました。その人々から敬意を得てきたことにより、教会の力強い擁護者となってきました。モンソン大管長の業





上—BYUのディボーションで説教するモンソン大管長。
下—ソルトレーク・シティーで毎年行われる開拓者記念日のパレードで、
通りに並んだ人々に手を振るモンソン大管長とモンソン姉妹。
左—大管長とモンソン姉妹。
昨年、モンソン大管長の80歳の誕生を祝う席で撮影。

績の一つは、まだ旧ドイツ民主共和国が鉄のカーテンの向こうであったときに、その地に神殿を建設する許可を得たことです。また、ベルリンの壁が崩壊する以前に、末日聖徒の宣教師が同国を自由に出入りする許可を政府から得ることに、同様に成功を収めています。

モンソン大管長の務めは、記録されているとおりです。その記録は、老若を問わず忠実な末日聖徒に同じように喜びを与えてくれます。彼の説教や著作に出てくる、心を鼓舞する物語は、現代の「たとえ」とも言える特性を備えており、いつまでも人々に語り継がれています。物語の多くは、1994年に出版された『靈感を与え信仰を築く経験——トーマス・S・モン

ソンの生涯と務めから』(Inspiring Experiences That Build Faith: From the Life and Ministry of Thomas S. Monson)に収められています。目次に続くページには、「人々への務め」(“Service to Others”)という表題が書かれています。そして表題の下に、モーサヤ書第2章17節のよく知られた聖句が記されています。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである。」トーマス・S・モンソンの生涯と結びつくぴったりの聖句です。モンソン大管長はこの聖句を深く心に留めてきたからです。そして実践しているからです。

生涯の約束

モンソン大管長は1963年10月4日に自らが十二使徒定員会の会員として支持を受けた日に交わした約束を、長年にわたる務めを通じて守ってきました。中央幹部として初めてタバナクルで話したとき、次のように語りました。

「マッケイ大管長、今日わたしが心から祈るのは、わたしがいつも、大管長とこれらのわたしの兄弟たちに従えるようにということです。わたしは自分の命と持ち得るすべてのものをかけて約束します。能力の限りを尽くして、あなたに望まれる人物になるように努めます。わたしは救い主イエス・キリストの次の言葉に感謝しています。

『わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい……るであろう。』(黙示3:20)

兄弟姉妹の皆さん、わたしは自分の人生が救い主のこの約束に値するものとなるよう、心から祈ります。」

今、教会を導くに当たり、恐らくモンソン大管長はわたしたち皆に対して、2007年9月の中央扶助協会集会で姉妹たちに語ったことを述べるでしょう。「自分の力に見合った務めを祈り求めるのではなく、務めを果たせるだけの力を求めてください。そうすれば、皆さんの働きよりも、皆さん自身が奇跡となるでしょう。」また、自分には資格がない、あるいは自分は無力であると言う人に対して、モンソン大管長はさらに1996年4月の総大会で教えたことを付け加えるでしょう。「忘れないでください、この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の業なのです。わたしたちは主の用向きをもって働くときには、主の助けを受ける特権があります。主から召さ



2008年2月3日

末日聖徒イエス・キリスト
教会の第16代大管長と
して任命される。

2008年2月10日

アイダホ州レックスバーク
神殿を奉献する(下)。



**2008年2月4日, 教会執務ビルでの記者会見で,
モンソン大管長は教会の大管長として,
第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長(左),
第二顧問のディーター・F・ワークトルフ管長とともに
紹介された。**

れる人は、主によって適格な者とされることを
忘れないでください。」彼を知るすべての人に
とって、主がトーマス・S・モンソン大管長を現
在の召しを受けるにふさわしい者としてお
られることは明らかです。

大管長会に召された1985年、モンソン
大管長は親族に回顧録を贈っています。
その中で次のように書いています。「人生
を振り返ると、愛にあふれた天の御父の
導きを容易に認めることができます。神
の絶え間ない配慮と約束された祝福が、
わたしにとってありがたい贈り物となっ
てきたことを証します。わたしの人生は、神

の次の言葉とともにありました。『わたしはあな
たがたに先立って行こう。わたしはあなたがた
の右におり、また左にいる。わたしの御霊はあ
なたがたの心の中にある。また、わたしの天
使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたが
たを支えるであろう。』(教義と聖約84:88)

愛する妻フランシスと子供たちや孫たちへの
感謝を述べた後、モンソン大管長は次のように
結んでいます。「わたしがいつも『主の用向きを
受けて』いられますように。」

23年前に語られたその祈りを込めた願ひ
は、今、確かな実を結びました。トーマス・ス
ペンサー・モンソンは、神の召しにより、こよなく
愛する救い主が先に行われたように、残りの生
涯を「よい働きをしながら……巡回」して過
すことでしょう。その神聖な務めを日々導く、大
好きな絵から靈感を受けながら、救い主の足
跡をたどることでしょう。■



06823 300